

# 聖徒の道

10  
1997

末日聖徒イエス・キリスト教会



# 聖徒の道



## 表紙

ドイツのフランクフルト神殿で働く、ユタ州ドレーパー出身のポール・コナーズ、シャーリー・コナーズ夫妻。夫婦宣教師は、デビッド・B・ヘイト長老が「夫婦宣教師―『教会のかけがえない働き手』」の中で語っているように、「ほんとうに必要とされている」。26ページ参照。(写真撮影/スコット・パン・カンペン)

## こどものページ

「うずらのほかく」部分、C.C.A.クリステンセン画。13ページの「アイオワ横断」を見ましょう。©courtesy Museum of Art, Brigham Young University; all rights reserved.

## 一般

- 2 大管長会メッセージ―「主はわたしの魂をいきかえらせ」  
第二副管長ジェームズ・E・ファウスト
- 22 自立 ローラディーン・リンゼイ
- 26 夫婦宣教師―「教会のかけがえない働き手」 デビッド・B・ヘイト
- 34 パレンケで再開された主の業 マービン・K・ガードナー
- 40 カンボジアに根を下ろす福音 リランド・D・ホホワイト、ジョイス・B・ホホワイト

## 青少年

- 6 思いがけないバプテスマ バート・L・アンダーセン
- 8 わたしのおじいちゃんは預言者  
ジャネット・トーマスに語った言葉を基に編集
- 16 ハネムーン・トレイル デビッド・E・ソレンセン
- 20 祝福師の祝福を受けた日 バレリア・サレルノ
- 38 盲人から学んだこと ローヘリン・セリス
- 46 ぼくのイルカ アイザック・ピメンテルがエリザベート・サムウェーズ・ゲートナーに語った言葉を基に編集

## 定期特別記事

- 1 読者からの便り
- 14 生ける預言者の言葉
- 25 家庭訪問メッセージ―御霊の力によるコミュニケーション

## こどものページ

- 2 モルモン書物語―へいわなアメリカ
- 4 分かち合いの時間―ジョセフ・スミス―ゆうきあるかみのしもべ  
カレン・アシュトン
- 6 イエスのように―必要とされることを行う
- 8 開拓者の旅ゲーム レベッカ・トッド
- 10 ピーナツ競争 ロザリー・A・サイパート
- 13 たんけん―アイオワ横断 シェリー・ジョンソン
- 16 開拓者の旅ゲームの遊び方 レベッカ・トッド

8ページ参照



34ページ参照



38ページ参照



46ページ参照

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本誌は以下の言語で出版されています。月刊——イタリア語、英語、オランダ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語、ノルウェー語。隔月刊——インドネシア語、タイ語。季刊——チェコ語、ブルガリア語、ハンガリー語、アイスランド語、ロシア語。

**大管長会:** ゴードン・B・ピンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト  
**十二使徒定員会:** ボイド・K・バックナー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング  
**編集長:** ジャック・H・ゴースリン  
**顧問:** ジェイ・E・ジェンセン、ジョン・M・マドセン

**教科課程管理部責任者**

**実務部長:** ロナルド・L・ナイトン  
**企画・編集ディレクター:** プライアン・K・ケリー  
**グラフィックスディレクター:** アラン・R・ロイ  
**ボーグ**

**国際機関誌スタッフ**

**編集主幹:** マービン・K・ガードナー  
**編集主幹補佐:** R・バル・ジョンソン  
**編集副主幹:** デビッド・ミッチェル、ディエーン・ウォーカー  
**編集補佐:** ジェニファー・グリーン・ウッド  
**工程管理:** メアリー・アン・マーティンデル  
**出版補佐:** ベス・デーリー

**デザインスタッフ**

**機関誌グラフィックスディレクター:** M・M・カワサキ

**アートディレクター:** スコット・バン・カンペン  
**デザイナー:** シェリー・クック  
**制作主幹:** ジェーン・アン・ピーターズ  
**制作:** レジナルド・J・クリステンセン、デニス・カービー、マシュー・H・マックスウェル  
**予約販売スタッフ**

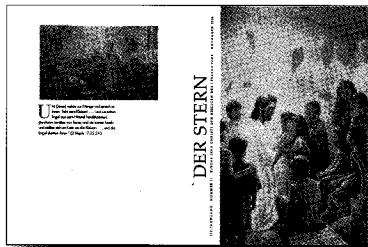
**ディレクター:** ケイ・W・ブリックス  
**配送部長:** クリス・クリステンセン  
**マーケティング部長:** ジョイス・ハンセン  
 聖徒の道1997年9月号第41巻第10号  
 発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会  
 〒106東京都港区南麻布5-10-30  
 電話 03-3440-2351  
**印刷所** 株式会社 リック  
**定価** 年間予約/海外予約2,400円(送料共)  
 半年予約1,200円(送料共)  
 普通号/大会号200円

Copyright©1997 by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved. Printed in Japan. 英語版承認—1995年9月 翻訳承認—1995年9月 原題—International Magazines October, 1997. Japanese. 97990 300

●定期購読は、「『聖徒の道』 予約申し込み用紙」でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて資料管理部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●『聖徒の道』のお申し込み・配送についてのお問い合わせ…〒133東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会資料管理部配送センター☎03-5668-3391

The *Seito No Michi* (ISSN 0385-7670) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150-3223, U.S.A. and Canadian subscription price is \$14.00 per year. SIXTY days' notice required for change of address. INCLUDE ADDRESS LABEL FROM A RECENT ISSUE; CHANGES CANNOT BE MADE UNLESS BOTH OLD ADDRESS AND NEW ONE ARE INCLUDED. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, P.O. Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368, USA. SUBSCRIPTION HELP LINE: 1-800-453-3860, U.S. EXT. 2947; CANADA EXT. 2031. CREDIT CARD ORDERS (VISA, MASTERCARD, AMERICAN EXPRESS) MAY BE TAKEN BY PHONE. PERIODICALS POSTAGE PAID AT SALT LAKE CITY, UTAH.

**POSTMASTER:** Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, P.O.Box 26368, Salt Lake City, Utah 84126-0368, U.S.A.



**新たな力**

『デア・シュテルン』(ドイツ語版。「星」の意)が手もとに届けられると、いつも、美しい写真を眺め、教会指導者や信仰深い会員の記事や証を読み、日々の試練を乗り越えるための新たな力を得ます。また、よそのワードで行ったすばらしい活動についての記事を熱心に読み、自分の所属する支部で取り入れることのできるアイデアを探しています。

1996年11月号に目を通し、幾つかの記事を読み終わったとき、この機関誌に掲載されているすべての内容が、イエス・キリストの真実の教会によってもたらされたものであるとの確信をさらに強めました。この教会の会員であることは、実に大きな祝福です。

ドイツ、ハンブルクステーキ、シュターデ支部

ヒルデガート・フックス

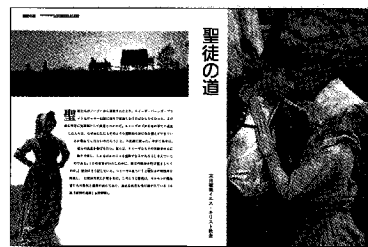
**機関誌の研究**

専任宣教師として奉仕していて、『リアホナ』(スペイン語版)の研究に、いっそう興味を抱くようになりました。毎月届けられるこの機関誌をこよなく愛しています。

数か月前に、ある宣教師から1978年発行の『リアホナ』を譲り受けました。その日から1か月間、毎晩寝る前にその『リアホナ』を読みました。大会説教の特集号で、わたしにとって特別な価値がありました。

6年前にバプテスマを受けて以来、この教会が真実の教会であるという証は日々強められています。

ニカラグア、マナグア伝道部、ハシユア・エルナンデス長老



**日々の記録**

『聖徒の道』を読むと、天父がわたし一人一人を愛してくださっていることが分かります。天父がわたしそれぞれに何を望んでいらっしゃるかも理解できます。

それぞれの記事に対する感想を、機関誌の各ページの余白に書き込むようにしています。書き込みのある機関誌は、まるで日記の一部のようです。

京都ステーキ、彦根ワード、下川 光男

「質疑応答」のコーナーでは、福音に関連した質問への回答を、青少年の読者の皆さんから募集しています。このコーナーをさらに有益なものとするために、次の質問に対する皆さんの意見をお寄せください。1997年12月1日必着で、下記までお送りください。

**QUESTIONS AND ANSWERS**

International Magazines  
 25th Floor, 50 East North Temple Street,  
 Salt Lake City, Utah, 84150, U.S.A.

回答は日本語でお寄せください。ワープロ、手書き、いずれでもけっこうです。手書きの場合は、かい書ではっきりと書いてください。氏名、年齢、住所、所属のステーキ/地方部、ワード/支部名を明記し、できれば写真を同封してください。ただし返却は致しかねます。頂いた回答の中から代表的なものを選んで、「読者からの提案」として掲載させていただきます。

質問——問題が山積する今の世の中で、人生に対してとかく否定的な考え方を抱きがちです。わたしたちを取り巻く否定的な影響力に打ち勝つために、どうすればイエス・キリストに対する信仰をばぐむことができるでしょうか。

# 「主はわたしの魂を いきかえらせ」

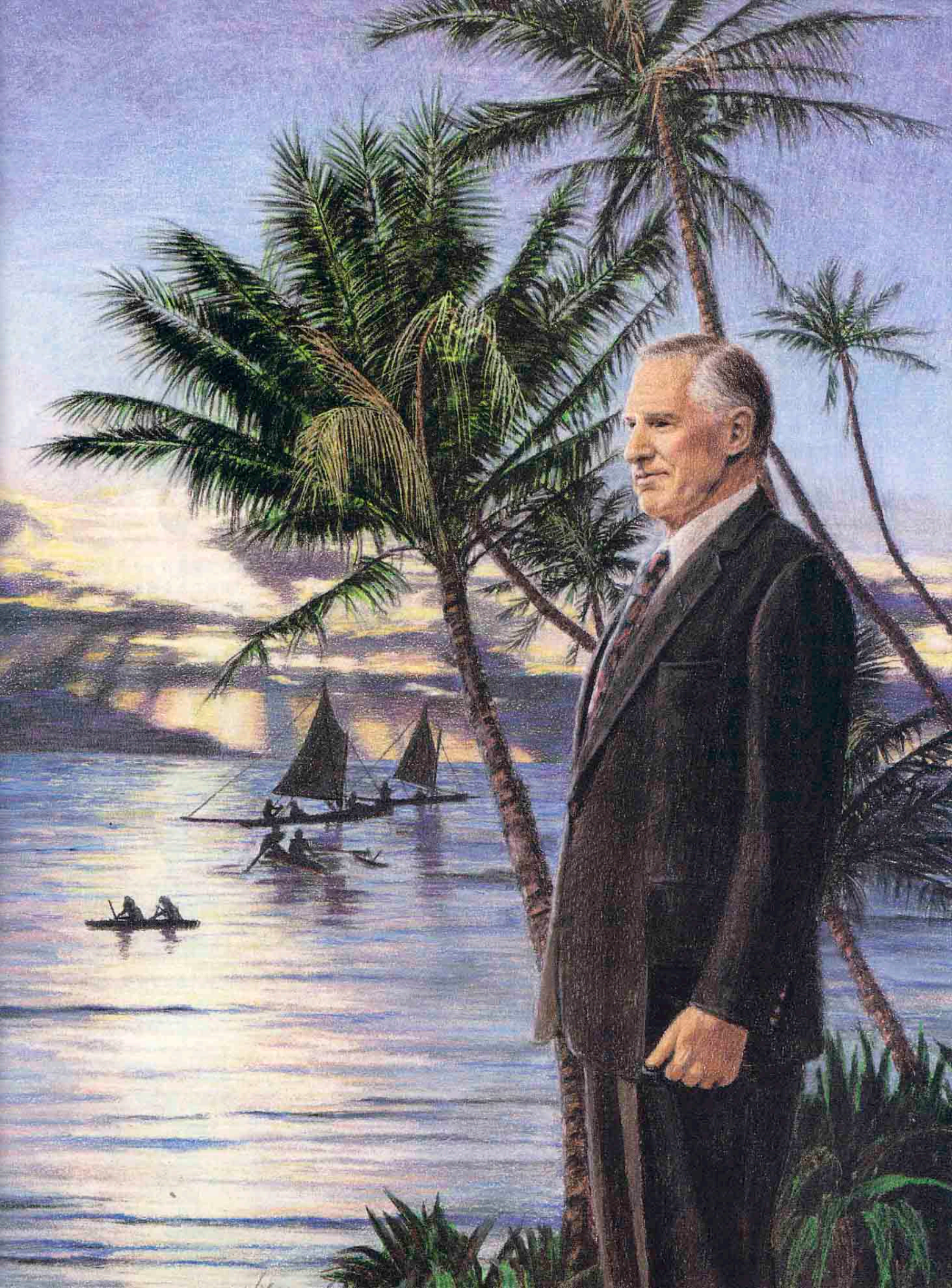


あの特別な朝にわたしが感じた安らぎと幸福感は、その島と海が織り成す美しい光景そのものからだけではなく、神が生きておられるとの知識がもたらす心の平安と力と安心感……によるものでもあったのです。

第二副管長  
ジェームズ・E・ファウスト

あの日の早朝、わたしはタヒチの島の小高い丘に登りました。プライ船長（訳注——1754-1817年。著名なイギリスの海軍将校）が「バウンティー号」の錨を下ろした、輝くばかりに美しい湾を見下ろせる場所です。そこで日の出を見たいと思いました。早朝の柔らかな光の中で、モーレア島、つまりミュージカル『南太平洋』で有名になった小さな島、バリハイが海面から突き出ている様子が見渡せます。水面はあくまでも穏やかで、火山性の黒い砂浜に白い波が碎けるさまは、まるでチョコレートケーキに白いクリームをかけたようでした。水平線のかなたには入道雲が、まさに昇ろうとしている太陽からの鮮明な一筋の光に照り輝いています。漁師たちはその日の豊漁を願いながら、舟で沖へとこぎ出します。パペーテの町は、早起きの人たちが朝食の準備をしているのでしょう。灰色のもやに包まれています。

それは、非の打ち所のない完璧な情景に見えました。神が創造された最も美しい光景の一つです。このような美しい自然の中にたたずんできると、神との隔たりを感じません。この美しく穏やかで平安な、心に安らぎを覚える光景に浸りながら、わたしの魂は生き返るかのようでした。そして思い浮かべたのが、詩篇第23篇の聖句です。「主はわたしを緑の牧場に伏させ、いこいのみぎわに伴われる。主はわたしの魂をいきかえらせ、み名のためにわたしを正しい道に導かれる。」（詩篇23：2-3）



わたしは気づきました。あの特別な朝にわたしが感じた安らぎと幸福感は、その島と海が織り成す美しい光景そのものからだけではなく、神が生きておられるとの知識がもたらす心の平安と力と安心感、それに地上において主の業が行われているとの証あかしによるものでもあったのです。場所は問題ではありませんでした。大切なのは、自分が何者であり、なぜそのような思いを得たのかということでした。先ほどの偉大な詩は、神がわたしたちの魂を生き返らせてくださることを教えてくれています。わたしたちの心は、主の戒めを守り主に仕えることにより救い主を知るときに満たされるのです。

ジョセフ・スミスがわたしたちに授けてくれたのは、神の回復のメッセージだけではありません。直接神と心を通わせる具体的な手段も与えてくれました。若きジョセフは生活の中で混乱を感じていたことをこう述べています。「[わたしは] 極度に難しい事情の下で苦しんでいた……。」(ジョセフ・スミスー歴史1:11) 彼は聖文から導きを求めるように駆り立てられました。そして、ヤコブの手紙の中に次の聖句を見つけたのです。「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。」(ヤコブの手紙1:5) 若きジョセフはこう言っています。「とうとうわたしは、暗闇と混乱の中にとどまるか、それともヤコブが指示しているとおりに行うか、すなわち神に願い求めるか、どちらかにしなければならぬという結論を出すに至った。」(ジョセフ・スミスー歴史1:13) ジョセフが同じヤコブの次の言葉を読んでいたことは疑いの余地がありません。「ただ、疑わないで、信仰をもって願い求めなさい。疑う人は、風の吹くままに揺れ動く海の波に似ている。」(ヤコブの手紙1:6) ジョセフはひざまずいて心の願いを主に祈りました。そして、格闘と闇の時間に続いて、神のメッセージの光がもたらされたのです。答えと指示は完璧かんぺきなものでした。これこそが、今の時代の混乱や難しい問題への神の答えを求めするための方法ではないでしょうか。

そこで、4つのステップを提案したいと思います。

第1に、可能であれば『モルモン書』と近代の聖典を中心に聖文を毎日研究してください。

第2に、毎日祈りましょう。

第3に、神からの答えに耳を傾けましょう。

第4に、その答えに従順であってください。

わたしはブラジルのカンピナスでのステーキ大会で、才気あふれる、有能で魅力的なステーキ扶助協会会長、ビルマ・フィゲレダ姉妹の証を聞いて、心が洗われる思いでした。彼女は宣教師から初めて福音のメッセージを聞いたとき、この教会が真実であることを直接の啓示を通して知りました。姉妹は、そのときの胸の高鳴りについて話してくれたのです。彼女は文字どおり再び生まれました。それも力と確信、そして福音の癒しと清めのメッセージを知人やほかの人々に伝えたいとの望みをもって再び生まれたのです。彼女は玉砂利を敷き詰めた道も舗装された歩道も、隅から隅まで歩き回りました。擦り減った靴を毎月取り替えなければならないほどでした。当時教会員でなかった彼女のご主人は、貧しい家計に大きな負担がかかることを心配して、彼女にこう言いました。「教会の方で靴を買ってくれることぐらいでもいいんじゃないの。」彼女の靴の底は擦り減っていました。でも、彼女の魂は生き返っていたのです。

わたしたちはだれでも、聖霊の力を通して直接の証を得ることができます。それはじかに情報や啓示を受けることができる泉のようなものです。詩篇の作者は言いました。「あなたはわたしの敵の前で、わたしの前に宴いひを設け、わたしのこうべに油をそそがれる。わたしの杯さかづきはあふれます。」(詩篇23:5)

イエスはこう説かれました。「もしだれでもわたしを愛するならば、わたしの言葉を守るであろう。そして、わたしの父はその人を愛し、また、わたしたちはその人のところに行って、その人と一緒に住むであろう。」(ヨハネ14:23)

世の多くの人々は、慈しみと良識いっくにおいて大いに魂を生き返らせる必要があります。いつのときにも、どのよ

うな状況にあっても、謙遜に、賢く、確信をもって自分たちの信じる<sup>いっつ</sup>ところを実践する個人個人の教会員によって、大いなる慈しみがもたらされるのではないのでしょうか。慈しみと良識についてのこの魂のよみがえりは、「被害者のない犯罪」なるものは存在しないことを、勇気をもって、筋道を立てて主張する若き弁護士によりもたらされます。また、親の都合で行う堕胎を個人の立場から拒否する医師によりもたらされます。さらに、歴史や化学、数学を教えながら、個人としての道義的な責任や公民としての義務について自分自身の体験を若人に伝える教師によって、魂のよみがえりがはぐくまれるのではないのでしょうか。妥協することならびに人に妥協を許

すことを拒むビジネスマンによって、それははぐくまれないのでしょうか。また、教会員全員がポルノグラフィーを販売する店の顧客になることを拒むことが、助けにならないのでしょうか。そして、行政府にあつて榮譽と信頼を託された地位にある人々が、個人の榮譽と高潔さの標準に基づいて行動することにより、皆の模範とならないのでしょうか。

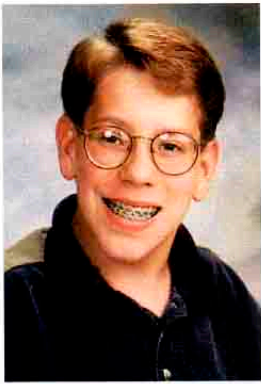
以上述べた事柄は、別の意味での改革の始まりとなるでしょう。人の意識と意図の改革です。これは静かな改革であり、個人がそれぞれ自立し、勇気をもって自らの良心が安らぎを覚えるような行動を取ることを伴うものです。こうした倫理的な勇気は人の信用を高めこそすれ、滅ぼすものではありません。わたしたち自身の良心と信念に合った行動は、わたしたち自身の心の平安と安心感の基礎となるものです。

自らの良心に添った行いをしようとしているすべての人々が、心に平安を得られるように祈っています。そして、自らの魂が生き返ることを求める人々が皆、救い主の次の言葉を心に留めることができるように願っています。「あなたの信仰があなたを救ったのです。」(マタイ9:22) わたしたちが一度この信仰を持てば、詩篇第23篇にある偉大な約束はわたしたちのものとなることでしょう。「わたしの生きているかぎりは必ず恵みといつくしみとが伴うでしょう。わたしはとこしえに主の宮に住むでしょう。」(詩篇23:6) □

### ホームティーチャーへの提案

1. 心の平安と力と安心感は、神が生きておられるとの知識と地上において主の業が行われているとの証<sup>あかし</sup>からもたらされる。
2. 神からの答えを得る4つのステップは、聖文を可能なかぎり毎日研究し、日々祈り、神からの答えを求め、その答えに従順になることである。
3. 慈しみと良識は勇気をもって福音の教えに従うときにわたしたちの魂によみがえる。





# 思いがけない バプテスマ

パート・L・アンダーセン

ILLUSTRATED BY MIKE MALM

**水** 曜日に発表があり、ワードの若い男性が死者の身代わりのバプテスマを受けに行くことになりました。「ぼくは無理だな」と、あきらめました。ぼくが行くのは無理だと分かっていたので、このことはそれっきり考えもしませんでした。ぼくは小児まひなのです。

若い男性が神殿に行く日、母が車でぼくと弟のポーを学校に迎えに来て、こう言いました。「監督が5時半に迎えに来るから、急いでね。」お母さんは弟にだけ話しているのだと思い、ぼくはあまり気に留めませんでした。

するとお母さんは言いました。「パート、あなたも急いでちょうだい。御飯を食べてシャワーを浴びたら、教会に着ていく服に着替えるのよ。」

「えっ？ ぼくも行くの？」

「監督さんは、あなたを置いて行きたくないとおっしゃるのよ。あなたも一緒に行って、ほかの子供たちのバプテスマを見たらきっとすばらしいだろう、と言ってくれたの。」ぼくも神殿に行けるなんて！ とても信じられない気持ちでした。

急いで出かける準備をしながら、ぼくは思わずニコニコしていました。神殿に行けると考えただけでうれしくなりました。教師定員会アドバイザーのリック・ハンセン兄弟がバンで神殿へ連れて行ってくれました。車いすはバンにぴったりと入りました。

神殿はとても美しく、みんなが言うとおおり、神殿の中にはとても強い御霊みたまがありました。ほかの人たちがバプテスマを受けるのを見ながら、ぼくも受けられたらいいのになあ、と思っていました。

するとそのとき、ホームー監督が来てこう言ったのです。「さあおいで、着替えをしよう。」

監督が何のことを言っているのか、どこへ行こうとしているのか、よく分かりませんでした。監督はぼくを神殿職員用の特別な更衣室へ連れて行きました。監督とリ

ックがバプテスマ用の服をぼくに着せる方法を少し考えた後、とてもうまく着せてくれました。自分の姿を見ながら、白い服装って何てすてきなんだろうと思いました。

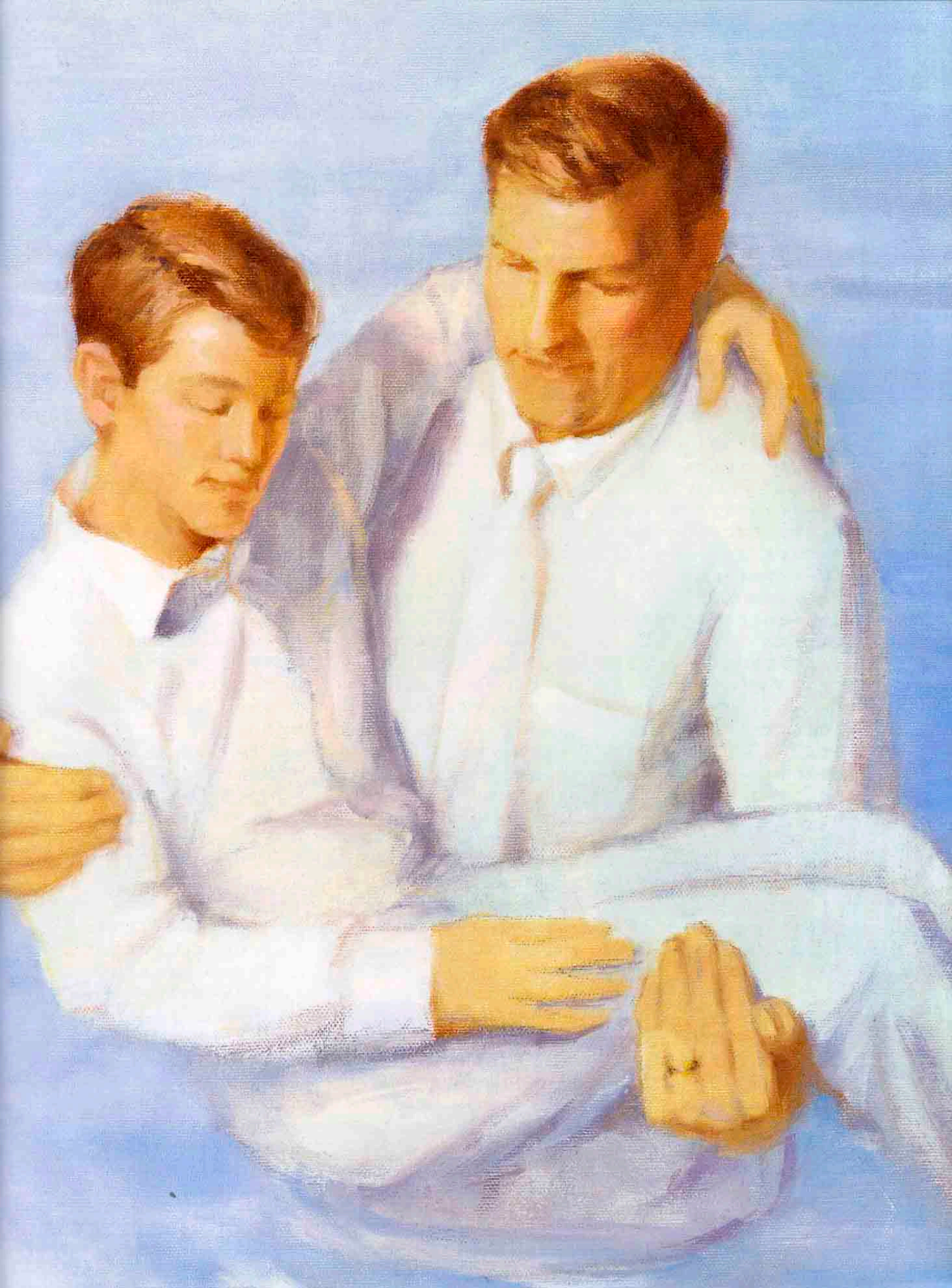
そしてぼくの名前が書いてあるカードを神殿職員の人からもらいました。監督はぼくをバプテスマフォントの方へ連れて行き、ぼくは順番を待ちました。座って待っている間、特別な気持ちになりました。天井を見上げながら、天の御父がこの機会を与えてくださったことに感謝しました。またぼくが身代わりになってバプテスマを受ける人々のことについて考えてみました。ぼくが身代わりをすることを、彼らはどう思っているのでしょうか。

ついに順番が来ました。ピンを落としてもよく聞こえるくらい、とても静かです。みんなに注目されているような気がしました。監督がぼくを抱え上げてバプテスマフォントの中へ入れてくれます。監督とリックの二人がかりで施してくれましたが、それはぼくの胴体が定まらず、手足が硬直していたからです。一人の儀式が終わる度にぼくがちゃんと呼吸をしているか、監督は確かめてくれました。合計5人のバプテスマをぼくは受けました。それから監督とリックはぼくを着替えさせて、車いすに戻してくれたのです。監督は、自分のくしでぼくの髪をとかしてもくれました。弟のポーの話によると、更衣室からぼくを出してくれたとき、監督の顔は汗でびしょりだったそうです。ぼくの着替えの世話がどんなに大変か、監督が知っていたかどうかは知りません。

確認の儀式のとき、体中が温かくなり、ぼくは思いました。「教会が真実であることを疑える人がいるだろうか」と。監督がぼくのことを気にかけてくれて、神殿でバプテスマを受ける機会を与えてくれたことに感謝しています。神殿の中はとてもきれいです。神殿の中で感じた強い気持ちのおかげで、教会が真実だと分かりました。

□





# わたしのおじいちゃんは 預言者

ジャネット・トーマスに語った言葉を基に編集

ジョディー・ヒンクレーは17歳。彼女はテニスをしたり、友達と一緒に過ごしたりするのが大好きです。兄がドイツのフランクフルト伝道部で伝道中で、そばにいないのを寂しく思っています。ジョディーは特にソルトレーク・シティーに住むようになってから、初対面の人に「大管長と親戚か何かなの？」と聞かれることがよくあります。

そのようなときに彼女は「はい」と答えます。ジョディーの祖父ゴードン・B・ヒンクレーは預言者であり、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長です。

大管長の孫はジョディーだけではありません。彼女は大管長夫妻の25人の孫の中の一人です。その25人の中の約半数は10代の青少年か宣教師としての生活をしています。教会のほかの若人と同じ様々なチャレンジを日々経験しています。

監督やステーク会長の子供たちの中には、父親の立場上、自分も完全でなくてはならないとプレッシャーを感じる人たちもいます。ヒンクレー大管長の孫たちは、はたしてどうなのでしょう。彼らもほとんどが同じ気持ちだと認めています。周囲の人々から完全さを期待されたり、自分たちの失敗に注意深い視線が注がれたりするのを感じることもよくあると言います。でも彼らは祖父が自分たちを愛し心にかけていることをよく知っています。そし

て、そのことが彼らの生活に大きな影響力を及ぼしています。

19歳のケティー・バーンズはこう言っています。「わたしにとっては、まず自分たちのおじいちゃん、次に預言者という順番です。ほかの人たちにはピンと来ないようですけど。」

「祖父がいつも孫たちに聖典の言葉を引用して話しているとか、わたしたちはいつも何か霊的に意味の深いことを話していると考える人もいます。でも、どこにでもあるおじいちゃんと孫の会話ですよ」とは、17歳のジェシカ・ダッドレーの弁です。

ヒンクレー大管長は多忙を極めていますが、孫たちとはよく顔を合わせています。17歳のジェームズ・ピアスは「2週間に1度くらいは会っていますよ」と話しています。ヒンクレー大管長夫妻の子供と孫たちは少なくとも月に1度は一緒に家庭の夕べを開いています。そして彼らは特に事前の約束をせずに祖父の事務所を訪ねたり、アパートにいるヒンクレー姉妹に会いに行ったりすることもあります。孫たちのほとんどは、祖父が話をする予定の行事や神殿の奉獻式などに一緒に出席した経験があります。

しかし、孫たちは大管長をどのような人と受け止めているのでしょうか。

19歳のスペンサー・ヒンクレーは「とても楽しい人」と言います。

20歳のアン・ヒンクレーはこう話してくれました。「おじいちゃんは、人

を笑わせる話をするのが好きです。でもほかの人を笑い物にするような話はしません。自分のことでおかしな話を聞かせてくれます。ですから自然とわたしたちも、そういう話をするようになります。」

ケティーの話によるとこうです。「おじいちゃんの話はいつ聞いてもおもしろいです。おじいちゃんは笑いすぎるものだから、話を最後までするのが大変なんです。笑い続けているから、息をつくのが大変なんです。それを見て、またわたしたちも笑ってしまうんですよ。」

ヒンクレー大管長は楽しい話が好きですが、孫たちのことはもっと好きです。いつも孫たちの生活に関心を持っています。ジェシカは祖父が自分に会ったときにどういう言葉をかけてくれるかを次のように話しています。「『元気になっている？』『うまくやっている？』『学校はどう？』『デートはどうだった？』『毎日楽しくしている？』どんなに忙しくても、わたしと会ったら、話を聞いてくれるんです。」

13歳のサラ・ダッドレーの話はこうです。「わたしはサッカーをしているんだけど、おじいちゃんは土曜日には必ず『試合どうだった？』って聞いて

ジェシカ・ダッドレー（17歳）は深い愛と思いやりを持つ祖父、ゴードン・B・ヒンクレー大管長と一緒に過ごせる時間を大切にしている。





結婚して60年になるヒンクレー大管長夫妻が多くの孫やひ孫に囲まれ、部屋の中は笑いと楽しさにあふれる。孫の中の二人は今、専任宣教師として伝道中。

てくるわ。それで『負けちゃった』って言うと、『そう。大丈夫、試合はまたあるさ』ってほんとうに気持ちを前向きにしてくれるのよ。』

20歳のエイミー・ピアスはこう話してくれました。「祖父はわたしたちのことをとでも気にかけてくれています。わたしたちがどんな状態かをいつも理解しているんです。でもわたしたちの自主性を尊重してくれています。」

ヒンクレー大管長は孫たちのことを心にかけ、彼らがぶつかっている様々

な問題についても心配しています。エイミーは自分がつらい思いをしていたときのことをこう話しています。「祖父は毎晩、わたしのために祈っていました。そして神殿の祈りの名簿にわたしの名前を載せてくれました。本人からは聞いていませんけど、母がそのことをわたしに教えてくれました。そんなに自分のことを心配してくれる人がいるって、ありがたいことですよ。ほんとうにうれしかったです。祖父はわたしが問題を克服するって信じていてくれたんです。」

事実、ヒンクレー大管長は孫たちに対して、何か心配なことがあるときはいつも前向きに考えるように助言しています。ジェシカはこう話しています。「おじいちゃんはいつも前向きです。

一生懸命頑張りなさい、ベストを尽くしなさい、祈りなさい、そうすればどんなこともうまくいくって、わたしたちに言います。」

### 楽しいおばあちゃん

彼らにとっては、祖母も特別な人です。ヒンクレー姉妹がどのような人かを尋ねると、孫たちは皆同じ反応を見せました。彼らは自分たちの祖母について少し考えると、申し合わせたように満面の笑みを浮かべ、それぞれの思いを話してくれました。

ジョディーはこう話しました。「わたしたちいつも言っているんです。わたしたちがおじいちゃんをこんなに好きなのは、おばあちゃんと結婚したからだって。皆、おばあちゃんのことを



心から愛しています。」

ジェームズが「おばあちゃんはいつもニコニコしてる」と付け加えました。

アンはこう言っています。「祖母は不思議な魅力のある人です。背は低い方で、小柄です。気難しいところは全然ありません。いつも幸せそうにしています。世の中のことをとても客観的に、ありのままに見ています。楽しいおばあちゃんですよ。」

13歳のジョセフ・ヒンクレーは「おばあちゃんとはとても話し好き。おばあちゃんと一緒になら、どこへ行っても楽しい」と評しています。

最後にジェシカがこう締めくくりました。「わたしたちおばあちゃんのことなら、何時間だって話せます。」

ヒンクレー姉妹はよく夫の旅に同行

して、世界各地の教会員と顔を合わせています。彼女はどこへ行っても孫たちのことを忘れず、世界のあちこちから一人一人に手紙を出してきました。

クリスマスには、子、孫、ひ孫たち全員にいろいろなクリスマスカードを送っています。それぞれの家族が彼女からたくさんのカードを受け取るので、すぐにカードを飾るドアが埋まってしまうのです。

クリスマスの直前に、ヒンクレー姉妹は孫たちのために特別なクリスマスパーティーを開きます。テーブルにはきれいな食器に盛られたごちそうが並びます。孫たちの親はこのパーティーにはだれも招かれません。孫たちだけのためのパーティーなのです。そしてクリスマスイブには、すべての家族が集まり、降誕劇が演じられます。サラの話によると、「おじいちゃんが話を読んで、わたしたちが劇をする」のだそうです。今ではひ孫にも番番があると言います。間に合わせのかいばおけに寝かせられる生まれただけのイエスの役がそれです。

### 新たに召された預言者

ハワード・W・ハンター大管長が亡くなった日は、ヒンクレー家の孫たちにとって記憶すべき日となりました。彼らはハンター大管長の預言者としての任期がそれほど短かったことを悲しく思いました。そして彼らは、やがて自分たちの祖父の肩に懸かる大きな責任のことを思うと、少し気がかりでした。彼らは十二使徒定員会の会長である祖父が、次の大管長になることを理解していました。

ハンター長老の死が伝えられたころ、ジョセフ・ヒンクレーとスペンサー・ヒンクレーは父親と一緒にバックパッキングの旅をしていました。そのときのことをジョセフは次のように話しています。「ぼくたちがある町に入ると、どこを見ても半旗が掲げられて

いました。それを見て父さんは何が起こったかすぐに分かったみたいです。大きなため息をついていました。」

ヒンクレー大管長が預言者として教



ジェームズとエイミーはいつ祖父の事務室を訪れても、温かく迎え入れられる。

会員の支持を受けた聖会で、孫たちも皆それぞれの立場で、新しい大管長を支持する挙手をしました。16歳のアダ・ヒンクレーはそのときの気持ちをこう話しています。「手を直角に挙げて、自分のおじいちゃんでもある大管長を支持するのは、すばらしい経験でした。皆が『感謝を神にささげん、預言者の導き』と歌っているのを聞いて、少し圧倒されてしまいました。だって、自分のおじいちゃんのことを皆が歌っていたのですから。」

アダは、教会の多くの若人の成長の助けとなった経験は、自分自身が、祖父が主の預言者であるという証を得るうえでも役に立ったのだ、ということを理解しました。彼女は中央若い女性の集会に出席しました。その会のテーマは預言者について証を得るということでした。「おじいちゃんが預言者で、教会を導いているという証を得るのにとっても役立ちました。わたしもそのことへの証を持っています。」

ケティーはこう証しています。「わたしは祖父を自分のおじいちゃんとしてではなく、預言者として支持してい

ます。預言者が自分の祖父かどうかと  
いうことに関係なく、教会が真実かど  
うか自分で理解しなければなりません。  
わたしはそのこと

を確信しています。』

彼らは、教会の大管長として支持さ  
れた祖父に生じた変化に気づいている  
でしょうか。ジェームズはこう言  
います。「最初おじいちゃん  
は穏やかでとても謙遜  
になっていました。」

アダの答えはこ  
うでした。「おじ

いちゃんは、独りでいる時間が長くな  
りました。謙遜というのはすばらしい  
言葉だと思います。わたしがおじい  
ちゃんの孫だと知らない人たちがおじ  
いちゃんのことを話すのを聞いている  
と、とてもうれしくなります。皆ほん  
とうにおじいちゃんのことを愛してく  
れています。」

ジェシカは、祖父が話をするときの  
変化を強く感じています。「大会で見  
ていると、預言者としての権威が授け  
られているのが分かります。」

夫に同行して世界中を旅するヒンクレイ姉妹は、様々な  
文化に接している。彼女は孫たちによく自分の体験を話  
して聞かせ、おみやげをプレゼントする。



エイミーも同意してこう言います。「祖父が話し始め、とてもすばらしいメッセージを伝えるのを聞いていると、『すごい』と思います。事務所を訪ねて会っても、両方に見えるんです。つまり、おじいちゃんと預言者の両方に。」

彼らの祖父は要職にある人、また大きな影響力のある人、指導者と言われる人々によく会いますが、彼の目にはどのような人もありのままの人間として映ります。エイミーが次のような話をしています。「祖父が合衆国の大統領や同じような立場の人に出会ったとき、わたしたちが『ドキドキした?』と聞くと、『彼も皆と同じ人間だよ』と言います。祖父は社会的な地位や権威で人を区別したりはしません。すべての人を平等に考えています。大統領に会っても、家庭の主婦に会っても、接する態度は同じです。」

ジェームズも「そう。おじいちゃん はだれに対しても敬意を払うんです」と付け加えて言いました。

### 若者の心を知る預言者

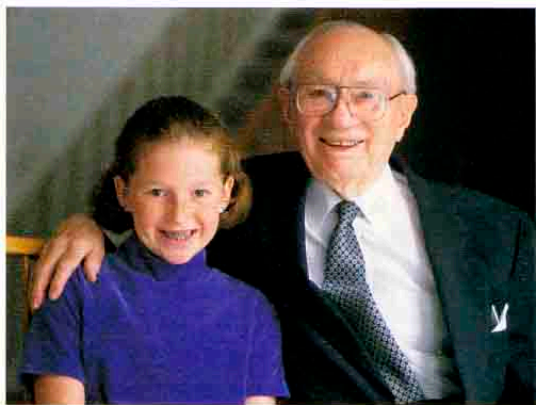
ヒンクレイ大管長の孫たちに、彼らの祖父である預言者が、現代が10代の若者たちにとってどんな時代かを理解していると思うかと尋ねたら、彼らはすぐに、自信をもって答えることでした。ケティーはそのことに関してこう語っています。「祖父はわたしたちの世代について否定的な考え方を少しもしていません。ほんとうに肯定的な見方をしています。若かったらいいのにと考えているんじゃないかと思うことがよくあります。」

「祖父は若い人たちを理解していると思いますか」と尋ねて、スペンサーは自らこう答えています。「理解しています。ほくたちのおかげでね。」

アンもこう言っています。「祖父は若者のことをよく分かっています。わたしたちがどういう問題にぶつかり、どういうプレッシャーを受け、どんなことに喜びを感じているかよく理解しています。そしてわたしたちにとって何が難しく、何が易しいことも分かっています。」

預言者は孫たちのために祈ったと同じように、教会の若人のためにも祈っています。そしてすべての神殿において毎日、特に教会の若人のための祈りがささげ

られていることも知っているのです。預言者が孫たちに与える「最善を尽くしなさい」「努力しなさい」「正しいことをしなさい」というアドバイ



12歳のメアリー・ダッドレーは、おじいちゃんが預言者になったとき、もう自分のおじいちゃんできなくなってしまうのかと心配した。でも今はそんな心配が不要なことを知っている。

スは、すべての若人に当てはまるすばらしいアドバイスです。

ジェシカがリックスカレッジのクラスに入ったとき、親しい友人を除いて、彼女が大管長の孫であるということを知っている人はいませんでした。講師が出席者たちに、「ヒンクレイ大管長かだれかほかの中央幹部に会ったことがある人はいますか」と質問しました。ジェシカは手を挙げません。ジェシカが手を挙げないのは、当惑したからではありません。彼女はほかの人たちがどう言うかを聞いてみたかったのです。「わたしは、人々が神殿の奉獻式や大会のときに、祖父を見たがっていることに興味があったのです。」

アンはこう話しています。「祖父を一人の人間として、また自分のおじいちゃん、預言者として知っているわたしはとても幸運だと思います。それって、すばらしいことですよ。」□



# 生ける預言者の言葉

ゴードン・B・ヒンクレー大管長の教えと勧告



## 最高の宝として妻に接する

「兄弟の皆さん、皆さんが主の宮の聖壇上で互いに手を取り、互いに目を見詰め合った女性以上に偉大な宝は、生涯かけて探しても決して手に入れることはできないのです。その女性は、この世にあっても永遠の世にあっても、あなたにとって最も大切な宝物となるはずで、あなたの伴侶として、その女性を大切に扱ってください。伴侶を尊重し、敬意を抱きながらともに生活してください。そうすれば、皆さんの生活に幸福がもたらされます。』<sup>1</sup>

## 不従順な子供たち

「さて、わたしが折にふれて耳にすることは、皆さんがどれほど一生懸命努力したとしても、反抗的な子供は存在するということです。でも、努力は続けてください。決してあきらめないでください。努力を続けるかぎり、失ったことにはならないのです。ですから、努力を続けてください。』<sup>2</sup>

## 学びの機会

「皆さんは今学校に行っています。どうぞ時間を無駄に使わないでください。今は大いなる機会が与えられている時間です。皆さんの生涯でこのような時間は二度とありません。今、その機会を最大限に活用してください。すばらしくチャレンジに満ちた、大変な、また、厳しい機会です。しかし、幾世紀にもわたって蓄積されてきたあらゆる知識を学ぶ機会が身近に与えられているのは、何とすばらしいことでしょうか。大学なり、専門学校なり、自分で選んだ学校へ進んで学び続けてください。自分に与えられた機会を最大限有効に利用してください。なぜなら、主が預言者ジョセフ・スミスに啓示を与えて、霊的な事柄だけでなく、この世の事柄についても学ぶよう、お命じになったからです。皆さんには、そうしたことを学ぶ責任があります。時間を無駄にしている余裕はないのです。学ぶことは限りなくあります。頭を使い、最大限の努力をしてください。』<sup>3</sup>

## 祈りの力

「皆さんのように若い人々が、朝な夕なに、ひざまずいて、熱心に祈りをささげるのは、何とすばらしいことでしょうか。皆さんを心から褒めたいと思います。祈ることにより、わたしたちのために天の力の扉が開かれます。祈りは、わたしたちの永遠の御父がわたしたちに授けてくださった偉大な賜物です。この力により、わたしたちは御父に近づき、主イエス・キリストの名によって御父と語ることができるのです。祈りの心を決して忘れないでください。自分の力だけで成功することはできません。自分の力だけで、自分の潜在能力を引き出すこともできません。皆さんには主の助けが必要なのです。』<sup>4</sup>

## ボルノグラフィー

『『絶えず徳でああなたの思いを飾るようにしなさい。』(教義と聖約 121:45) この世には、汚れや情欲、ボルノグラフィーがあふれています。わたしたちは末日聖徒として、そうしたものを乗り越え、はっきりと反対の立場を取る必要があります。皆さんにはそうしたことにつつまを抜かしている余裕はありません。皆さんの心から遠ざけてください。それには、たばこと同じように、習慣性があり、それをもてあそぶ者を破滅へと導きます。『絶えず徳でああなたの思いを飾るように』してください。』<sup>5</sup>

## 什分の一

「皆さんの中には経済的な問題を抱えている人がいます。わたしはそれを知っています。皆さんの家庭にお金が多分にあるということは決してありません。わたしはそれも知っています。皆さんはそういう中で何とかやり繰りをしています。そうした状態からどうやったら抜け出すことができるのでしょうか。わたしの知るかぎり、唯一の解決法は、什分の一を納めることです。しかしながら、什分の一を納めたからといって、高級乗用車や大邸宅が手に入るということではありません。しかし、什分の一とそのほかの献金を納めることにおいて、正直に



主とともに歩む者には、天の窓を開いてあふれる恵みを注ぐと約束してくださったのは、神です。そして、神はその約束を守る力を備えておられます。わたしには、神はその約束を守ってくださるという証<sup>あかし</sup>があります。』<sup>6</sup>

### 改宗者に与えられる世代を超えた祝福

「皆さんは、教会に改宗者を生み出す度に、人生に祝福をもたらしています。その改宗者が最後まで忠実であれば、一人の人生に祝福をもたらすだけでなく、多くの人々の人生にも祝福をもたらすこととなります。皆さんが改宗者を生み出すということは、世代を超えた業となるからです。ここに集うわたしたちは皆、伝道活動の成果です。わたしたちの父や祖父や曾祖父<sup>そうそふ</sup>が、宣教師の証を受け入れ、教会に加入したのです。わたしたちは今、その恩恵に浴しています。わたしは宣教

師の姿を見るにつけ、心の底からこう言いたくなります。『今携わっているこの奉仕の業がどういう成果を生み出すのか、皆さんは決してあらかじめ知ることはできないのですよ。』<sup>7</sup>

### 開拓者としてのわたしたちの努力

「わたしたちはまだ開拓者の業を続けています。わたしたちの民がノーブーを後にして、ここ〔アイオワ州〕に来て、さらにここからエルクホーン川、ブラット川、スイートウォーター川とさかのぼってワイオミングの高地に至り、やがてグレート・ソルトレイク盆地へと下って行ったあのときから、わたしたちの開拓者としての業に終止符が打たれたことはありません。その行程には冒険もありました。しかし、その旅の目的は、定住して、良心の命じるとおりに神を礼拝するための場所を見つけ出すことであり、また、その同じ特権を、わたしたちの招きに応じて同じ地域に住もうとするほかの人々にも保証するための場所を見つけ出すことでした。現在、わたしたちは世界中で成長を続け、数年前まではとても入国できなかったと思われるような国々でも業を進めています。わたしたちはあらゆる場所で業を進めています。そして、それに必要なのが、当時と同じ開拓者魂なのです。』<sup>8</sup>

### 締めくくりの時期

「わたしの友人である皆さんに、わたしの証をお伝えしたいと思います。教会が誤って導かれることはありませんし、教会員が誤って導かれることもありません。主が、御自分の業を最後の機会として確立したと言われたからです。今は、いわば最後の締めくくりの時期です。主がこの教会を導いておられるのです。』<sup>9</sup>

### 注

1. 1996年2月11日、ユタ州プロボ、プリガム・ヤング大学 既婚学生のための地区大会
2. 1996年2月18日、ハワイ州オアフ島、地区大会
3. 1996年4月14日、コロラド州デンバー、青少年集会
4. 1996年4月28日、ペンシルバニア州ピッツバーグ、地区大会
5. 1995年9月1日、アイルランド、ダブリン、ファイヤサイド
6. 1996年2月18日、ハワイ州オアフ島、地区大会
7. 1996年5月25日、香港<sup>ホンコン</sup>、伝道部大会
8. 1996年7月13日、アイオワ州カウンシルブラフス、大野営地記念式典における記者会見
9. 1996年3月24日、カリフォルニア州サンディエゴ、ヤングアダルト・ファイヤサイド





St. George

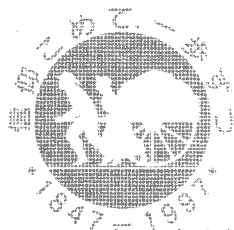
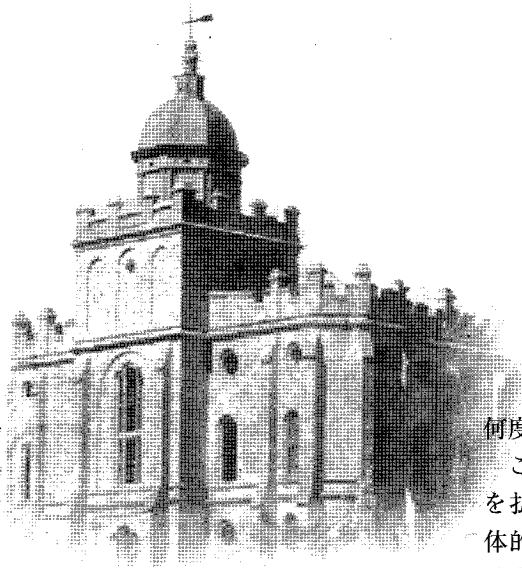
Spirits Ferry

Yellow River

Colorado River

# ハネムーン・トレイル

七十人  
デビッド・E・ソレンセン



何年も前、わたしは地元の牧場所有者とともに、ユタ南部の広大な牧場を訪れたことがありました。そのときわたしたちは、曲がりくねった細い砂利道に気づきました。

後になって、その人里離れた寂しく荒涼とした道が、何マイルにもわたって続いていることを知りました。ユタ南部とアリゾナ北部を横切り、アリゾナ州のリトルコロラド川に沿った集落まで南下しているのです。その集落は、モルモンの開拓者が築いたものです。道はさらに、ユタ州セントジョージにあるモルモンの開拓地に続いており、かつては馬や幌馬車が頻繁に往来し、「ハネムーン・トレイル」と呼ばれていました。

## 神殿参入のために開拓者が払った犠牲

この「ハネムーン・トレイル」という名前は将来を約束した新郎新婦がアリゾナ北部の開拓地からやって来て、自分たちのエンダウメントを受け、永遠に結び固められるためにセントジョージ神殿を目指したことに由来しています。

1800年代の終わりから1900年代の初頭にかけてのこの旅には、新郎新婦たちの住む場所によっては、何日も、何週間もかかりました。勇敢なこれらの若いカップルは、星空の下、この道で幾夜も過ごし、地面の上や幌馬車の中で眠りました。この若いカップルとその家族は広大なアメリカの砂漠で数々の難しい試練に直面しました。砂漠での年間降水量は200ミリ以下でした。1日に口にできる食料がほとんどないときもありました。飲み水は、たいてい質の悪い水だけでした。人々は、ガラガラ蛇やコヨーテ、ボブキャット、きつねなどによる危険も含め、

何度も危ない目に遭いました。

これらの若人はなぜ、大きな犠牲を払い、財産を投げ出し、時には肉体的な危険を冒してまでも、不毛の砂漠を横断したのでしょうか。白く

輝くセントジョージ神殿は、ミシシッピ川以西に建てられ奉獻された、最初の神殿でした。結び固めを受けたいという若いカップルの願いは、神殿にたどり着くために堪え忍ばなければならない苦難のものともしなかったのです。

## 神殿の祝福の重要性

当時と同様に、今日の若人も主の宮で永遠の祝福を受受することができます。ブリガム・ヤングが述べたように、これらの儀式は「あなたにとって不可欠なものであり、あなたがこの世を去った後、番人として立っている天使たちの前を通り過ぎ、彼らに聖なる神権に結びついている鍵の言葉とするしと形を示して御父のもとに帰り、地や地獄を越えて永遠の昇栄を得られるようになるもの」なのです (Journal of Discourse『説教集』2: 31)。

聖なる神権の権能によって神殿で授けられるエンダウメントは、永遠の結婚の原則と密接に結びついています。福音が回復された当初から、わたしたちは、「結婚は人のために神によって定められている」(教義と聖約49: 15)と教えられています。アダムの時代から、結婚の聖約は非常に重要なものとして常に理解されてきました。教会の兄弟たちは啓示により、こう教えられています。「あなたは心を尽くして妻を愛し、妻と結び合わなければならない。その他のものと結び合ってはならない。」(教義と聖約42: 22)

わたしたちは教会の会員として、義のうちに結婚する



だけでなく、子供をもうけ、イエス・キリストの福音の教えに従って彼らを育てよう命じられています。また、エンダウメントと結婚の結び固めの儀式は、主の宮で執り行われるよう教えられています。わたしたちは祝福されて、世界各地に聖なる神殿を頂き、これらの永遠の儀式を受けることができます。

主はジョセフ・スミスにこう告げられました。

「日の栄えの栄光には、3つの天、すなわち3つの階級がある。

その最高の階級を得るためには、人はこの神権の位(すなわち、結婚の新しくかつ永遠の聖約)に入らなければならない。

そうしなければ、その人はそれを得ることができない。」(教義と聖約131:1-3)

主はさらにこう説いておられます。「もしある男がわたしの律法であるわたしの言葉によって、また新しくかつ永遠の聖約によって妻をめぐり、そしてそれが、わたしからこの力とこの神権の鍵とを与えられた油注がれた者によって、約束の聖なる御霊により彼らに結び固められ〔……れば、それは〕彼らがこの世の外に去るときにも完全に効力があるであろう。そして、彼らはそこに置かれる天使たちと神々のそばを通り過ぎ、彼らの頭に結び固められたように、すべての事柄について昇栄と栄光を受けるであろう。その栄光とは、とこしえにいつまでも子孫が満ちて続くことである。」(教義と聖約132:19)

結婚の聖約を含め、永遠に効力を及ぼすすべての聖約には、満たすべき二つの条件があります。つまり、聖約「がなされ、また交わされる時、……約束の聖なる御霊により結び固められなければならないのです(教義

と聖約132:7)。そして、正当な神権の権能によって執り行われなければなりません。

#### 神殿参入に求められる犠牲

今日、若い末日聖徒は数多くの難しいチャレンジに直面しています。その結果、本来すべき時期より結婚を遅らせている人々が大勢います。教育を終えたいからと言いつくをする人もいれば、結婚するには安定した職に就く必要があると言う人もいます。中には、神殿で結婚することよりも、貯金をし、新しいアパートや新しい車を手に入れ、物質的なぜいたくをしたいと願う人もいます。

わたしたちは、「かつてハネムーン・トレイルを旅した人々と同じ決意を、神殿結婚のために喜んでしているだろうか」と、自問してみなければなりません。ガラガラ蛇やおおかみのえじきとなる代わりに、わたしたちは引き延ばしやどっちつかずの態度のえじきとならないでしょうか。飢えや疲労にむしばまれる代わりに、「自己の欲求を満足させればそれでいい」というはやりの考え方、「自分本位でやっつけよう」という態度にむしばまれてはいないでしょうか。

もちろん、自由に恋愛できる文化圏に住む末日聖徒は、伴侶の選択に当たって十分な時間を取り、経験を重ねるべきです。しかし、利己的な理由のために特定の人との交際や結婚の決意を先延ばしにしてはなりません。

両親と指導者は、常に若人に、「結婚は神聖な特権であり、義務である」と教えるよう努めてください。男性であろうと女性であろうと、人が独りでいるのはよくありません。男女のいずれが欠けても、人はその造られた目的を完全に満たすことはできないのです(1コリント



11:11; モーセ3:18参照)。男女間の結婚は神によって定められたものであり、結婚の新しくかつ永遠の聖約を通してのみ、わたしたちは永遠の祝福を完全に実現できるのです。

#### 預言者の勧告

現代の預言者と指導者は、主の宮で結婚し、そこで交わす聖約を忠実に守るよう勧告しています。総大会でハワード・W・ハンター大管長はこう言いました。「神権者の責任という面から考えれば、男性は普通の状況の下であれば、結婚の時期を不必要に引き延ばすべきではありません。兄弟の皆さん、主はこの点に関して明白に語っていらっしゃる。主の勧告と主の預言者の言葉に従うのは、皆さんにとって神聖かつ厳粛な責任です。」（「義にかなう夫、父親」『聖徒の道』1995年1月号、57）ハンター大管長はさらにこう続けています。「神権を持つ男性は妻に対し、道徳的に完全な忠誠を尽くします。自分の忠実さに対し、妻に一点の疑いも与えません。夫は心を尽くして妻を愛し、妻と結び合うべきであり、その他のものと結び合ってはなりません（教義と聖約42:22-26参照）」（同上、57-58）

教義と聖約第42章22節に関して、スペンサー・W・キンボール大管長は次のように説明しています。「『その他のものと結び合ってはならない』という言葉は、他のあらゆる人、他のあらゆるものを排除することを意味する。配偶者はその生活で最も優先するものであって、社交、職業、政治、その他の利害、人、物が自分の配偶者に優先するようなことがあってはならない。」（『赦しの奇跡』260）

ほかの預言者たちも、結婚と家族の価値を強調しています。ハロルド・B・リー大管長は次のように述べています。「わたしたちにとって最も大切な主の業は、家庭

という囲いの中で行われる。」（Stand Ye in Holy Places『聖なる場所に立ちなさい』255）

生ける預言者ゴードン・B・ヒンクレイ大管長は永遠の結婚についてこのように語っています。「子供たちを愛する天の御父は、今も永遠にも幸福をもたらすものを子供たちのために願っておられる。人間関係のうちで最も深い夫婦と親子の関係に勝る幸せはどこにも見いだせない。……

しかし結婚は権威によって結ばれる聖約である。もしそれが国の権威であれば、国が司法権を持つ間のみ有効であって、その効力は死によって終わりとなる。しかし国の権威に、死を乗り越えた御方から恵みの力が加えられて、夫婦がもしも約束にふさわしく生活するならば、その間柄は死後も続く。」（『永遠に続く結婚』『聖徒の道』1974年11月号、522-523）

ユタ州セントジョージにある主の聖き神殿への長い旅を成し遂げるため、モルモンの開拓者たちには、犠牲や意志の力、決意、忍耐が求められました。それは今日も同様です。神殿結婚にかかわる事柄を生活の中で優先するのに要する犠牲を喜んで払わないかぎり、100年以上前にハネムーン・トレイルを旅した末日聖徒と同じ祝福を味わうことはできないでしょう。彼らは旅を終えた後も、約束の聖き御霊が主の宮で交わした神聖な聖約を結び固めてくださるよう、ふさわしい生活を続けたのです。

□

# 祝福師の祝福

バレリア・サレルノ

2年ほど前、当時16歳のわたしは、若い女性の『成長するわたし』のテキストを読んでいて、若い女性の信条の実践プランの中に、祝福師の祝福の大切さを学ぶ、という項目があるのに気づきました。

わたしは祝福師の祝福についてできるかぎり調べ始めました。その研究を終えたときには、いろいろなことを理解していました。祝福師の祝福を受けることにより、自分の血統が分かること、また、主が自分に何を望んでおられるか、自分にどのような祝福が備えられていて、それを受けるには何をしなければならないかが分かること、などです。わたしは、祝福師の祝福を受けるための推薦状をもらえるよう監督に面接を申し込むことにしました。

1995年4月19日、わたしはアルゼンチンのブエノスアイレスにある、ステーク祝福師の家を訪ねました。彼の手が頭の上に置かれると、わたしは心からの平安を感じました。力が全身に注がれるのを感じ、大きな喜びに包まれました。それまで何度も、喜びと幸せを同義語のように使ってきましたが、その瞬間、喜びとは単なる幸せとは比べものにならないほど深いものだと思えたのです。喜びとは、ほかのすべてと異なる、特別で、想像を超えたものなのです。どんなものか知るには、実際に経験するしかありません。

祝福師が祝福を終えたとき、わたしの頬をとめどなく涙が流れました。祝福師の兄弟も目に涙を浮かべていました。わたしは兄弟に、主とわたしの仲介役を務めてくれたことを感謝しました。家路に就いてからも、味わった感動がずっと続き、皆にも同じ経験をしてほしいと思わずにはいられませんでした。

主がわたしに下さった責任に感謝しています。祝福文にある約束や警告の言葉は、天の御父のわたしへの御心であることを知っていますし、わたしが忠実であれば、自分の弱点を克服できるよう、そばにいて助けの手を差し伸べてくださることも知っています。



今では、祝福師の祝福は、まるで古代のリアホナのように、わたしたちの人生を導いてくれることがよく分かりました。わたしたちが与えられた指示に従うかぎり、「永遠の命を得るまで細い道を歩み続け」る（『モルモン書』ヤコブ6：11）ことができるのです。□

## 準備に当たって

祝福師の祝福を受けるのは重要な一歩です。以下の事柄について考えてみましょう。

### どうしたら受ける準備ができていると分かるでしょうか

ふさわしい教会員であれば、だれでも祝福師の祝福を受けることができます。年齢制限はありません。（まだ受けていなかったら、皆さんのおばあさんでも受けられ

# を受けた日



POSED BY MODELS

ます。)でも、祝福の重要さを理解し、そのための霊的な備えができる年齢に達している必要があります。

祝福を受ける前に、まず、祝福師の祝福を受けたいと心から望まなければなりません。ほかの人に強いられて祝福師の祝福を受けるのはいけません。祝福を受けたことを両親や監督と話し合い、それについて祈ってから、祝福を受ける手続きを始めてください。

## 準備のために何をしたらよいでしょうか

監督から推薦状をもらったなら、祝福師と約束を取ります。

よく祈ってください。悩んでいることがあれば、それについて天の御父に話してください。

もし健康上の問題がなく、あなたが望むなら、断食してみてください。

トーマス・S・モンソン副管長の大会説教「祝福師の祝福は光の羅針盤」(『聖徒の道』1987年1月号, 68-70)、ジェームズ・E・ファウスト副管長の大会説教「神権の祝福」(『聖徒の道』1996年1月号, 66-69)を読むのもよいでしょう。

## 祝福にはどのようなことが含まれますか

あなたの血統の宣言。

あなたの人生の使命と可能性に関する靈感された言葉。約束、叱責<sup>しっせき</sup>、チャレンジ、そして警告が含まれることもあります。

## 祝福文はどう扱うべきですか

何度も好きなだけ読み返せるように、祝福は筆記されて手もとに届きます。定期的に読み返しましょう。内容を知らなければ、人生の羅針盤にすることは不可能です。

祝福師の祝福を人と分かち合うには注意が必要です。(家族のような)信頼できる人たちだけに読ませること、しかも、そうすべきだと靈感を受けたときだけにすることが大切です。

祝福は永遠の見地から考えましょう。祝福によっては、この地上の生活を終えて初めて理解できる事柄もあるからです。

祝福文が人生のすべての出来事を示したり、すべての疑問に答えてくれたりすると思わないでください。

祝福師の祝福にある約束の実現は、あなたの忠実さと主の御心次第<sup>みこころ</sup>であることを念頭に置いてください。約束された賜物<sup>たまもの</sup>をすべて受けられるように生活しましょう。

生涯に受けるほかの神権の祝福が、祝福師の祝福で述べられている事柄への理解を深めてくれることがあります。自分の祝福文を十分知るよう努力し、そのような解き明かしが与えられたときに、よく識別できるよう備えましょう。□

# 自立

ローラディーン・リンゼイ  
PHOTOGRAPHY BY STEVE BUNDERSON





**主**が回復された教会とその会員に  
対して、独立し、自立するよう  
に命じられたのは1832年のことです。  
それ以来、末日の預言者たちは、この  
勧告に関連する幾つかの原則の大切さ  
を説いてきました。<sup>1</sup>

「これからは自立する民になってく  
ださい。……これは主がこの民に求め  
ておられることです」とブリガム・ヤ  
ング大管長は述べています。「……わ  
たしたちには自らを支えるためにあら  
ゆることを活発にまた勤勉に行う義務  
があります。」<sup>2</sup>

今日の教会指導者もまた、このメッ  
セージを繰り返し強調しています。ゴ  
ードン・B・ヒンクレー大管長は次の  
ように述べています。「わたしたちは  
教会員が持つ以下の責任について、こ  
れまで以上にはっきりと強調する必要  
があると感じています。すなわち、自



わたしたちは家庭貯蔵、健康、財政管理、  
職業、教育、そして霊的・情緒的・社会  
的な力の6つの分野で自立することがで  
きる。

立をいっそう強固なものとし、自給自  
足を図り、個人と家族の責任範囲を拡  
張し、霊性を向上させ、クリスチャン  
としての努めにさらに完全に献身する  
ということです。<sup>3</sup>

わたしたちの霊性面、肉体系、情緒  
面、社交面、経済面を健全な状態に維  
持する責任はまず第一に自分自身にあ  
り、次に家族、続いて教会が負うこと  
になるとスペンサー・W・キンボール  
大管長は述べています。大管長はさら  
に続けて勧告しています。「肉体およ  
び情緒面で健康な末日聖徒は、自分と  
自分の家族の安寧に関して、その責任  
を他人に譲り渡すことはできない。主  
の導きを受け、力を尽くすならば、物  
心両面で自分と自分の家族を養うこと  
ができるはずである。」<sup>4</sup>

マリオン・G・ロムニー副管長はこ  
の大切な原則を強く唱道した人です。  
ロムニー副管長は、自立と独立の  
原則を無視して霊の救いとこの世の救  
いは得られないと言明しまし  
た。また、「教会や家族の取  
る行動はすべて、会員や子供  
たちを自立へと導くものでな  
ければなりません。」<sup>5</sup>そして末  
日聖徒は自立の度を高めれば高  
めるほど「奉仕の力が伸び、奉  
仕の機会が増えれば、その分聖く  
なる」<sup>6</sup>と述べています。

教会指導者は自立するように奨励  
するだけでなく、福音によって自立  
できることに目を向けるようにと教  
えています。「主はわたしたちに深い  
関心を寄せておられるので、奉仕する  
指示を与えるとともに自立をはぐむ  
機会をも与えておられます」とマー  
ビン・J・アシュトン長老は述べていま  
す。<sup>7</sup>

教会の福祉活動は1980年代に大きな  
変化を遂げました。そして備えができ  
ていれば、それ自体が不測の事態の発

生を予防することになるという考え方  
に重きを置くようになりました。時間、  
能力、技術、家族の持つ援助手段が、  
主の倉に蓄えておく重要な資源となり  
ました。教会指導者は会員たちに対し  
て、自立するために努力することと、  
援助を必要としている人々に資源を分  
かち合うことを改めて呼びかけまし  
た。<sup>8</sup>

自立に関する詳しい指示は教会の出版  
物『主の道にかないて助けをなす』  
(32296 300)を参照してください。

「時の初めより、自分自身や家族を  
養い、貧しい人や困っている人を助け  
ることは、福音と切り離すことのでき  
ないものでした。キリストの弟子とし  
てわたしたちは助けを必要としている  
人に手を差し伸べるために、自分の時  
間と才能と財産をささげなくてはなり  
ません。わたしたちは自立するように  
努めるならば、この責任をいっそうよ  
く果たすことができます。なぜなら、  
自分の持っていないものを人に与える  
ことはできないからです。」<sup>9</sup>

主の道にかなって自立するためには、  
自分と人々に最善のものを提供でき  
るように、肉体的、精神的、霊的に  
努力を重ねて自分を高めていく必要が  
あります。わたしたちは努力すること  
によって、教育、健康、雇用、家庭貯  
蔵、資源の活用、霊的、情緒的、社会  
的な強さの各分野で自立することがで  
きます。

●教育。教育面で自立するには読み  
書き、円滑なコミュニケーション、計  
算の能力を十分身に付ける必要があり  
ます。わたしたちは聖文を研究し、  
「最良の書物から」(教義と聖約88：  
118)知恵を求め、学習する機会を活  
用しなければなりません。<sup>10</sup>

●健康。心身ともに健康を維持する  
ことによって、自分とほかの人々に対  
して援助の手を差し伸べる能力を高め

ることができます。この分野で自立するには、知恵の言葉を守り、定期的に運動し、適切な医療および歯科治療を受け、家の内外を整頓し、清潔に保ち、心身に害を及ぼすような物質や生活習慣を避ける必要があります。<sup>11</sup>

●職業。「怠惰な者は働く者のパンを食べてはならないし、その衣服も着てはならない」(教義と聖約42:42)と主はおっしゃっています。ふさわしい仕事を得るための準備として、教育、訓練、経験、勤勉を身に付けることが大切です。十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老は、天の御父はわたしたちが「天の御父から受けている才能と機会を尊んで大いなるものとするために熱心に努力することによって、信仰と感謝を表すよう」期待しておられる、と述べています。<sup>12</sup>

●家庭貯蔵。家庭貯蔵の分野で自立するとは、短期または長期に及ぶ緊急事態が発生したときにも、わたしたちが家族に対して提供するために十分な食料と衣類、避難できる場所を有しているということです。自立している人々とは、自然の災害、失業、そのほか予期していないチャレンジに遭遇した場合に、自分とほかの人々を助ける準備ができている人をいいます。「そこでわたしたちは基本的な品目を蓄え、使用し、作り方や調理の仕方を知っておくように勧告されています。非常時に自活できるだけの備えがあれば心配する必要はありません。」<sup>13</sup>

●財政管理。自立することを目指し

て財政を管理するには、<sup>じゅうぶん</sup> 什分の一と献金を納め、不必要な借金を避け、費用を節約し、金銭上の債務を履行し、質素儉約に努め、時間を賢明に使い、時間と才能および資力を、助けの必要な人々と分かち合わなければなりません。<sup>14</sup>

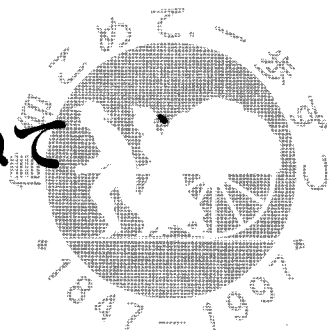
●霊的、情緒的、社会的な力。霊的、情緒的、社会的に自立するには、聖文と生ける預言者の言葉を研究し、悪を避け、戒めを守り、キリストを信じる信仰を行使し、しばしば熱心に祈り、生活の変化に適応し、逆境を克服し、さらに家族、友人、隣人との関係を強めることが必要です。<sup>15</sup>

オークス長老は、自立を目指して努力することによってもたらされる大きな効果について次のように述べています。「自分と自分の家族を養う責任は、神と隣人と政府に対する関係を築くうえでわたしたちが見過ごすことのできない非常に大切な原則です。」<sup>16</sup>

自立を目指して努力することによって、天における報いにあずかるという約束を受けるだけでなく、この世における報いをも受けることができます(教義と聖約38:29-30参照)。わたしたちが独立と自立を促す指導者たちの靈感あふれる指示に従うならば、教会は「日の栄えの世界の下にある他のすべての造られたものの上で自立する」ことができ、また教会員は「〔彼らのために〕備えられた冠を受け、多くの王国を治める者とされる」ことでしょう(教義と聖約78:14-15)。□

## 注

1. 教義と聖約78:13-14; スペンサー・W・キンボール「心の清い者となる」『聖徒の道』1978年10月号, 126-130参照
2. *Discourses of Brigham Young* 『ブリガム・ヤング説教集』ジョン・A・ウイツォー編, 293-294
3. 地区代表セミナー, 1983年4月1日; グレン・L・ベイス「原則とプログラム」『聖徒の道』1986年7月号, 24より引用
4. スペンサー・W・キンボール「福祉活動—福音の実践」『聖徒の道』1978年2月号, 118-119
5. マリオン・G・ロムニー「日の栄えに至る自立の本質」『聖徒の道』1983年1月号, 166
6. グレン・L・ベイス「原則とプログラム」1986年7月号, 23より引用
7. *Ye Are My Friends* 『あなたがたはわたしの友です』122
8. ダリン・H・オークス, *The Lord's Way* 『主の道』127-132参照
9. 『主の道にかないて助けをなす』3参照
10. 『主の道にかないて助けをなす』6参照
11. 同上
12. 『主の道』116
13. 『主の道にかないて助けをなす』7
14. 同上参照
15. 同上参照
16. 『主の道』115



今年、ユタ州ソルトレーク盆地に開拓者が入植して150年ということで世界中の聖徒が各地で記念行事を行っています。この機会を通して、わたしたちの信仰生活の基盤を築いてくれた開拓者への感謝の気持ちを強めることができます。また、日本で伝道が始まり2001年でちょうど100年になります。日本においては、わたしたちも開拓者です。そういう意味では、ユタの開拓者と同じように信仰という遺産を後世に伝えるという大きな責任を負っています。

そこでわたしたち地域家族歴史アドバイザーは、皆さんが楽しんで家族歴史探求を行えるように、これから様々な提案をしていこうと思います。わたしたちの開拓者である先祖を知り、またわたしたち自身が未来をつなぐ開拓者となるためです。今、家族で家族歴史の探求を始めましょう。それは、先祖や子孫の救いだけでなく、家族のきずなを強めることにもつながります。また、多くの喜びと祝福が得られることを心から証します。

今回はまず、全体を通して、大きな家族歴史探求の3つのテーマとその概要を紹介します。次いで今後数回にわたり、個々のテーマを掘り下げた提案を連載したいと思います。

\*

### テーマ1 先祖はわたしにとって開拓者です

「彼は父の心をその子どもたちに向けさせ、子どもたちの心をその父に向けさせる。これはわたしに来て、のろいをもってこの国を撃つことのないようにするためである。」(マラキ4:5)という聖句にあるように、先祖に心向けるといことは単に記録用紙に名前を記入するだけではありません。そこには、先祖を深く知ることが含まれます。それによって、一人一人

の先祖に対する愛が生まれ、自分の家族に対する誇りが生まれます。わたしたちにとっての開拓者とは、おじいちゃん、おばあちゃんをはじめとする先祖の方々なのです。

先祖をもっと知るために以下のことを行ってみましょう。

#### ① 150年前(江戸末期)の先祖の記録を調べ、神殿で儀式を受ける。

開拓者150年記念にちなんで、150年前にわたしたちにはどんな先祖がいたか調べてみましょう。できればこの機会に神殿で儀式を受けることができればすばらしいですね。

#### ② 4代直系の家族歴史の探求を始める。

家族歴史は身近なところから始まりま

す。以下に挙げられていることを行ってみましょう。

- ルーズリーフかノートを準備し、まずは自分の知っている情報を書く。

次に両親、祖父母、親戚などに直接、彼らの人生について聞いてみます。たいてい喜んで話してくれるものです。

- 曾祖父、祖父母、両親、いとこなどの写真や日記、記念品などを集める。

- 先祖のお墓参りをする。

お彼岸やお盆にお墓に行ってお墓を洗ってあげると家族にとっても喜ばれますし、系図を調べることにもっと協力してもらえるようになるでしょう。

- 系図旅行をする。

先祖の出生地へ行くことで先祖への思いは強まります。また、まだ自分の持っていない情報を親戚が持っていたり、近所の人から当時の話を聞けることもあるでしょう。

#### ③ 4代直系の家族歴史を見直し、死者の記録を提出する。

すでに記録を提出していても、何年かたって見てみると亡くなっている方も出てきますので、そうした方の儀式を受けてあげることも大切です。

### テーマ2 わたしは子孫にとって開拓者になります

わたしたちの子孫はこれから教会員として続いていきます。信仰を受け継いでいくという意味でもわたしたちはとても大切な立場にあります。ユタの開拓者も道中の記録をつづりながら旅をしました。その記録から、多くのことを学ぶことができます。わたしたちも人生という旅の記録を次の世代に残すべく、以下のことを行ってみてはどうでしょう。

#### ① 日記をつけ、

また個人の歴史書を作る。

歴史書を作る際に、折にふれて写真を撮っておくととても助かります。また、新聞や雑誌から、印象的な出来事をあなたの感想とともにスクラップしておくのもよいでしょう。

#### ② 家族や親戚の現存する写真を集める。

集めた写真によって、写真集や写真による系図表を作る。

こうしたものを子供たちと家庭の夕べで作るなら、家族のきずなを強めるとともに、家宝の一つとすることができるかもしれません。

#### ③ 子供たちと一緒に、

定期的に家族歴史を見直す。

共同で作業をすることにより、子供に参加意識と興味を起こさせ、家族の受け継ぎの記録を残す準備をさせるとともに「父の心が子に」伝わっていきます。

### テーマ3 先祖はわたしたちにとって共通の存在です

先祖も藤原時代とか、平安時代にくると系図は錯綜してきます。ここまでのさかのぼるとやがて先祖は一つにつながっていきます。自分の記録を出し終えたら、以下の4つのことをやってみましょう。

#### ① ワード/支部の会員の先祖探求を

手伝う。

②ワード/支部の会員の神殿儀式を助ける。

③人名抄出プログラムに参加する。

家族歴史部に保管されている記録から死者の名前を抄出し、神殿へ記録を提出するというプログラムです。このプログラムによって多くの方々の救いの儀式を執行しています。

④家族歴史宣教師として奉仕する。

現在、日本では召されていませんが、ソルトレークでは常時、各国から召された200人余りの宣教師が家族歴史図書館で働いていますし、オーストラリアでもその働きは盛んです。日本でも会員一人一人の家族歴史の探求が深まってくるにつれて宣教師が召され、よりいっそう家族歴史活動が盛んになっていくことでしょう。

\*

家族歴史の探求はとても奥が深いものです。一度にすべてを行えなくとも、長い目で取り組むことが大切です。皆さんのご家庭でも、下のチャートで今

から数年にわたる計画を立て、家族歴史のすばらしい財産を築いてみてはいかがでしょうか。(つむら・またさぶろう)



あなたの写真や、今あなたの使っている聖典が子孫にとっては受け継ぎの記念として家宝になるかもしれません。

## わたしの開拓者の旅

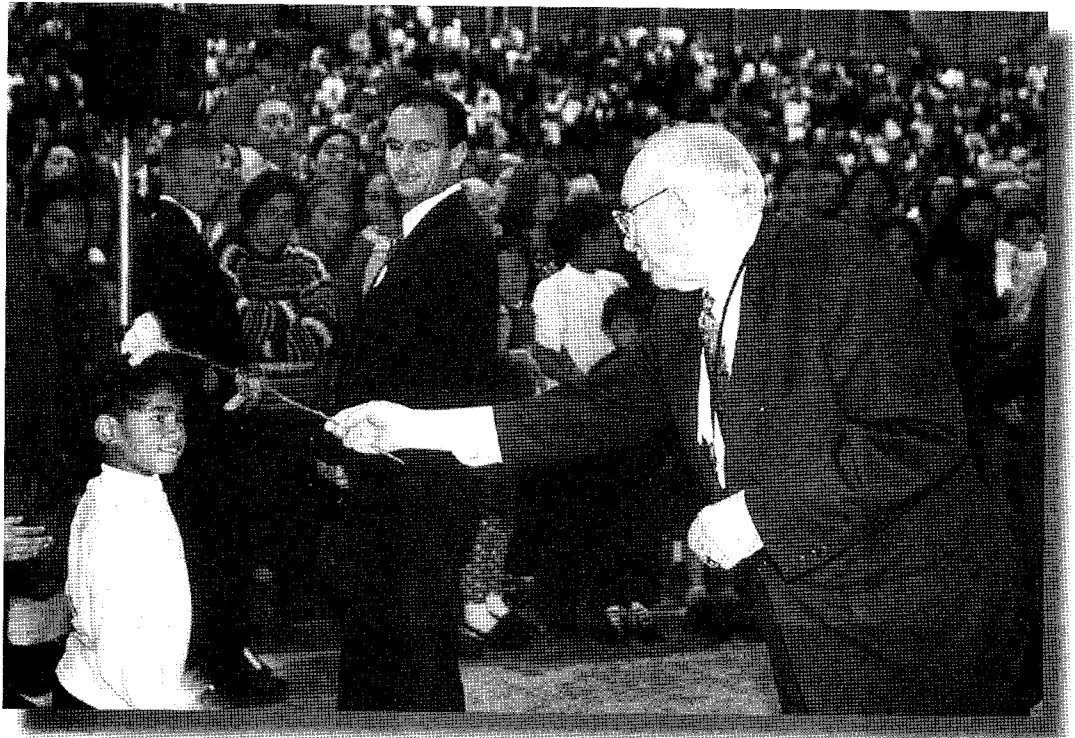
\*いつまでに何を行うか、目標を書き込んでみましょう。

		1997	1998	1999	2000	2001
<b>テーマ1 先祖はわたしにとって開拓者です</b>						
1 テーマ	●150年前(江戸末期)の先祖の記録を調べ、神殿に名前を提出する。					
	●150年前の先祖のための儀式を神殿で受ける。					
	●4代直系の家族歴史を見直し、死者の記録を提出する。					
	●祖父母、両親、親戚などの写真、日記、記念品などを集める。					
	●先祖のお墓参りをする。 ●先祖の出生地へ旅行する。					
<b>テーマ2 わたしは子孫にとって開拓者になります</b>						
2 テーマ	●日記をつけ、また個人の歴史書を作る。					
	●家族や親戚の写真を集め、写真集や写真による系図表を作る。					
	●家族の伝統、家宝を作る。					
	●家庭の夕べをより充実させ、家族のきずなを強める。 ●子供たちと一緒に、定期的に家族歴史を見直す。					
<b>テーマ3 先祖はわたしたちにとって共通の存在です</b>						
3 テーマ	●ワード/支部の会員の先祖探求を手伝う。					
	●ワード/支部の会員の神殿儀式を助ける。					
	●人名抄出プログラムに参加する。					
	●家族歴史宣教師として奉仕する。					

# ニュージーランドとオーストラリアを 訪問したヒンクレー大管長

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は5月10日から18日まで、ニュージーランドとオーストラリアを訪れた。教会の大管長が同地域を訪れるのは21年ぶりのことである。

ヒンクレー大管長に同行したのは、マージョリー夫人、十二使徒定員会のヘンリー・B・アイリング長老とキャスリーン夫人、七十人であり太平洋地域会長会第一副会長のブルース・C・ヘーフエン長老とマリ夫人、中央若い女性第一副会長のバージニア・H・ピラス姉妹である。訪問期間中各地で開かれた数多くの集会で全員が話をするために壇上に立っている。



ニュージーランド、ハミルトンの地区大会で、少年とあいさつを交わすヒンクレー大管長。

PHOTOGRAPHY BY ALAN WARKLEY

## ニュージーランド、ハミルトン

**5**月10日土曜日に現地入りしたヒンクレー大管長は、ハミルトンおよびニュージーランド南部の13のステークと5つの地方部から集まった兄弟たちのために開かれた神権指導者会の終盤に姿を見せた。

翌日、二つの部会にわたって開かれたハミルトン・ニュージーランド地区大会には9,700人の会員が出席した。「この世の現在の時代に生きている人々の寿命には驚くべきものがあります」とヒンクレー大管長は出席した会員たちに向かって語っている。「わたしが生まれた1910

年の男性の平均寿命は50歳でした。現在ではそれが75歳になっています。しかし、福音が回復されたことは寿命が延びたこと以上にすばらしい祝福です。神は再び語られました。この教会は奇跡です。偉大な成功を逃げています。……現在、教会は160か国以上にまたがっています。わたしたちは毎年375の集会所を建築し、5万人以上の宣教師を世界中に派遣しています。そしてわたしたちが行っている家族歴史プログラムは全世界の人々の関心を集めています。これらは初期の開拓者の努力によってもたらされたものの一部です。迫害の時代はもはや過去のものとなりました。わたしたちを知る人々はわたし



ヒンクレー大管長の説教を聞くため、ニュージーランド、ミステリークリーク・パピリオンに詰めかけた数千人の聴衆。PHOTOGRAPHY BY ALAN WARKLEY

たちを尊敬し、敬意を表すという平和な時代に生きています。』

### ニュージーランド、 オークランド

ヒンクレー大管長の南太平洋地域滞在中は、大管長が訪れる各都市でファイヤサイドが開かれた。5月10日にオークランドで開かれたファイヤサイドには、折からの降りしきる雨と強風の中を12のステークから1万2,000人の会員たちが詰めかけている。

大管長は若人に向けた話の中でこのように述べている。「ニュージーランドにおける教会の将来は皆さんに託されています。皆さんは福音に従って生活し、正しいことを行わなければなりません。わたしは、あなたがた若い男性に強く勧めたいことがあります。それは皆さんには、宣教師として召されて働く義務と機会があるということです。』

大管長は若人に対して、真実であること、正しく分別を用いること、謙遜であること、清くあること、また祈りを怠らないよう励ますとともに、次のように述べている。「ニュージーランドにおける教会を指導する責任は間もなく、あなたがた若人の肩に懸かかります。皆さんは準備を整えておかなければなりません。なぜならば福音は義にかなった世代を要求するからです。……自らの霊的成長が脅かされる

ほどの場所にまで近寄ってみる必要は決してありません。』

### オーストラリア、 ビクトリア州メルボルン

ヒンクレー大管長の一行は5月11日にオーストラリアのメルボルンに到着した。そして同市を訪れた預言者の言葉聞くために約7,000人の会員が集まった。この会の模様はその一部が、翌朝オーストラリア放送局によりラジオ番組を通じて放送された。この会でヒンクレー大管長は次のように述べている。「わたしは神が生きておられることを知っています。皆さんも神が生きておられることを知っています。それがこの教会の力です。〔この力は〕全世界の集会所にあるわけではありません。神殿の中にあるわけでも、ブリガム・ヤング大学のキャンパスにあるわけでもありません。この力は永遠の父なる神が生きておられ、イエスがキリストであることを個々に確信する人々の心の中にあります。』

翌朝、ヒンクレー大管長はアデレードへ向けて出発する前に、『シドニー・モーニング・ヘラルド紙』(The Sydney Morning Herald)の記者からインタビューを受けている。インタビューに備えてメルボルンでのファイヤサイドに出席したこの記者は、教会の最高指導者のオーストラリア訪問を特集する記事を2度にわたって報じている。

### サウスオーストラリア州 アデレード

ヒンクレー大管長が次に訪れたのはアデレードである。5月13日に開かれた集会には預言者の話を聞くために、3ステークから2,800人の会員が、職場や学校から休暇を取って集まった。これらの教会員に対して大管長は、信仰と神殿の事業について述べている。「この会に集まっているすべての男性がすでに奥さんと一緒に主の宮に参入していることを希望しています。神殿と結び固めの儀式のために働いてください。伴侶と、できれば子供たちを連れて神殿に参入し、聖約の下で一つとなってください。この聖約は、時が来たら崩壊するものでも、死によって破られるものでもありません。』

### ウエスタンオーストラリア州 パース

ヒンクレー大管長の次の目的地パースでは約3,800人の教会員が集まって大管長の言葉に耳を傾けた。同地域に教会の大管長が訪れたのは教会歴史上初めての出来事である。ヒンクレー大管長は出席者に対して、家族を強めることと家庭の夕べを定期的に開くよう勧告した。

「あなたがどのようなことをするかは非常に大切です。周囲に末日聖徒はあなたしかいないかもしれません。人々はあなたが何を言い、何をするかを〔見て〕、この業に対する判断を下すのです」と大管長は語った。

### オーストラリア、 ニューサウスウェールズ州 シドニー

5月14日、8ステークと4地方部の会員たちはヒンクレー大管長の話を聞くためにシドニーに集まった。大管長は賛美歌「恐れず来たれ、聖徒」を引用して、教会員が開拓者の犠牲を通して偉大な受け継ぎを得ていることについて述べた。「この偉大な賛美歌で歌われている内容は、危険を冒して旅を続けた開拓者と同様に、今日のわたした

ち、全世界の聖徒に対して当てはまるものです。今日のわたしたちはだれ一人として、開拓者がどのようなことを克服しなければならなかったかをほんとうに理解することはできません。

兄弟姉妹の皆さん、そのように偉大な受け継ぎを持っていることはすばらしいことです。現在では、当時の出来事はすでに過去のものとなっています。過激な迫害は影を潜め、シオンへの集合も終わりを告げました。教会員の半数以上がユタ州に住んでいた時代は何年も昔のことではありません。現在ユタ州に住んでいる教会員は教会の全会員の17パーセントにすぎません。わたしたちはこの地上にあまねく広がっています。わたしたちはそれらの国々の人々に祝福をもたらす使者として働いています」とヒンクレー大管長は語っている。

ヒンクレー大管長はシドニーでの滞在中に、オーストラリア国立海事博物館の式典の主席講演者として招かれていた。教会は同博物館に対して、教会記録保管課が所有する個人の日記と記録を貸与という形で提供している。これらは1850年代のモルモン移民開拓者団としてニューサウスウェールズから「ジュリア・アン号」に乗ってアメリカの土を踏んだ2回の航海に関する記録である。

国立海事博物館での式典を終えたヒンクレー大管長は直ちに、ナイン・テ

レビジョン・ネットワークが放送する朝の生番組「ザ・トゥデー・ショー」のインタビューを受け、この模様は全国に中継された。放送終了後、ヒンクレー大管長はフェリーでシドニー港を横断し、オーストラリア放送局のテレビ番組「コンパス」に出演して、長時間にわたるインタビューを受けた。この模様は8月に全国に放送される予定である。

大管長は次いで、オーストラリア・シドニー北および南伝道部で働く400人の宣教師との集会に出席した。大管長の説教は、セブン・テレビジョン・ネットワークの時事番組である「ウィットネス」で教会の伝道活動を集めるために録画されている。

### オーストラリア、 クィーンズランド州 ブリスベン

太平洋地区におけるこの精力的な旅の最後の訪問地であるブリスベンで、ヒンクレー大管長は5月15日、6ステークと4地方部から集まった8,200人の教会員に向けて話をしている。この日は朝から嵐が吹き荒れていた。ヒンクレー大管長は早朝に開かれた専任宣教師との集会で、出席者に対して嵐が静まるように祈ることを求めた。そしてこの祈りはこたえられた。会員たちが集会に集う夕方までに天候は回復した。そして、集会が終わると間もなく、

再び雨が降り始めたのである。

ブリスベンの集会では、演壇の左右に巨大なビデオスクリーンが設置されて、耳の不自由な人のために手話が映し出されるとともに、サモア語、トンガ語、スペイン語、北京語、韓国語を話す会員たちのために通訳が行われた。

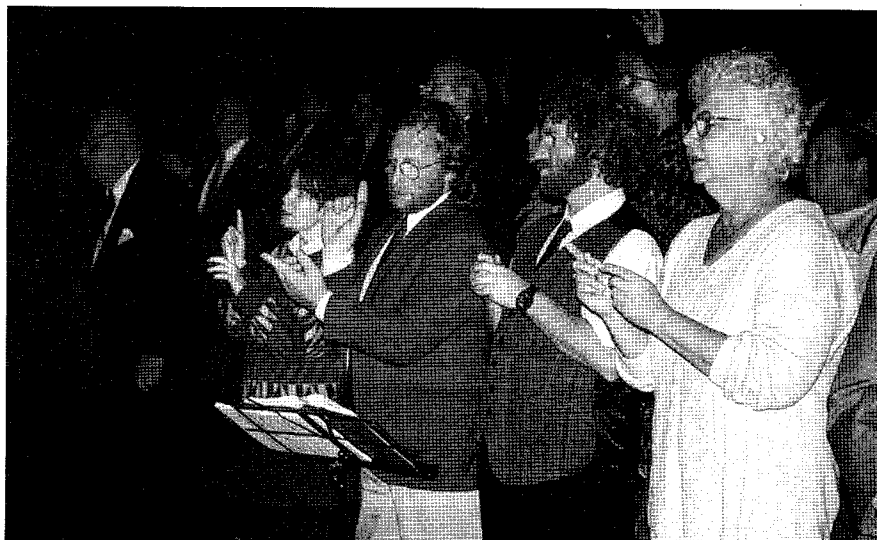
この集会には、特別招待客としてクィーンズランド州政府の閣僚、州議会議員、教育界指導者、オーストラリア家族協会の幹部、地方自治体の政府指導者の面々が出席している。

ヒンクレー大管長は説教の中で、「ほかの教会が衰退している中で、あなたがたの教会が発展し続けているのはなぜか」という疑問に以下のように答えた。これは、報道関係者が必ず質問する項目の一つである。「わたしたちの教会が成長しているのは、価値観の目まぐるしく変わる現在の世の中において、この教会は信仰と教義と実践という面で揺らぐことのない<sup>いかり</sup>礎となっているからです。

世界中で家族が崩壊しています。しかし、この教会の中において家族が崩壊されることはありません。わたしたちが成長しているのは、教会が会員に対して一定の事柄を実施することを求めているからです。その期待にこたえることは決して易しいことではありませんが、彼らはそのような教えを受け入れています。彼らは家族の生活に一体感を与える確かなもの、また家族として受け入れることのできるものを求めています。彼らはそれを教会の中で見いだしています。」

ヒンクレー大管長は会衆に向かって次のように述べている。「皆さんは世界中で最も良い民でなければなりません。なぜならば、皆さんは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員だからです。皆さんは主の御名を自分に受けています。主の戒めを守ると聖約しています。そのように行うならば主は祝福を注ぎ、主の御霊<sup>みたま</sup>がともにある、と主は言われました。」

アラン・ワークリー、太平洋地域広報ディレクター。オーストラリア、シドニー発。□



シドニーで開かれたファイヤサイドの模様。全員で賛美歌を歌う際、手話で表現する会員たち。

PHOTOGRAPHY BY ALAN WARKLEY

## モンソン副管長，フランスを訪れる

大 管長会第一副管長のトーマス・S・モンソン副管長は先ごろ、パリとリヨンで開かれた二つの地区大会で7,000人を超えるフランスの教会員に対して説教を行った。モンソン副管長はまた、神権指導者を管理し、専任宣教師との集会を開いている。

5月3日から11日までのモンソン副管長の訪問旅行に同行したのは、フランス夫人、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老とパトリアス夫人である。七十人でヨーロッパ西地域会長会第二副会長であるジーン・R・

クック長老は、5月3日と4日にパリで開かれた集会に参加し、七十人でヨーロッパ西地域会長会第一副会長を務めるニール・L・アンダーセン長老は5月10日と11日にリヨンで開かれた集会に参加した。

モンソン副管長はパリにおいて、フランス北部とベルギーから参加した4,000人を超える会員に対して、祈りの家、断食の家、信仰の家、学びの家、栄光の家、秩序の家、神の家を建てることの重要性について述べた（教義と聖約88：119参照）。

リヨンで開かれた地区大会は当日が母の日に当たっていた。モンソン副管長は「忘れられた母親、記憶にとどめられた母親、称賛された母親、愛された母親」について語った。

モンソン副管長は息子が訪ねてくるのを長い間待ちわびていた一人の母親について紹介し、その忘れられた母親について考えると「わたしは心が引き裂かれる思いがします」と述べた。その息子はとうとう母親のもとを訪れなかった。モンソン副管長は両親を敬うように、と参加者に勧告した。□

## アロン神権ファイヤサイドの衛星中継

「わたしたちはモルモンの開拓者が1世紀半前にソルトレーク盆地に到着したときのことを思い起こしています。」1997年5月18日テンプルスクウェアのタバナクルで開かれたアロン神権150年記念ファイヤサイドにおいてゴードン・B・ヒンクレー大管長は語った。このファイヤサイドの様子はアメリカ合衆国、カナダ、プエルトリコ、ハイチ、ジャマイカ、ドミニカ共和国の3,000か所を超える集会所で放送された。

ヒンクレー大管長はアロン神権を受けることによって授けられる神の権能について次のように述べている。「わたしは皆さんがこのことについてある程度の理解を持つように願っています。このことに心から感謝していただきたいと思います。天父の憐れみによって受けている貴い賜物について、時々立ち止まって考えていただきたいと思います。」

ヒンクレー大管長はまた若い男性に対して、彼らが今日遭遇する問題について勧告している。「150年前の若い男性が直面した問題と今日の問題は同じものではありません。けれども現代も過去の時代と同じように問題が実際に存在し、しかもそれらの問題は150年前よりもはるかに命取りとなるような危険をはらんでいることが多いので

す。」大管長は若人に対して、薬物、アルコール飲料、ポルノグラフィ、下品で汚れた会話、主の御名をみだりに口にすること、不道徳、暴力行為を避けるようにと語った。「これらすべての事柄に近づいてはなりません。毅然とした態度でこれらを退けてください。かつての世代の人々が彼らの問題を克服できたように、現代の世代の人々もその問題を克服できることを証明してください。」

「わたしたちは勇敢な開拓者の若者であるとか、各地で何かの偉業を成し遂げた話を耳にすると、一部の若い男性は自分にそのようなことができると思えないと考えることが往々にしてあります」と七十人会長会ならびに中央若い男性会長を務めるジャック・H・ゴーズリンド長老は述べている。「彼らは偉業を成し遂げる祝福を受けました。皆さんは与えられている神権によって、彼らと同じ祝福を受けることができます。」

ゴーズリンド長老はさらに続けて、若人は確かに「高貴な世代」であって、それを疑ってはならないと勧告した。また、両親と教会の指導者は若人が正しい道にとどまる方法を教えらる開拓者であることを理解しなければならぬと語った。「若い兄弟たち、皆さんは特別なことを行わなければならま

せん。皆さんの前を歩いている人々の言葉に耳を傾け、彼らの経験から学んでください。そうしたら、自分が行く道をはっきりと示してください。ほかの人々があなたの後ろを歩いていることを忘れてはなりません。」□

### 中央 若い男性 副会長の異動

大管長会は七十人のボーン・J・フェザーストン長老を太平洋地域の会長に任命し、中央若い男性第一副会長から解任したことを発表した。

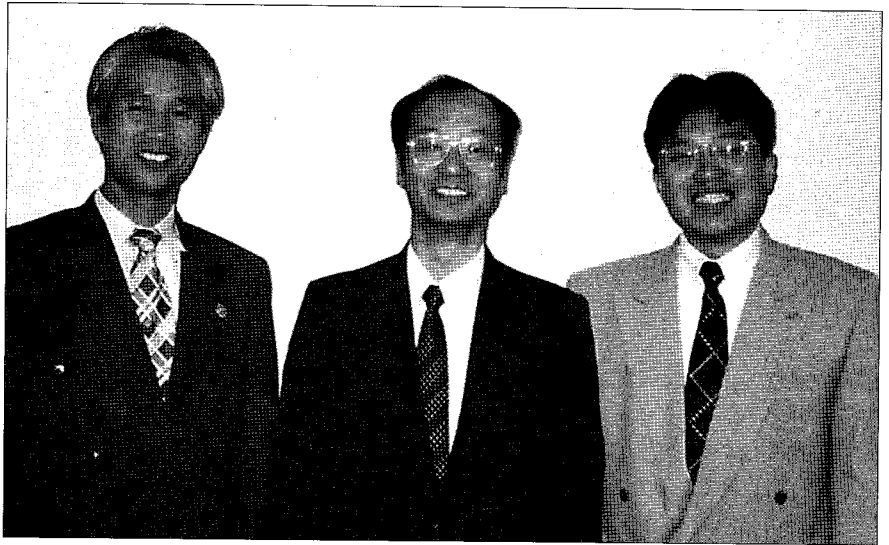
中央若い男性第一副会長の後任には、第二副会長を務めていたF・デビッド・スタンレー長老が、第二副会長にはロバート・K・デレンバック長老が召された。両者は七十人定員会の会員である。

スタンレー長老とデレンバック長老は、七十人会長会のジャック・H・ゴーズリンド長老を補佐して働くことになる。ゴーズリンド長老は、1990年10月以来、中央若い男性会長を務めている。□



# 再組織された郡山地方部長会

去る7月6日、仙台伝道部の吉野和洋部長管理の下に開催された郡山地方部大会で、1989年より地方部長の責任を果たしてきた齊藤雄仁兄弟が解任され、新たに神尾茂兄弟（写真中央）が召された。第一副部長には梶内英一兄弟（写真左）が、第二副部長には関根久兄弟（写真右）が召され、その任に当たる。



## みこころ 主の愛を受けて御心のまま歩む

郡山地方部長  
神尾 茂

### 初めての祈りから

大 学1年の秋口に入ったころ、人生とは何なのか、生きていくということはどういうことなのかいろいろ考えていました。どこか近くの教会へ行ってみようと考え、近所にあった白楽の教会（今の横浜ワード）へ行きました。

ところがその日は大会で教会にはだれもいませんでした。気を取り直し、次の週にまた行ってみると、先週と打って変わって大勢の会員の方がおられ、びっくりしました。そのたくさんの人々が歓迎してくださったこと、またとても大切にしてくださったことを今も感謝しています。

ほどなくして宣教師からレッスンを受けることになりましたが、「知恵の言葉」のところで引かかりました。わたしはそのとき、生まれて初めて真剣に祈りました。「わたしはこれからの1週間、これまでどおりの生活をし、次の1週間は戒めを守りますので、福音が真実ならば示してください」と心

より深く祈りました。

すると、戒めを守っていない間は（当時学生だったわたしには大金だった）3,000円をなくしたり、買ったばかりのセーターをなくしたりと散々な目に遭いました。ところが戒めを守っているときは、よいことが起こり物事が恐いくらいにスムーズに運びました。これらの経験から、福音が真実であるとはっきり分かりましたので、宣教師にそのことを報告し、バプテスマを受けました。ちょうど20歳のときでした。

### 天が開かれ

それから2年後、メルキゼデク神権を受けました。当時はちょうど横浜ステーキと東京ステーキに分かれたころで、横浜のステーキ会長が現在の地域七十人である柏倉仁長老、按手聖任を施されたのは第一副会長であった坂井圭兄弟でした。そのときの経験は一生忘れません。

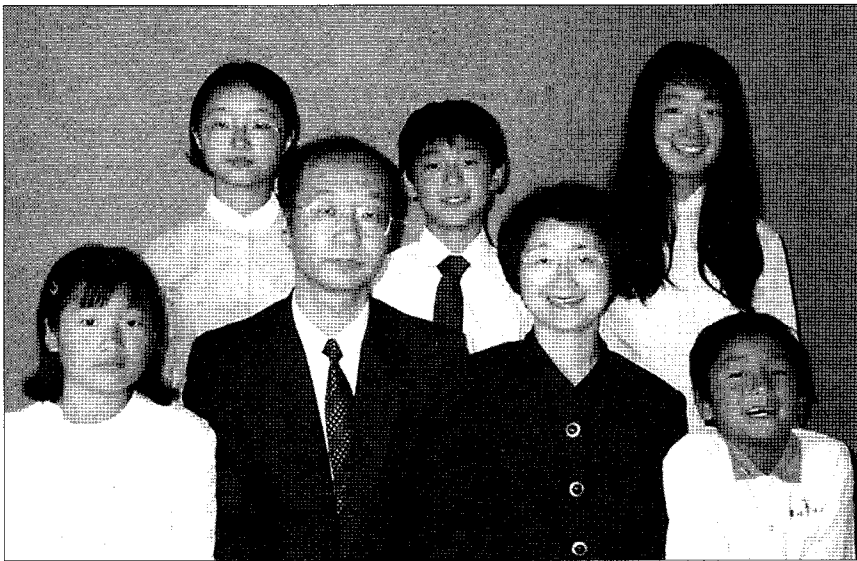
按手を受けている間、不思議なことを感じていました。それは、自分の頭

の上から一つの柱が天まで開かれたような感覚でした。とても不思議な経験でした。どんな祝福を受けたかという記憶は薄れましたが、その感覚と、部屋を出てしばらくドアの外で、静かにその感覚の余韻に浸っていたことははっきりと覚えています。

### みこころ 御心のままに

それから仕事に就き、いわき支部に来てから支部長の責任を3回、通算13年も経験させていただきました。その時代にもいろいろな経験があります。失敗の連続でした。今でも小さな失敗はあります。そのとき思い出す聖句があります。

「もし人がわたしのもとに来るならば、わたしは彼らに各々の弱さを示そう。わたしは、人を謙遜にするために、人に弱さを与える。わたしの前にへりくだるすべての者に対して、わたしの恵みは十分である。もし彼らがわたしの前にへりくだり、わたしを信じるならば、そのとき、わたしは彼らの弱さを強さに変えよう。」（エテル12：27）



神尾ご家族

この聖句はわたしにとって慰めとなります。また、ある人はこのように言いました。「失敗をしても、神様とイエス様は罰を与えるのではなく、次のチャンスを与えてくださいます。」わたしもそのとおりでと思います。

この福音を通して、わたしは良き伴<sup>はん</sup>侶<sup>りよ</sup>を頂き、5人の子供にも恵まれました。感謝しています。教会で奉仕するに当たり、子供たちがよく協力してく

れるので、とても感謝しています。また、この責任を感謝しています。責任を通し成長する機会が与えられたことを感謝します。背伸びせず自然体で、自分のできることをやっいてこうと思います。自分の力はまだまだ弱く、霊的にも成長途中です。自分の思いではなく、御心<sup>みこころ</sup>のままにできればと思っています。

最後に証<sup>あかし</sup>をしたいと思っています。この

業は主イエス・キリストの業です。神権を通して仕えることができますことを心より感謝しています。聖霊に感謝しています。神様は生きています。そして、わたしたち一人一人を愛しておられます。神様とイエス様は愛の深い御方です。わたしにはその深さを計り知ることができません。わたしたちがもしくじけたとしても、神様は決してあきらめたりなさらないことを証いたします。(かみお・しげる)

## 神尾 茂地方部長 の紹介

1952年いわき市湯本町に生まれる。神奈川大学機械工学科卒業。クリナップ株式会社勤務。1976年に佐藤 操姉妹と結婚、5人の子供がいる。上からいずみ(15歳)、のぞみ(14歳)、守(12歳)、ひとみ(10歳)、真(7歳)。教会にあっては、これまで副地方部長、支部長、副支部長、長老定員会会長などの責任を果たしてきた。いわき支部所属。

## あびこ 献堂された我孫子ワード教会堂

### 我孫子ステーキ我孫子ワード 三輪秀世

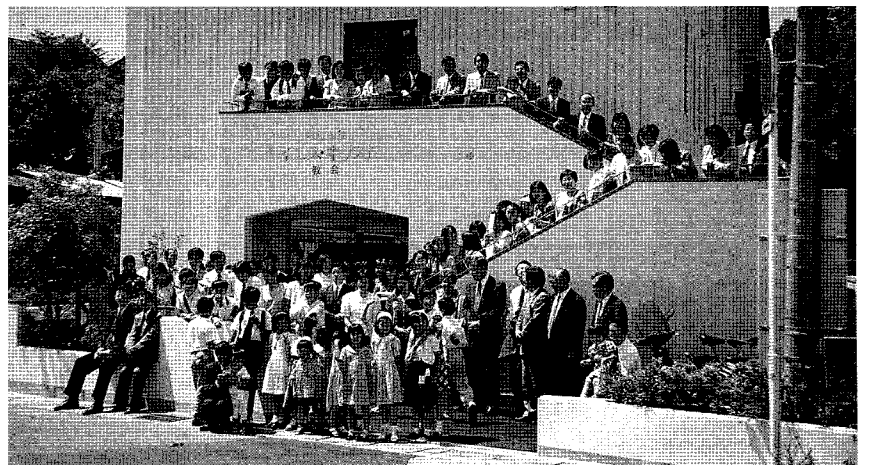
6月29日は我孫子の会員にとって二重の喜びの日となりました。念願であった新教会堂の献堂式を迎えただけでなく、支部からワードへの組織変更も同時に発表されるという思いがけない祝福を受けたのです。

我孫子ワードは5年前(1992年9月)、当時の東京東ステーキが我孫子・東京東ステーキに分割された際、牛久ワードと松戸ワードを再編して、両ワードのちょうど中間に当たる我孫子の地に新設されました。すでに牛久・松戸ワードは10年以上前から教会所有の建物を頂いており、そこに慣れ親しんでいた会員にとって再び貸しビルでの集会を持つことはある意味でチャレンジと

なりました。定期的な会員による清掃、猛暑の中で顔を真っ赤にしながら参加した集会、少ない部屋をやり繰りして行ったレッスンや面接など、まさにかつて望郷の念に駆られてニーファイの地に向かったゼニフの心持ちに似て、

牛久や松戸に集ったころに戻りたいような心境でした。

したがって建物を持つことは当初からの第一目標であり、それはすぐにも実現するのではないかと考えられました。しかしながら、実際には5年の歳



月を要したのです。同じステーキ内でつくばワードが先行したこと、適地を探す時間を要したこと、建設前に遺跡調査にかかわる調整が必要であったことなど、各段階で思わぬ時間を要したためです。

しかし主の行われることにはすべて意味があります。わたしたちは決して無駄な時間を待たただけではありません。かつての聖徒たち、例えばイスラエルの民は約束の地に立つまで40年の長きにわたり荒れ野を放浪する生活を経験しなければなりません。また近代でも、ソルトレーク盆地に生活の基盤を築くまでに、幌馬車や時には手車で2,000キロもの大平原を越えなければなりません。聖徒たちはこれらの経験によって鍛えられ、主を身近に感じる祝福を得たのです。もちろんわたしたちの経験はこれらと比較するほどのものではありませんが、以前と違って建築資金を集める苦勞もなく、建築宣教師など自らの手によって建設することもないうちで、建物を頂くまでの訓練の機会は形を変えてぜひとも必要であったと思われます。わたしたちはこれによって主の愛を感じることができ、エアコンの効いた快適な環境で主を礼拝できる感謝の気持ちを抱くことができ、そして主の建物を美しく維持しようという決意を新たにすることができました。

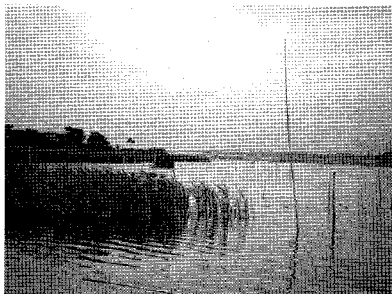
会員たちがいかに感謝し祝福を感じていたかを示す事例は引越しの日にもありました。わたしたち支部長会は、引越しの時間設定について、借りていたビルが駅前であって遅くなると人通りが多くなることなどを考慮し、早朝の6時にスタートすることにしました。

内心ではどれだけの会員が集まってくれるだろうかと心配をしていましたが、朝早い時間にもかかわらず初等協会の子供たちも含めて大勢の会員たちが集まってくれました。中には出勤前の時間を割ってくれた兄弟、引越し作業後の食事の準備までして参加してくれた姉妹もおり、予定した時間の半分で滞りなく引越しを終えることが



できました。

ある兄弟は「我孫子支部発足以来の会員の一致を見た」と述懐していましたが、まさしく主が様々な事柄を通してわたしたちを祝福していらっしゃる事が分かります。



我孫子ワードは、志賀直哉をはじめ多くの文人、芸術家の住んだ景勝の地、手賀沼のほとりに建っている。

主は実に生きていらっしゃる。わたしたちは新しく頂いた建物にふさわしい民となるべくさらに主に訓練されることを願っています。(みわ・ひでよ 監督)

### 我孫子ステーキ 我孫子ワード

所在地 〒270-11

我孫子市白山1-7-15

電話 0471-85-4601

竣工日 1997年5月24日

敷地面積 758.40平方メートル

建築面積 250.96平方メートル

延床面積 671.08平方メートル

## しのろ 献堂された篠路支部教会堂

札幌西ステーキ篠路支部

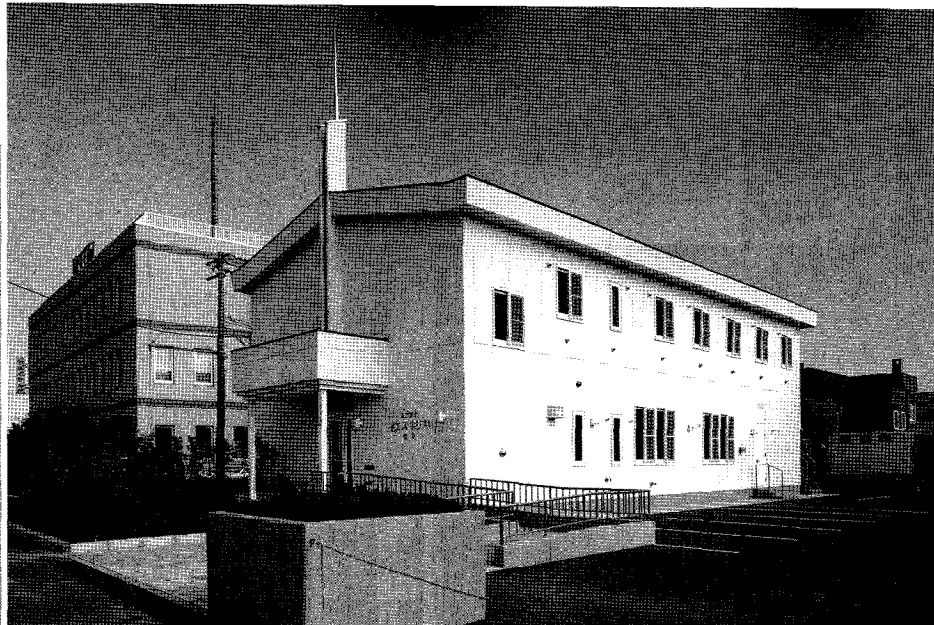
菊地 敏

篠路支部は約5年前、新琴似ワードから分割され、JR篠路駅前に農協の旧店舗を借りて集会を行ってきました。しかし篠路支部の全員は主の御旨にかなう礼拝堂が欲しかったのです。

昔、雨漏りのする民家で集会をしていたこともありますから、それを思えばそこは広く、駅にも近く、比較的恵まれた方だと思います。しかし冬はうっかりするとトイレの水が凍結して出なくなるし、寒くてコー

トを着ながら集会をしたこともありました。大きな部屋を間仕切りで仕切っただけの各部屋からは賛美歌やお話が筒抜けでした。

そこで会員一人一人が、大人も子供も自分でできることを考え、行いました。ある姉妹は約80歳にもかかわらず、毎月神殿に行ってお祈りをしてくださいました。また一人でも多くの人が教会に参加してくれるように個人個人で祈りました。その祈りがかなって、多くの人が毎週の主の日の礼拝に集ってくださいました。多くの人が毎日の仕事で疲れていても、主との聖約を果たすために



主を礼拝しました。

特に看護婦さんたちや医療関係に従事する方々が、夜勤などで大変な中、教会に集われるのを目の前にして、主は建物をこの地に与えてくださるに違いないと確信しました。こんなにすばらしい教会員が大きな努力をして集われるとき、わたしのような未熟な者ですら彼らに建物を与えたいと思うのだから、主は必ず与えてくださると思いました。

そして5年後の7月、ついに建物が与えられ、感激のうちに教会に集っています。心地よいクラス、すばらしい教師、日曜日はわたしたちにとって祝福された日になっています。ましてここに集う教会員は、すばらしいです。神様が末日にとっておかれた優れた霊たちです。彼らと一緒に教会に集う喜びを感じています。

また建築に当たってくださった方々

の中に一人も事故がなかったこと、良い工事をしてくださった方々、またご尽力くださった管理本部の皆様、ステーク会長会の皆様、中でも特にこれらの建物をこの地に与えてくださった神様に心から感謝します。この建物も

### 札幌西ステーク 篠路支部

所在地 〒002

札幌市北区篠路二条2-8-14

電話 011-775-1512

竣工日 1997年7月5日

敷地面積 1,333.53平方メートル

建築面積 188.45平方メートル

延床面積 351.30平方メートル



(第3種建設物許可)

平成9年4月15日(火)

篠路支部の会員たち、献堂式の日に。

#### 日 建 新 聞

**シボレットス販売 完全乾式、免震対応に**

札幌市北区的篠路に在りて居る「五丁目新街イース」が、シボレットス販売の完全乾式、免震対応の建築工事が完了した。

この建築工事は、シボレットス販売の完全乾式、免震対応の建築工法を採用している。この工法は、従来の建築工法と異なり、コンクリートの打設や養生が不要で、施工が迅速かつ安全である。また、地震に強い構造を実現している。

この建築工事は、シボレットス販売の完全乾式、免震対応の建築工法を採用している。この工法は、従来の建築工法と異なり、コンクリートの打設や養生が不要で、施工が迅速かつ安全である。また、地震に強い構造を実現している。

**外壁ALC、SDR構法で**

札幌市北区的篠路に在りて居る「五丁目新街イース」が、シボレットス販売の完全乾式、免震対応の建築工事が完了した。

この建築工事は、シボレットス販売の完全乾式、免震対応の建築工法を採用している。この工法は、従来の建築工法と異なり、コンクリートの打設や養生が不要で、施工が迅速かつ安全である。また、地震に強い構造を実現している。

この建築工事は、シボレットス販売の完全乾式、免震対応の建築工法を採用している。この工法は、従来の建築工法と異なり、コンクリートの打設や養生が不要で、施工が迅速かつ安全である。また、地震に強い構造を実現している。

ドリルで開孔、パイプアンカーを挿入

ウワプレート在先付け(上が内側)

●札幌西ステーク篠路支部の建物は、地震に対応した特殊な構法で建てられている。地震の際、建物の外壁パネルが小回転(ロッキング)して壁にかかる力に柔軟に対応し、ひび割れ、はく離を防止するというもので、阪神・淡路大震災以来、普及が進んでいる。今回、篠路支部新築工事の記事が業界新聞に採り上げられた。

【日建新聞】1997年4月15日付け

# 開拓者記念



1997年7月19日 開拓者記念全世界奉仕日 世界各地で行われた奉仕

(Church News [チャーチニュース] 1997年7月26日付け)

## 全世界の会員が300万時間をささげる

7月19日、大管長会の呼びかけにこたえ、世界各地で一齐に開拓者記念全世界奉仕日を実施された。これは末日聖徒のソルトレーク盆地到着150



千葉県ちやうせいの長生ちやうせいワードでは、教会堂のすぐ近くに広がる九十九里浜の海岸を1.5キロにわたって清掃した。

周年を記念し、同時に世界中のあらゆる時代、地域で教会の確立に尽力した開拓者たちを敬い感謝するために行われたものである。

大管長会はすべてのワード、支部で、社会奉仕を行うよう奨励し、全世界2万以上のユニットにおいて行われた奉仕は推定300万時間に達した。上の表に挙げられたものは世界各地で行われたもののごく一部でしかないが、地域の特色を生かした様々な奉仕がなされたことが分かる。

日本においては、浜辺、河原、池畔、公園や観光地、道路、駅、病院、教会周辺など公共の場所の清掃、空き缶拾い、花壇の設置、老人ホームや障害者施設での奉仕、献血など、約5,000人の会員が少なくとも総計1万280時間に及ぶ社会奉仕を行った。□



独立ユニットとなって今年で25年目を迎える八王子第2ワードの会員たちは、くしくも開設25年の身体障害者養護施設、東京都多摩更正園を訪れ、おむつの裁断、縫製や園内の美化を行った。奉仕団体の訪問は園開設以来初めてのことだという。

# 歓喜の涙で終わった旅路

開拓者記念の旅への参加者、傷と痛みをこらえながらソルトレークに到着

チャーチニュース記者  
ショーン・D・スタール

**彼**らは、ネブラスカの冷たい雨に打たれたり、インディペンデンス・ロックの影で踊ったりして旅を続けた。幾度もテントが倒された風の強い夜には、バプテスト教会に泊めてもらったこともあった。

モルモン街道の幌馬車での旅を再現しようとした一行は、水膨れのできた唇と痛む足に耐えながら、ついに93日間の旅を終え、7月22日、ソルトレーク盆地に入り、英雄として迎えられた。

「皆さんを迎えようとしてどれだけの人々が集まったかを見てください。」ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、丘に列を成す人々や「デイス・イズ・ザ・プレース州立公園」の駐車場を埋め尽くした推定5万人の人々を指して述べた。

参加者たちを出迎え、あいさつを交わしたヒンクレー大管長は、彼らの日に焼けた顔や無精ひげを見て「皆さん、いかにも千里の道を旅して来たように見えますね」と笑みを浮かべて語った。それはまさに近代の開拓者たちが成し遂げたことそのものだった。彼らはネブラスカ州ウィンタークォーターズ（現在はオマハの一部）からソルトレーク・シティーまでの1,070マイルを旅したのだ。

記念式典では、トーマス・S・モンソン第一副管長とジェームズ・E・フ



記念式典を見るために公園に集まった約5万人の観衆。



「デイス・イズ・ザ・プレース州立公園」に立つブリガム・ヤングの記念碑が、人々の歓声に迎えられて公園に入る参加者たちの幌馬車を見下ろしている。

ァウスト第二副管長がそれぞれ開会と閉会の祈りをささげた。マージョリー・ヒンクレー姉妹、フランシス・モンソン姉妹、ルース・ファウスト姉妹も同伴とともに記念式典に参加した。

式典の司会は、十二使徒定員会会員であり、教会の150年記念祭実行委員会委員長でもあるM・ラッセル・バラード長老が務めた。夫人のバーバラ姉妹も同席した。

また、記念碑の近くの席には十二使徒定員会の会員の数人が夫人とともに座り、七十人の多くも夫人を伴い、観衆とともに出席した。

開拓者を記念して彼らの旅した道をたどるというこの企画は教会の主催によるものではないが、4月21日に開始され、可能なかぎり開拓者の旅した道を通って行われ、参加者はネブラスカ州、ワイオミング州を経てユタ州に入った。そして1847年に先発隊がソルトレーク盆地に到着してから150年後、ついに参加者たちは歓喜の涙を流しながらソルトレーク盆地に到着したのである。

「皆さんは実に特別な偉業を成し遂

げられました。」ヒンクレー大管長は、長旅を終えた人々に向かって語った。「皆さんはわたしたちすべての想像をかき立ててくださいました。……皆さんのおかげで、世界中の何百万、何千万という人々が、わたしたちの先祖がノーブーヤリバプアルから山々を越えてこの盆地に移住してきた、比類なき物語に目を向けました。」

開拓者記念の旅は当時の開拓者の経験を完全に再現するものではないが、ヒンクレー大管長の言葉を借りれば、彼らは「150年前の苦難に非常に近い経験をした」と言える。

「皆さんの幌馬車の車輪もまた、ネブラスカの砂地に深く沈んだことでしよう。ワイオミングの青い空に映し出された皆さんの幌馬車のシルエットは、ユニークな、驚くべき美しい風景を新たに作り出しました。皆さんが成し遂げたことには、ロマンがあります。しかし苦難もありました。」□

(Church News『チャーチニュース』1997年7月26日付け)

●次ページに関連記事→

# モルモン街道1,700キロに行く

～関口家族の100日間～

開拓者150年を記念して、当時の開拓者の旅を再現する「開拓者の道」(「モルモン・バイオニア・トレイル」)へ日本から参加した関口家族(関口治・貴子夫妻、長男の優治くん、次男の航治くん)がこのほど約100日間、1,700キロに及ぶ旅路を踏破して帰国した。

一行は4月17日にネブラスカ州オマハ(ウィンタークォーターズ)に集合、21日に出発し、ワイオミング州を経てユタ州へ、<sup>馬車</sup>馬車、手車とともに当時の服装で歩き、7月22日、ソルトレーク・シティーに到着したものである。

関口兄弟は、家族のきずなを再確認し、信仰の原点をたどる旅の様を現地からパソコン通信で発信、全国の小中学校ほか多くの人々の関心を集めた。

東京北ステーキ中野ワード

関口 治

**体**が押し戻されるような強い寒風の中を歩くこと。ほこりに口や鼻を押さえながら馬車の後ろに続くこと。泥にまみれて雨の中でテントを立てること。これらはとてもつらいことです。しかし、子供たちに同じ体験をさせるのは、もっとつらいことです。

ネブラスカ州ウィンタークォーターズ(現オマハ)からユタ州ソルトレークまで、約1,700キロ、100日間の旅を通じて、毎日がこのような状況でした。

「今日(きょう)はいい天気だった」と振り返れる日は、ネブラスカ州では数日しかありませんでした。ワイオミング州に入ってから、だにと蚊に悩まされ続けます。記録によれば、150年前の開拓者も蚊によって「体が運ばれる」ような思いをし、時にはぬかるみの中、



日に2キロほどしか進めないこともあったようです。

子供たちの<sup>頬</sup>が日に焼けてかさぶたができ、うみのようなものが出来ます。足の指の付け根が切れ、つめは黒くなります。唇も皮がむけ食事の度に血が出てしまいます。恐らく150年前の開拓者は、もっと過酷な環境の中、精神的にも疲れ果てて旅を続けていたのではないのでしょうか。

毎日毎日、西を目指して進みますが、景色はほとんど変わらず、ソルトレークが終着地であると分かっているにもかかわらず、見えない場所を目指すことは不安の募る旅です。それを考えると、150年前にいつ終るのかもしれないまま、苦難に耐え続けた開拓者の偉大な信仰と信念には敬意を払わずにはいられません。

ただでさえつらい旅であったにもかかわらず、開拓者たちは後世に偉大な業績を残しながら旅を続けました。距離計測器を発明し、移住者のガイドブックを作ったり、歌を作ったり、後から続く人々のために作物を栽培したりもしました。それらは、教会員ではない人々にも恩恵を与えました。

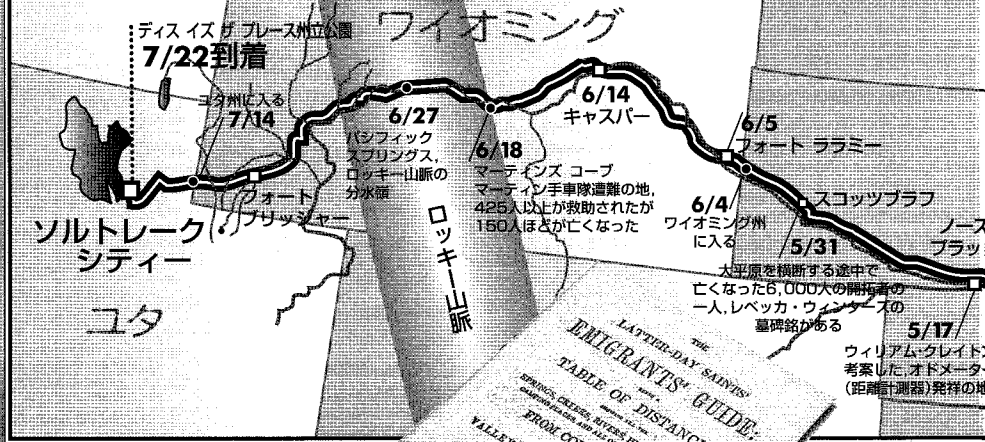
時にわたしたちは、現代に生きる者が最も優れているような錯覚に陥りがちですが、過去を生きた人々の中には、あらゆる面で驚くような資質を備えた人々が多くいたということに注目すべきかもしれません。

150年前の開拓者が歩んだ道をたどりながら、「彼らは何のような気持ちでここを歩いていたのだろう」、「なぜ旅をやめなかったのだろう」と度々自

問することがありました。

子供の亡骸を荒野に残さなければならぬ父親の無念さ、夫や子供に先立たれながらも西を目指す女性の心の戸惑い、親と別れた幼い子供たちの恐怖感。それらは想像を絶するものです。360度に広がる平原の中に立ち、度々開拓者の気持ちを感じようと努力しましたが、わたしにとってはとても難しいことでした。「ほんとうに約束された土地に着くのだからか？」開拓者の多くもこのような不安感と闘い、ブリガム・ヤングをはじめとする指導者たちも、人々が試練によって信仰を失うことがないように力を尽くしました。

比較することは困難ですが、現代に生きるわたしたちも、同じような問題を抱えているかもしれません。価値観が大きく変化する社会で、不安と疑問の中で信仰を貫くことはとても勇気の要ることです。また、そのような人たちを慰め、柔和な心によって励ましている方々は、それぞれの地域でのほんとうの開拓者であり、主の宝のような方々だと感じます。



旅は常時約300人の人々で続きます。60台近くの幌馬車が連なり、10台ほどの手車が続きます。大勢で移動を行うため、



予想もしなかった問題も多く発生します。そのようなとき、リーダーに決断を任せ、従って行くことはとても重要です。目的を明確にし、協力し合うことができないならば、大きな事故へと発展する場合があります。時には、命さえも失うような危険に遭遇することも度々ありました。参加している人達の目標がはっきりとし、それに向かっていくとき、お互いの小さな欠点や過ちを指摘し合うことはあまり重要なことではなくなります。しかし、全員の目が目指す場所に向けられていないとき、ささいな問題で混乱が生じます。小さな問題が大きな問題へといつの間にか変わってしまうのです。「西を目指す」という共通の目的は、参加者の気持ちを一つとしました。度々教会で聞かれる「主にあって一つとなる」とは、個人個人の考えを統一することではなく、各々が自由な意識や生活の中で、主の方を目指すという共通の目的を持つこと

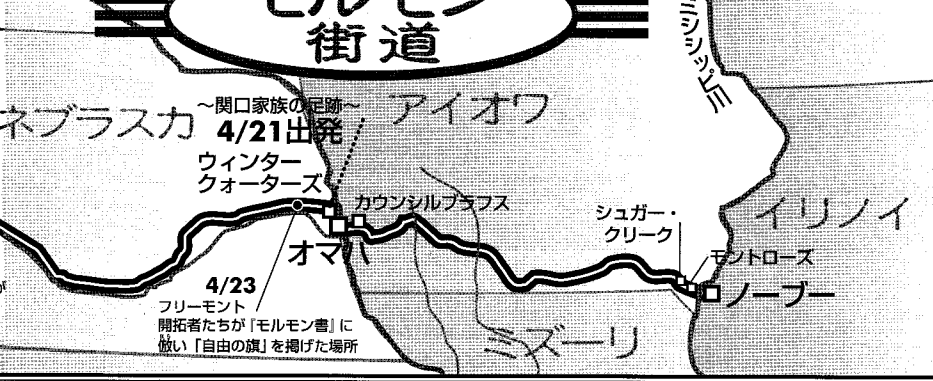
だ、と知りました。そのような状況の中で、わたしたち教会員は人生においても、ともに「西を目指す」ことができると感じました。

また、今回の旅では、開拓者の軌跡を追うだけではなく、教会の広報活動についても深く知る機会に恵まれました。「150年前の開拓者の旅を再現する」という単純な題材を、世界中から130以上ものメディア各社が訪れ、一般の組織や他宗派からの協力を受けるような方向に形づけていった広報スタッフの方々の秀でた企画力には驚かされました。インターネットを通じて、日本とアメリカの広報スタッフから頻繁に連絡を受けながら、毎日のように取材に対応することとなりました。宣教師が出かけて行く前に、開拓者として教会本来の良いイメージを伝えることが、広報としては大切であると認識することもできました。

ソルトレークへの到着前日、山の頂に差しかかったとき、遠くにはんやりとソルトレークの町が見えました。立ち並ぶビルが太陽の光を浴び、ほのかな輝きを放っていました。見えなかったものが姿を現し、目指していたものを確認できるということは、すべての不安を取り去り、希望や喜びをさらに大きくします。100日近くも旅を続けてきたわたしたちにとっては、目指し

「恐れず来たれ、聖徒」(『賛美歌』17番)を作詞したウィリアム・クレイトンが作った『移民の手引き』。ウィントンクォーターズからソルトレークまで街道沿いの日田や長崎など旅に必要な情報が記されている。末日聖徒に限らず西部を目指す人々に広く恩恵を与えた。





関口家族は、長野県の長野市長と松本市長からソルトレーク・シティ市長にあてたメッセージを携えて旅してきた。到着後のセレモニーでメッセージをコーラディーニ市長（左端）に手渡す関口家族。

ている場所に主が栄光を置かれているように感じ、あふれる涙を止めることができませんでした。



無事到着をヒンクレー大管長に報告される。  
 日本人として先祖に150年前の開拓者を持つ方々はいないかもしれませんが、あらゆる状況の中で開拓者と呼ぶにふさわしい方々が日本にも大勢いらっしゃいます。ある方は家族の中でたった一人の教会員かもしれませんが、またある方は職場や学校にあって、唯一の教会員かもしれません。そのような方々は150年前の偉大な開拓者と同じように、不安や周囲の

圧力の中で度々主に祈りをささげていることと思います。このような方々こそが、150年前同様、主の教会にあって礎を築いているのだと感ぜずにはいられません。

モルモン街道をたどり、150年前の開拓者に思いをはせながら、現代にも多くの開拓者がいると知ることができたのは、旅を通じて、最も意義深いことのひとつであったように思えます。  
 (せきぐち・おさむ 副監督)



上—1700キ口を踏破した関口兄弟の靴。子供たちは行程中、2足の靴を履きつぶしてしまったという。

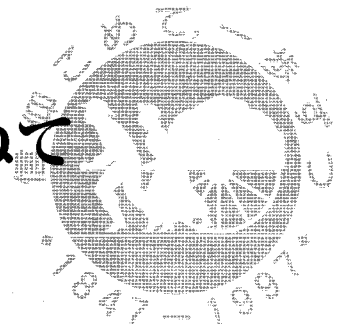
左上—野生のアンテロープ(姿の優美なウシ科の哺乳動物の総称)の骨。モルモン街道には多くの野生動物の骨が転がっている。関口兄弟は満天の星空の下、子供たちとそれらを見ながら死や永遠といった価値観について話す機会を得た。

左一現地からのパソコン通信のための電力を供給したソーラー発電パネル。これを5枚使って自動車用のバッテリーに蓄電した。

5月15日(木) 快晴  
 少し寝過ぎしてしまったので、起きたのは5時40分だった。  
 「何だか、また恐ろしい朝食のような気がするから、ちょっと、偵察してきてくれ」子供たちに伝える。  
 「シナモンロールとハム」との報告。「了解」今日は朝食を取らないことにした。  
 ゴセンバークを7時に出発し、次の町、プラディを目指すこととなった。非常に快適な朝である。天気は良く、そよ風が心地よい。  
 「毎日これだったらいいわね。」黄子が隣で言う。「そうだな。」返事をするが、二人ともネブラスカの天気をまったく信じていないので、会話は続かない。雲一つない快晴である。  
 「大雨が来るかもな。」  
 「そうかもね。」  
 「夜は嵐になるかな。」  
 「そうかもね。」  
 非常に会話が弾んだ。

5月20日(火) 晴れ 24度  
 さて、今日は非常に神聖な経験をした日であった。通過する途中の土地に150年前に埋葬された開拓者の子供の墓があった。3歳で亡くなった男の子であったらしいが、詳細は不明である。家族はおかみに遺体が食べられないように、布で巻いてしっかりと埋葬したようであった。午前11時近くにそこに立ち寄り、ネブラスカで、モルモン街道協会の会長を務めるブライアン・ヒル兄弟によって特別な祈りがささげられた。一つの石が無造作に置かれた「墓らしき」場所に皆が輪になり、ヒル兄弟の祈りがささげられた。  
 「3歳の子供には絶対きつい旅だったよね。」妻の前に立つ優治と航治の肩をしっかりと握りながら言う。「きっとだれも戻って来なかったんだろうな。」そう思うと胸が痛くなった。  
 頭を垂れながら祈りに参加する人たちの中から、すすり泣く声が聞こえる。  
 みんな同じことを感じているんだ。  
 殺伐とした土地で、むせび泣くように絶え間なく吹く風。この土地独特の砂が舞っては、積もり、それが150年間も繰り返されてきた。途方もなく寂しく、せつない気持ちにさせられる。

5月24日(土) 雨 19.5度 高度1,075メートル  
 テントから出ると霧が深くかかっていた。かすんだ中でみんながテントを片付けている姿が影絵のように浮かび上がっていた。毎朝6時30分にミーティングが行われるのだが、先日ろぼにけられた子供の父親が子供を抱きながらコメントを述べた。2歳ぐらいの男の子だ。子供はもろに顔面をけられたにもかかわらず、目の下に親指のつまみほどの小さなあざを作っただけで、鼻も折れていなければ、頬骨も問題なかった。だれもが驚くような出来事だった。また、先日落馬し足を骨折したと思われていた日系人のウォルター・岡本兄弟も、軽い筋肉痛だけで復帰していた。月曜日からは再び馬に乗るらしい。先日、ノースプラットでラッセル・M・バラード長老がささげた特別な祈りの言葉を思い起こす機会となった。何回となく事故は起こっているが、だれ一人として大ききながには見舞われていないのは奇跡的なことだと度々感じてしまう。



**今**年は、ユタ州ソルトトレイク盆地に開拓者が入植して150年ということで世界中の聖徒が各地で記念行事を行っています。この機会を通して、わたしたちの信仰生活の基盤を築いてくれた開拓者への感謝の気持ちを強めることができます。また、日本で伝道が始まり2001年でちょうど100年になります。日本においては、わたしたちも開拓者です。そういう意味では、ユタの開拓者と同じように信仰という遺産を後世に伝えるという大きな責任を負っています。

そこでわたしたち地域家族歴史アドバイザーは、皆さんが楽しんで家族歴史探求を行えるように、これから様々な提案をしていこうと思います。わたしたちの開拓者である先祖を知り、またわたしたち自身が未来をつなぐ開拓者となるためです。今、家族で家族歴史の探求を始めましょう。それは、先祖や子孫の救いだけでなく、家族のきずなを強めることにもつながります。また、多くの喜びと祝福が得られることを心から証します。

今回はまず、全体を通して、大きな家族歴史探求の3つのテーマとその概要を紹介します。次いで今後数回にわたり、個々のテーマを掘り下げた提案を連載したいと思います。

\*

### テーマ1 先祖はわたしにとって開拓者です

「彼は父の心をその子どもたちに向けさせ、子どもたちの心をその父に向けさせる。これはわたしが来て、のろいをもってこの国を撃つことのないようにするためである。」(マラキ4:5)という聖句にあるように、先祖に心向けるということは単に記録用紙に名前を記入するだけではありません。そこには、先祖を深く知ることが含まれます。それによって、一人一人

の先祖に対する愛が生まれ、自分の家族に対する誇りが生まれます。わたしたちにとっての開拓者とは、おじいちゃん、おばあちゃんをはじめとする先祖の方々なのです。

先祖をもっと知るために以下のことを行ってみましょう。

#### ① 150年前(江戸末期)の先祖の記録を調べ、神殿で儀式を受ける。

開拓者150年記念にちなんで、150年前にわたしたちにはどんな先祖がいたか調べてみましょう。できればこの機会に神殿で儀式を受けることができばすばらしいですね。

#### ② 4代直系の家族歴史の探求を始める。

家族歴史は身近なところから始まりま

す。以下に挙げられていることを行ってみましょう。

● ルーズリーフかノートを準備し、まずは自分の知っている情報を書く。

次に両親、祖父母、親戚などに直接、彼らの人生について聞いてみます。たいてい喜んで話してくれるものです。

● 曾祖父母、祖父母、両親、いとこなどの写真や日記、記念品などを集める。

● 先祖のお墓参りをする。

お彼岸やお盆にお墓に行ってお墓を洗ってあげると家族にとっても喜ばれますし、系図を調べることにもっと協力してもらえるようになるでしょう。

● 系図旅行をする。

先祖の出生地へ行くことで先祖への思いは強まります。また、まだ自分の持っていない情報を親戚が持っていたり、近所の人から当時の話を聞けることもあるでしょう。

#### ③ 4代直系の家族歴史を見直し、死者の記録を提出する。

すでに記録を提出していても、何年かたって見てみると亡くなっている方も出てきますので、そうした方の儀式を受けてあげることも大切です。

### テーマ2 わたしは子孫にとって開拓者になります

わたしたちの子孫はこれから教会員として続いていきます。信仰を受け継いでいくという意味でもわたしたちはとても大切な立場にあります。ユタの開拓者も道中の記録をつづりながら旅をしました。その記録から、多くのことを学ぶことができます。わたしたちも人生という旅の記録を次の世代に残すべく、以下のことを行ってみてはどうでしょう。

#### ① 日記をつけ、

また個人の歴史書を作る。

歴史書を作る際に、折にふれて写真を撮っておくととても助かります。また、新聞や雑誌から、印象的な出来事をあなたの感想とともにスクラップしておくのもよいでしょう。

#### ② 家族や親戚の現存する写真を集める。

集めた写真によって、写真集や写真による系図表を作る。

こうしたものを子供たちと家庭の夕べで作るなら、家族のきずなを強めるとともに、家宝の一つとすることができるともかもしれません。

#### ③ 子供たちと一緒に、

定期的に家族歴史を見直す。

共同で作業をすることにより、子供に参加意識と興味を起こさせ、家族の受け継ぎの記録を残す準備をさせるとともに「父の心が子に」伝わっていきます。

### テーマ3 先祖はわたしたちにとって共通の存在です

先祖も藤原時代とか、平安時代になると系図は錯綜してきます。ここまでのさかのぼるとやがて先祖は一つにつながっていきます。自分の記録を出し終えたら、以下の4つのことをやってみましょう。

#### ① ワード/支部の会員の先祖探求を

- 手伝う。
- ②ワード/支部の会員の神殿儀式を助ける。
- ③人名抄出プログラムに参加する。

家族歴史部に保管されている記録から死者の名前を抄出し、神殿へ記録を提出するというプログラムです。このプログラムによって多くの方々の救いの儀式を執行しています。

- ④家族歴史宣教師として奉仕する。

現在、日本では召されていませんが、ソルトレークでは常時、各国から召された200人余りの宣教師が家族歴史図書館で働いていますし、オーストラリアでもその働きは盛んです。日本でも会員一人一人の家族歴史の探求が深まってくるにつれて宣教師が召され、よりいっそう家族歴史活動が盛んになっていくことでしょう。

\*

家族歴史の探求はとても奥が深いものです。一度にすべてを行えなくとも、長い目で取り組むことが大切です。皆様のご家庭でも、下のチャートで今

から数年にわたる計画を立て、家族歴史のすばらしい財産を築いてみてはいかがでしょうか。(つむら・またさぶろう)



あなたの写真や、今あなたの使っている聖典が子孫にとっては受け継ぎの記念として家宝になるかもしれません。

## わたしの開拓者の旅

\*いつまでに何を行うか、目標を書き込んでみましょう。

	1997	1998	1999	2000	2001
<b>テーマ1 先祖はわたしにとって開拓者です</b>					
1 テーマ	● 150年前(江戸末期)の先祖の記録を調べ、神殿に名前を提出する。				
	● 150年前の先祖のための儀式を神殿で受ける。				
	● 4代直系の家族歴史を見直し、死者の記録を提出する。				
	● 祖父母、両親、親戚などの写真、日記、記念品などを集める。				
	● 先祖のお墓参りをする。 ● 先祖の出生地へ旅行する。				
<b>テーマ2 わたしは子孫にとって開拓者になります</b>					
2 テーマ	● 日記をつけ、また個人の歴史書を作る。				
	● 家族や親戚の写真を集め、写真集や写真による系図表を作る。				
	● 家族の伝統、家宝を作る。				
	● 家庭の夕べをより充実させ、家族のさすなを強める。				
	● 子供たちと一緒に、定期的に家族歴史を見直す。				
<b>テーマ3 先祖はわたしたちにとって共通の存在です</b>					
3 テーマ	● ワード/支部の会員の先祖探求を手伝う。				
	● ワード/支部の会員の神殿儀式を助ける。				
	● 人名抄出プログラムに参加する。				
	● 家族歴史宣教師として奉仕する。				

## 専任宣教師

JMTC 215期生11人 海外1人 ●上から氏名、任地(伝道地)、出身ユニット



**児島太一**  
名古屋伝道部  
東京西ステーキ  
八王子第2ワード



**塚田真希**  
札幌伝道部  
東京西ステーキ  
八王子第1ワード



**大上智子**  
名古屋伝道部  
東京南ステーキ  
渋谷ワード



**船山真直美**  
名古屋伝道部  
東京東ステーキ  
小岩ワード



**新野良哉**  
仙台伝道部  
東京東ステーキ  
長生ワード



**バルディア・カロリーナ**  
福岡伝道部  
東京西ステーキ  
八王子第1ワード



**河本多恵子**  
札幌伝道部  
岡山ステーキ  
岡山ワード



**村上真心**  
福岡伝道部  
東京東ステーキ  
長生ワード



**野出基広**  
福岡伝道部  
東京北ステーキ  
浦和ワード



**夫婦宣教師**  
ペ・ヨンギョク・ジョン キム・スン・ソング  
岡山伝道部  
釜山ステーキ海雲台ワード



**山縣 忍**  
やまがた  
カルフォルニア・  
サンフランシスコ伝道部  
BYU第16ステーキ  
BYU第27ワード

## 役員の変動

1997年7月12日から9月3日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の変動(敬称略)

- 大阪東ステーキ茨木第一ワード  
監督: 梅本真一
- 沖縄那覇ステーキ那覇ワード  
監督: 長嶺将治
- 新潟地方部三条支部  
支部長: 大滝良作
- 東京東ステーキ鎌ヶ谷ワード  
監督: 岡本 亮
- 大阪堺ステーキ堺ワード  
監督: 瀬良 昇
- 新潟地方部  
地方部長: 加藤真一
- 富山地方部高山支部  
支部長: 高尾義信
- 富山地方部富山支部  
支部長: 密山正勝
- 松山地方部松山支部  
支部長: 山口大志

### 皆さんの原稿を募集しています

◎ご投稿の際には連絡先(住所、電話番号)、教会での責任(役職名)、所属ユニット名を記入し、写真を同封のうえお送りください。採用された原稿は一部手直しさせていただくことがあります。

◎お願い——海外に召される日本人宣教師を紹介いたします。伝道の召しを受け取り次第、編集室に写真を添えてお知らせください。(氏名〔フリガナ〕、伝道部名、召された月を明記)

◎あて先: 〒106 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会 『聖徒の道』編集室

☎03(3440)2666 FAX 03(3440)3275

### おわびと訂正

『聖徒の道』9月号ローカルページの「役員の変動」で、Nelson, Kent Allen兄弟が洗足池ワードの監督となっていました。東京第二ワードの誤りです。おわびして訂正します。

## 聖徒の道 購読キャンペーン実施中

『聖徒の道』の購読予約は、もうお済みでしょうか。国際機関誌『聖徒の道』購読予約のキャンペーンを行っています。『聖徒の道』は、現在23の言語に翻訳され、世界中で出版されている教会の国際機関誌の日本語版です。霊的なメッセージにあふれる『聖徒の道』をすべての方が購読されることをお勧めします。各ユニットの担当者へ、10月末日までにお申し込みください。年間購読料は2,400円です。

定期購読の際は、「銀行(または郵便局)引き落とし」にすると以下の点で便利です。

- 毎年の購読更新が自動的に行われます。
  - 更新の遅れや更新忘れがなくなります。
  - 購読されている方の申し込み手続きの手間が省けます。
  - 手数料はわずかです(年間150円)。
- ぜひご利用ください。



## 御霊みたまの力によるコミュニケーション

「わたしたちは、異言……の賜物たまものがあることを信じる。」(信仰筒条1:7)

**預**言者ジョセフ・スミスによると、異言の賜物の目的は「理解できない言葉のを話す人々に」福音を宣べ伝えるためです (Teachings of the Prophet Joseph Smith 『預言者ジョセフ・スミスの教え』148-149)。

十二使徒定員会会員のブルース・R・マッコンキー長老はこのように説明しています。「もっと劇的な現れにおいては、〔異言の賜物とその解釈〕は、話し手または通訳者自身がまったく分からない言葉をを御霊の力によって話したり解釈したりすることです。…主の宣教師が回復のメッセージをいっそう広めるために、外国語を話したり解釈したりする力を容易に身に付けるように、今日、普通に使われている言葉についても、このような賜物が現れることがよくあります。」(Mormon Doctrine 『モルモンの教義』800)

「ある人には、異言で語ることが許される。」(教義と聖約46:24)

ロンダ・パッテン・グロー姉妹は、多くの宣教師がよく経験するように、異言の賜物を経験しました。ご主人がアメリカ合衆国からウルグアイの伝道部長に召されたとき、彼女はスペイン語が話せるようになるだろうかと心配しました。しかし少しずつ、教会員の助けもあって、とう

とうスペイン語をで証あかしをすることができるようになりました。さらに、御霊の力を受けると、普段よりずっと多くのことを話せることに驚きました。「実際、集会で話すとき、御霊がとても助けてくれるので、わたしのスペイン語が実際よりもずっと上手だと教会員に思われてしまうのです。」

ある集会でグロー姉妹は、耳の不自由な姉妹のために手話ををしている若い姉妹に気づきました。グロー姉妹が立ち上がって話し始めると、「わたし自身の能力を超えて話す力を御霊が与えてくれたように思われました。わたしは人々に対する愛の気持ちに満たされ、特にその耳の不自由な若い女性がわたしを見ながらほほえんでいるのに気づきました。」

後で知らされたのですが、グロー姉妹が話し始めると、耳の不自由な女性は手話通訳の必要がなくなった、ということでした。彼女は手話通訳なしでグロー姉妹のメッセージを理解できたのです。

### 「天使の言葉で語る」

異言の賜物に関連したもう一つの賜物は、聖霊の力によって話す能力です。ニーファイはこのように書いています。「天使は聖霊の力で語る。」つまり、御霊の力で語る人は、「天使の言葉で語る」のです (2ニーファイ32:2-3)。

七十人名誉会員のカーロス・E・エイシー長老は、宣教師だったときにこの賜物に関して経験したことを次のように述べています。彼は同僚とともに、いさかいのために分割されたある支部を訪問しました。同僚はいさかいを解決するために開かれた集会で話すように頼まれました。ともに断食し祈った後、同僚は「自信をもってみんなの前に立ち、奇跡を行ったのです。彼の言葉はまさしく天使の言葉でした。あの未熟な若い長老の言葉が、彼よりはるかに年上の人々の心の傷を癒し、後悔を促し、文字どおり一つの支部を救うことになったのです。」(『聖徒の道』1988年8月号, 38)

わたしたちは、異言の賜物により劇的な経験をするのがないかもしれませんが、確かにわたしたちはほかの人のために奉仕しようとするとき、天使の言葉を語れるように主に助けを求めることができます。

- 異言の賜物は、教会全体にどのような恩恵をもたらしますか。
- 異言の賜物は、個人に対してどのような恩恵をもたらしますか。□



# 夫婦宣教師

## 「教会のかけがえのない働き手」

十二使徒定員会会員  
デビッド・B・ヘイト

夫婦宣教師は豊かな人生経験を生かして  
教会の伝道活動に大きく貢献することができる

十二使徒定員会のデビッド・B・ヘイト長老は伝道管理評議会の会長を務めています。最近行われた教会機関誌とのインタビューにおいて、ヘイト長老は夫婦で働く宣教師の需要が全世界で日増しに高まっていることを強調しています。それと同時に、夫婦で宣教師として奉仕することによって喜びにあふれた機会と祝福にあずかれることを指摘しています。

**中央幹部の兄弟たちはどのような理由から、すべての教会の夫婦は伝道に出ることを検討する必要があると考えているのでしょうか。**

わたしの経験からお話ししましょう。わたしは1963年にスコットランド伝道部の部長に召されました。着任して、伝道部内の全支部を訪問して分かったことは、教会員の多くは改宗してまだ日が浅く、教会の秩序について知り、教会員としてどのように生活すべきかを学んでいる途中である、ということでした。彼らは、教会で何をどのようにすべきか理解する必要がありました。そのため最も効果的な方法は、神権会や扶助協会についての知識や運営の仕方を十分に知っている教会員の模範を実際に目に見ることだと判断しました。そのときわたしは、社会の第一線から引退して、日当たりの良いベランダでロッキングチェアに座っている健康な人々が大勢いることを思い浮かべました。彼らはまだまだ生産的な仕事に携われる人々です。豊かな経験の裏付けがある引退した夫婦がスコットランドへ来て、支部の会員たちを助けてくれたらどれほど大きな成功を収められるか心に描いてみました。大きな貢献ができるはずでした。

そこで、引退してカリフォルニアに住んでいる何人かの友人に手紙を書きました。伝道に出るように、そして宣教師の申請書に任地としてスコットランドを希望すると書くように勧めました。7組の夫婦がわたしの勧めにこたえてくれました。

わたしは伝道部長として、夫婦宣教師を派遣してほし

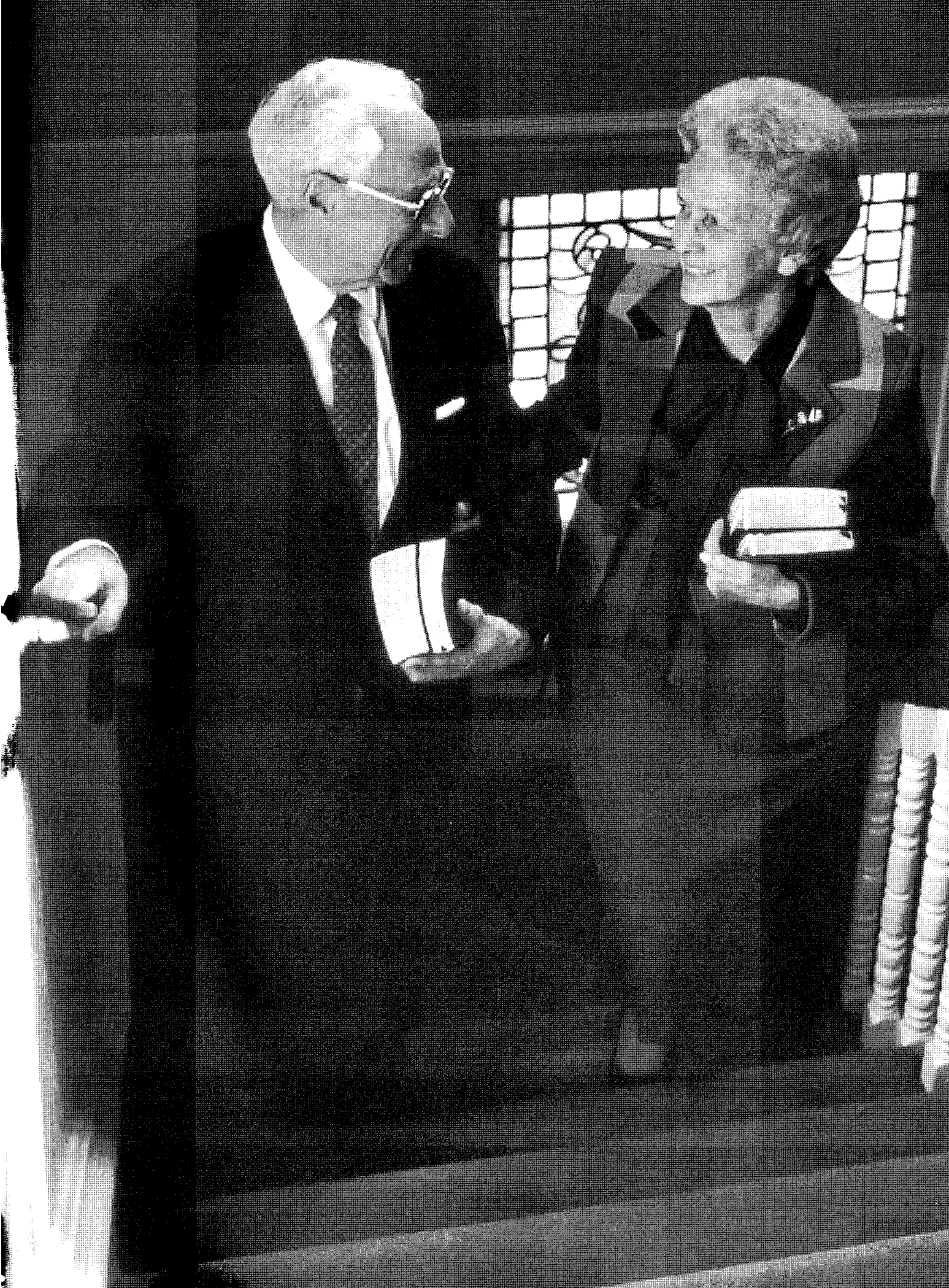
いと伝道管理部に手紙を書きました。宣教師の任地は中央幹部が靈感によって決めますから、カリフォルニアから出るこれらの夫婦がわたしと一緒に働くという保証はありません。しかし、うれしいことに7組ともスコットランド伝道部に召されました。そしてわたしは着任した彼らを各支部へ派遣しました。彼らはわたしが望んでいたとおりの働きをして、成功を収めました。そして、会員たちの力強い助け手となってくれました。

全世界の伝道部長は伝道部を強めるために、引退した夫婦の持つ円熟した分別と知識、熟練した技術こんじちを今日も必要としています。1963年当時わたしたちが夫婦宣教師を必要としていたのと同じです。彼らは伝道部に安定感を与えてくれます。若い宣教師に対して宣教師はいかにあるべきかを教えてくれる模範であり、円熟した物の考え方を教えてくれます。

**伝道地において夫婦宣教師ならではの貢献には、どのようなことがあるのでしょうか。**

引退した夫婦の多くは才能や能力を持ちながら、引退後はそれらを使う機会がありません。医師や歯科医など健康管理の特殊技術を持っている人々は常に必要とされています。学校の教師と農業経験者は特に有用です。

引退した夫婦は伝道に出ることによって自分たちの才能と賜物たまものをもう一度活用する機会を得られます。彼らは自分たちがほんとうに必要とされていることを知り、その結果として人生における新たな目標を見出すことができます。成長する新しい経験と機会を得た彼らは我を忘れて働きます。こうした奉仕の働きによって健康を取り戻したり、かつての活力を取り戻すという報酬を受けた夫婦をよく目にします。彼らは伝道のスピリットと、任地の人々に対する大きな愛を胸いっぱい抱いて帰還するのです。



### 現在何組の夫婦が伝道に出ていますか。

全世界で1,600組(3,200人)以上の夫婦が現在宣教師として働いています。夫婦宣教師を必要とする声は高まっているのですが、残念ながら伝道に出る夫婦の数は減少しています。

中央幹部を代表して申し上げたいのですが、社会の第一線を退いた夫婦の皆さん、伝道に出ることを真剣に考えてください。伝道部からの要請にこたえるためには、もっと多くの夫婦宣教師がどうしても必要です。現在、世界で318の伝道部があります。318人の伝道部長から夫婦宣教師を派遣してほしいという要請を受けていますが、現在のところこれらの要請の半分にすら応じられずにいるのです。

### 夫婦宣教師はどのくらいの期間働くのですか。

ごく一部ですが、12か月間の召しを受けている夫婦がいます。しかしほとんどの夫婦は18か月間か24か月間です。召しを一生懸命に果たすあまり、また幸福な生活から離れたくないという理由から任期を延ばす夫婦もいます。外国で働く召しを受ける夫婦は少なくとも18か月間は宣教師として働きます。

### 健康に関連する制約や年齢制限といったものはあるのでしょうか。

通常は70歳までの人が召されます。夫婦は健康状態が良好で、衰弱しやすい慢性の病気を持っていないことが条件となります。宣教師の申請書を提出する前に徹底した健康診断を受けていただきます。夫婦ともに健康であれば、年齢は問われない場合もしばしばです。

家庭に扶養しなければならない子供(年齢に関係なく)がいる夫婦や、出産が可能な年代の夫婦は召されません。**夫婦宣教師はおもにどのような責任を果たすのでしょうか。**

教会がまだ強くなっていない地域で、地元の指導者を訓練できる夫婦が最も必要とされています。夫婦宣教師は会員の活発化や新しい改宗者のフェロシップを手伝うこともできます。伝道本部で秘書の仕事をしたり、財政係、車両管理担当者、そのほかの責任を受けている宣教師もいます。特に教会の過疎地で働く夫婦宣教師はワードや支部の指導者として働く責任を受ける例もあります。地域社会における奉仕活動に携わる夫婦宣教師によって教会のイメージが大きく向上しています。

伝道部で働く宣教師のほかに、人数は限定されていますが神殿宣教師として働く夫婦もいます。家族歴史、広報活動、福祉、教会の教育事業、そのほか教会のいろ

んな分野で働く責任を受けている宣教師もいます。夫婦宣教師の働きが求められている分野は非常に多岐にわたっており、彼らは様々な活動を実施しています。

### 夫婦宣教師は若い長老や姉妹たちと同じスケジュールで働くのですか。

いいえ、夫婦宣教師は若い宣教師たちと同じように長時間にわたって働くことはありません。夫婦宣教師には多くの様々な才能があり、それぞれの長所と能力を生かして賢明に働いていただくこととなります。能力の限界を超えるような働きを求められることはありません。ほとんどの夫婦には年齢と健康上の理由から限界があります。定期的に休養を取る必要があれば、それも可能です。

### 夫婦宣教師も戸別訪問や街頭伝道をするのですか。

夫婦宣教師は戸別訪問や街頭伝道をしたり、レッスンを暗記したりするよう期待されていません。宣教師が希望する場合にのみ、戸別訪問や街頭伝道をする通常の伝道地域に割り当てを受けます。夫婦宣教師のほとんどは地元の神権指導者に協力して働いたり、あまり活発でない会員や改宗者に対して働きかけを行ったりすることがおもな務めになります。

### 夫婦宣教師は外国語の習得を要求されることがありますか。

ありません。しかしながら、夫婦宣教師が外国語の習得を希望するならば、外国語を話す地域への派遣が検討されます。

### 夫婦宣教師は任地を指定できますか。

宣教師の召しはすべて、主の僕への靈感を通して主がお与えになります。したがって、任地を夫婦の方から指定するのは正しいことではありません。ハワード・W・ハンター大管長は次のように言いました。「わたしたちはなぜ奉仕するのかを知れば、どこで奉仕するかは問題ではないはずです。」

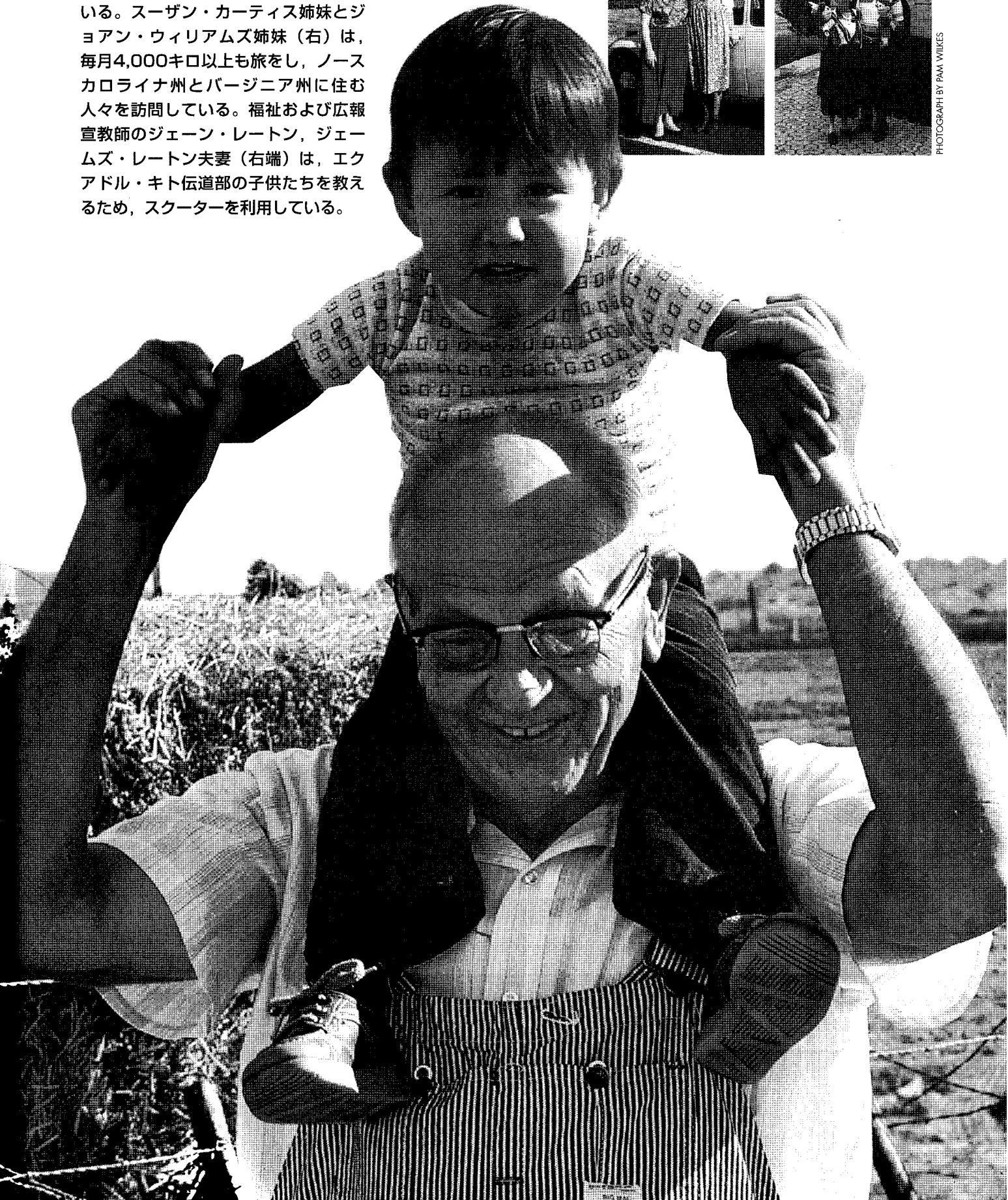
しかしながら、わたしたちは、どのような任務を希望するかを含めて宣教師候補者である夫婦についてできるだけ多くのことを知りたいと考えています。夫婦宣教師と姉妹宣教師は伝道を申請する際に、もう一種類別の用紙に必要な事項を記入することになっています。職歴、教育や訓練、語学、教会の責任、特殊技能、才能、関心を持っている事柄、趣味、制限される事柄、特別な状況などの情報を記入していただきます。年齢や健康状態とともにこれらの情報を参考にして、どのような任務を与えるかを決定します。特定の任務に関心を示す夫婦もいますが、最終決定はあくまでも中央幹部が下します。



宣教師の仕事は楽しい任務でもある。この写真（下）の夫婦は合衆国南西部においてアメリカ原住民の間で働いている。スーザン・カーティス姉妹とジョアン・ウィリアムズ姉妹（右）は、毎月4,000キロ以上も旅をし、ノースカロライナ州とバージニア州に住む人々を訪問している。福祉および広報宣教師のジェーン・レートン、ジェームズ・レートン夫妻（右端）は、エクアドル・キト伝道部の子供たちを教えるため、スクーターを利用している。



PHOTOGRAPH BY PAM WILKES





PHOTOGRAPH BY JERRY GARNIS

同僚として働く二人の姉妹宣教師、エディス・グリムストーン・アマラル姉妹とルース・グリムストーン・ズィング姉妹の顔には奉仕する喜びがあふれている。

**夫婦で宣教師として働くにはどれくらいの費用がかかりますか。**

費用は任地と夫婦がどの程度の生活水準を維持したいと考えているかによって様々です。夫婦は、申請書に自分たちの出せる金額、家族の出せる金額、ワードの出せる金額、その他の組織から受ける援助額を記入します。

**医療保険はどうなりますか。**

夫婦宣教師に継続しておいていただきたい事柄の一つが、出身地と任地の両方で通用する医療保険です。伝道中の医療費は本人負担となります。外国への伝道に召されて、医療保険が適用されない場合は、任地でも適用される保険をかけていただきます。

**夫婦宣教師は自分の車を伝道地へ持ち込む必要がありますか。**

母国の伝道部に召された夫婦で、車を所有している場

合は、自分の車を持ち込むように奨励されています。個人の車の保険料と維持費は本人が負担します。自分の車を持ち込むように要求されることはありませんが、赴任先の伝道部で夫婦宣教師のために車を用意できるという保証はありません。夫婦宣教師は、公共の交通機関を利用することもできます。

**様々な理由から伝道に出ることを恐れている夫婦がいます。彼らに何か提案することがありますか。**

わたしはこれまで多くの夫婦と話をし、非常に恐れを抱いている人々がしばしばいることを知っています。自分たちに責任を果たせるかどうかという恐れ、当惑させられるのではないかとという恐れ、階段を上らなければならないときにどうしようか、凍った道路で転ぶのではないか、そのほか多くの不安や恐れを抱えています。しかし実際には心配するようなことはそれほどないのです。状況を理解している人々が任務を割り当てるからです。伝道部長がそうですし、ステーク会長は伝道部長と相談して任務を決めます。これらの神権指導者は、ほかの人では埋められない部分を既婚者の宣教師が補ってく

れることを知っています。また彼らは、夫婦宣教師が立派に奉仕できる方法を数多く知っていますし、どうすれば夫婦が効率の良い働きができるかを理解しています。

「孫たちと離れたくない」と言う夫婦もいます。わたしはこのように答えています。「お孫さんはお二人が帰って来るときもそこにいます。お二人が伝道に出るときよりも2歳大きくなって、もっとかわいらしくなっていることが違うだけ<sup>あかし</sup>です。それよりも、伝道に出ることによってお二人の証を行動に移すという模範について考えてみてください。お孫さんたちが受け継ぐものでこれに勝るものがあるでしょうか。

わたしたちが抱く恐れは取り越し苦労であることが多いのです。わたしは幼いころ、アイダホ州オークレーに住んでいました。我が家に通じる長い道はポプラの並木がそびえていました。暗くなって帰宅するときはこのポプラ並木を早く通り過ぎようと必死に走ったものです。ポプラ並木の陰に何か潜んでいてわたしに襲いかかってくるのではないかといつも考えていました。もちろん昼間は、それが単なる空想にすぎないことをよく理解していました。恐れとはこのようなものです。わたしたちが不安を抱いていることの99パーセントは、現実には起こらないのです。

伝道を終えて帰還した夫婦から「つまらない経験でした」という言葉を聞くことはまずありません。実際にはそういう夫婦がいるかもしれませんが、わたし自身は一度も耳にしたことがありません。一度たりとも聞いたことがないのです。多くの夫婦はこう言います。「伝道に出て、人生で最大の感動を経験しました。」

**監督は多くの夫婦が伝道に出よう奨励する責任があるのでしょ**

そのとおりです。夫婦に伝道に出よう勧めるのは監督の責任であることを心に留めていただければと思います。監督は該当すると思われるすべての夫婦の一覧表を作成し、手もとに置いておくべきです。監督は彼らの家族、健康、経済的な状態について知っていなければなりません。そして、彼らを面接に招き、温かく親しい雰囲気の中でこう言います。「社会の第一線を退いたあなたがたは、王国の建設のために何か貢献することができるのではないのでしょうか。お二人は伝道に出ることをこれまでに考えましたか。」

わたしたちはだれに対しても強制しません。伝道に出なければならぬとは申しません。しかし、彼らを必要

としていると言います。今すぐに出られなければ、監督は半年後か1年後に出よう勧めることができます。一晩で決める必要はありません。宣教師は、教会でこれからもずっと必要とされるからです。

ある監督たちは夫婦がどのような生活をしているかをよく知らないために、伝道の話を持ち出すのをためらっています。そのような場合は、夫婦の方から監督のもとへ行って、こう言うのです。「わたしたちは準備ができています。」

監督と夫婦の間の意思疎通を良くする必要があります。しかし、監督には少なくとも、尋ねてみる責任があります。

**伝道に出たいと考えている夫婦に提案があればお願いします。**

まず、夫婦で折り、このことについて主に話してください。教会はこれから申し上げるメッセージをあらゆる人に伝えることを目的としていることを夫婦の皆さんに理解していただきたいと思います。すなわち、神が生きておられること、イエスが約束された救い主であり贖い主であられること、この教会は主が預言者ジョセフ・スミスを通じて末日に回復された教会であることです。伝道を考えている夫婦は、伝道の大切さと、自分たちが教会に対して貢献できることを理解する必要があります。

次に、夫婦は自分たちの家族、健康状態、経済的な状態について確認します。伝道に出るための環境が整っていることを確認できていて、もし監督からまだ話がなければ、二人は監督のもとへ行って、「監督さん、わたしたちは伝道について考えるべき時が来ていると思います。伝道についてお話ししたいのですが」と言ってください。監督はいたく感激して、それから先のすべてのことを手配してくれることでしょう。

中央幹部の兄弟たちはもっと多くの夫婦が教会のために全時間をささげて奉仕をするよう希望しています。多くの夫婦が必要とされています。毎年数十万人の新しい会員が教会に加わっています。彼らは経験豊かな会員から、自分たちを支え慰めてくれる言葉がかけられるのを待っているのです。

「主よ、み旨のまま行かん」(『賛美歌』172番)の歌詞をただ日曜日に歌うだけでなく、主が必要とされる所ならどこへでも行って奉仕するという自身の信仰の祈りとしたいものです。□

## 「わたしたちは人々のお役に立ちました」

ポール・コナーズ

ドイツのフランクフルトの北に位置するフリードリヒスドルフにおいて2組の夫婦宣教師が家族歴史プログラムを推進するために才能を発揮しています。ここフリードリヒスドルフには教会の家族歴史サービスセンターが設けられており、マイクロフィルムに収められた数百万の人口調査、出生、バプテスマ、結婚、死亡に関する情報が保管されています。これらの資料は要請があれば、ヨーロッパ全域に散在する250の家族歴史センターに転送されます。

最近、2組の夫婦宣教師がマイクロフィルム化されたファイルの発送と受け取りに関してほとんどすべての責任を担当することになりました。ドイツのマンハイム出身のマンフレッド・ヘクトレスと彼の妻でドイツ東プロシア、ケーニグスベルグ出身のカリンは、40年以上も昔に合衆国へ移住しました。二人が宣教師としてドイツへ戻ったのは、「ヨーロッパ中の人々が自分たちの家族歴史を見つけ出すお手伝いができたら素晴らしいと考えたからです」とヘクトレス姉妹が説明しています。

ヘクトレス夫妻は伝道のかかなりの時間を外出に充てています。各地の家族歴史センターを訪れ、支援するので。「家族歴史センターのディレクターや職員から質問があると、わたしたちは出かけて行って教会のコンピュータープログラムの利用法を指導します。こうした訪問の機会を利用して、マイクロフィルムとマイクロフィッシュの機器を修理したり、メンテナンスを行ったりすることもあります」とヘクトレス長老は話しています。

彼らは家族歴史セミナーの開き方の指導も行います。

ヘクトレス夫妻(左)とミューラー夫妻。



「わたしたちはステーションワゴンに機器を積み込んで、出張することもあります。教会の家族歴史プログラムに興味を持っている教会員や一般の人々を指導するので。」

ヘクトレス夫妻と一緒に働いているのは、ルディ・ミューラー、エリカ・ミューラー夫妻です。二人ともヨーロッパで生まれましたが、40年以上前に合衆国へ移住しました。

「わたしたちは1日に10時間から11時間くらい働いています」とミューラー姉妹は言います。「忙しい日になると、1日に1,000箱のマイクロフィルムを出し入れします。一つ一つの箱に番号を付け、コンピューターに入力するのです。」

ミューラー長老は「わたしたちは人々のお役に立っていることが分かって満足感を味わい、またとても幸福です」と述べています。

ミューラー夫妻は50回目の結婚記念日を「仕事中に」迎えました。けれども二人は、「主の業に携わっている間に金婚式を祝う以上に素晴らしい祝い方は」考えられないと言っています。

## 「人生で最も充実した日々」

ローランド・T・ミンソン

4年前のジョセフ・リッチーは臨終寸前の状態でした。カリフォルニア州フレズノの病院に入院したジョセフは白血病と診断されました。「この状態まで達している患者の85パーセントはあまり長く生きられません」と担当医から宣告を受けました。

「するとわたしは上位15パーセントに入っているわけですね」とリッチー兄弟は医師に言いました。「それで15パーセントの人々はどうなるのですか。」

「3年くらい生きる人もいます。5年の人もそれ以上生きられる人もいます」と医師が答えました。

「じゃあ、わたしはそうしましょう」とリッチー兄弟は言ったのです。

化学療法と注射の総攻撃を受けた「人生で最も耐え難い40日間」を生き延びた後、リッチー兄弟は回復しました。1年後、リッチー兄弟は妻のシャロンとともにイギリスのバーミンガム伝道部で働く召しを受けまし



た。リッチー夫妻は指導者としてまた通常の伝道活動の割り当てを受けた宣教師として働き、ほとんどの伝道期間をピータースボローワードで過ごしました。さらに夫妻は、求道者の一人にバプテスマを施し、またマーチ支部を確立するうえで大切な役割を果たしました。リッチー長老と姉妹は口癖のようにこう言っていました。「わたしたちは人生で最も幸福で充実した日々を過ごしています。」

しかし、その後リッチー長老の病状が非常に悪化し、治療を受けるために二人はフレズノへ帰りました。リッチー長老は一命を取り留めて、3か月後に夫婦で伝道地へ戻りました。二人はフレズノにいる間も、ある家族に福音を教え、伝道地に戻るときにはバプテスマの約束を取りつけていました。リッチー夫妻はイギリスへ戻って2週間後には、一人の母親とその娘に福音を教え、バプテスマを施しています。

しかしながら、リッチー長老は病気のために体力が極端に消耗していました。そしてついに白血病が再発しました。けれどもリッチー長老はフレズノに帰るまで宣教師として働き続けました。そして自宅に戻ったリッチー長老は愛する人々に見守られてこの世を去りました。

## 小さな島での大いなる機会

1994年の秋、ラモント・ジンゲリッチ、ジャニス・マクドウェル・ジンゲリッチ夫妻は子供たちに別れを告げ、ペンシルベニア州ピッツバーグの自宅を後にして、ユタ州のプロボへ向かいました。宣教師訓練センターに到着したジンゲリッチ長老と姉妹はそれから2週間にわ

たって、ジンゲリッチ姉妹の言葉によると「非常に大きな喜びと霊的な高まりを経験すると同時に肉体的には疲れる訓練集会と活動」に参加したのです。

9月15日、ジンゲリッチ夫妻はグアムへ出発しました。グアムに到着して簡単なオリエンテーションを受けた二人はさらに旅を続けて、クワージーレーン環礁に浮かぶ小島、イベイに着きました。長さ約1キロ、幅約110メートルのこの島にはおよそ1万3,000人の人々が住んでいます。

「わたしたちは夫婦宣教師として、できるだけ管理運営の責任や雑務を引き受けて、若い宣教師たちが伝道活動に最大限の時間を使うことができるようにしました」とジンゲリッチ長老は述べています。

しかしジンゲリッチ夫妻の活動はこれだけにとどまりませんでした。二人は1週間のうち2日間、島の病院でボランティア活動に携わりました。二人の働きが人々の目に留まらないはずはありません。事実、会員たちが集会所の建設を申請して1年後に、市長は建設を許可してくれました。ジンゲリッチ夫妻の社会奉仕活動が評価されたためです。市長は当初、教会員は島の人々にバプテスマを施すことだけしか考えないような人たちではないかと疑っていました。けれども市長は、宣教師たちが自分の時間をボランティア活動にささげるのを見て、彼らが地域社会と島の人々のことを本気で考えていることを知ったのです。

「夫婦宣教師たちは、あまり活発でない会員が教会へ戻って来るように助けています。そして大成功を収めています」とジンゲリッチ長老は話しています。「この伝道部で夫婦宣教師に関してたった一つ問題があります。それは、夫婦宣教師の数が不足しているということです。」□



# パレンケで再開され

マービン・K・ガードナー

1994年に勃発した市民の暴動が原因となって、メキシコ南部のチアパス州内の多くの地域で働いていた専任宣教師はほかの地域へ転任となりました。組織されて間もない幾つかの支部がこのために閉鎖されました。近くにある有名なマヤ遺跡と同じ名を持つパレンケの町の支部もこうして閉鎖されました。

それからおよそ2年を経て、パレンケに宣教師が赴任してきました。宣教師たちは支部を再開し、行方が分からなくなっている教会員を捜して活発化を図り、新しい改宗者にバプテスマを施し、会員たちに指導者として働くための訓練を行うというチャレンジに取り組んだのです。

最初に赴任してきた宣教師たちの中に、メキシコ・シティー・ラベラステークのアルボレイダワードから召

デ・ラ・クルス長老と姉妹は主と隣人に対して、また夫婦互いにあふれるばかりの愛を胸に満たしている。



ELDEN DE LA CRUZ  
HERMANO DE LA CRUZ  
MÉXICO  
PALENQUE  
ESTADO DE CHIAPAS  
CARRILLO

HERMANA DE LA CRUZ  
HERMANA DE LA CRUZ  
MÉXICO  
PALENQUE  
ESTADO DE CHIAPAS  
CARRILLO

# 業の主のた



PHOTOGRAPHY BY MARVIN K. GARDNER



マヤ遺跡へのピクニックを楽しむパレンケ支部の会員たち（上）；古代中央アメリカの雰囲気をとどめるこの地域は、訪れる人々の探求心を呼び起こすとともに、静かに瞑想（めいそう）するよう人々を啓発する。彫刻が施された神殿の頂上（下）に登るのは困難を極めるが、頂上からは、近くの宮殿（左）を望む息を飲むような景観が広がる（左）。



ホセ・フェリベ・エルナンデス・ホルヘ兄弟（左端）。ホルヘ兄弟はパレンケでデ・ラ・クルス長老（左）という友人を見いだした。ホルヘ兄弟は再び教会の集會に参加するようになり、デ・ラ・クルス長老の後任としてパレンケ支部（下）の支部長に召された。

されたバルトロメー・デ・ラ・クルス・レイエス長老とナタリヤ夫人がいました。「この夫婦は文字どおり支部を救ってくれました」とトュークストラ・グーティエレス伝道部のベンジャミン・デ・オヨス・エストラダ部長は語っています。二人の成功の秘訣は、主、同胞、お互いに対するあふれるばかりの愛に満ちた心でした。

「デ・ラ・クルス姉妹はわたしと歩いてくれます。そしてわたしも妻と一緒に歩んでいます」とデ・ラ・クルス長老は話します。「わたしたちは次のような気持ちを抱えています。それは兄弟姉妹、教会員か否かにかかわ

らずすべての人に対する大きな愛です。彼らが天の御父の子供であると知っているからです。」

デ・ラ・クルス夫妻は出会うすべての人に対して家族の一員のように接してきました。二人がパレンケに赴任してから数か月もたたないうちに、支部は大きく成長しました。赴任した当初はほんの一握りの人しか出席していなかった聖餐会は、毎週平均で50人を超す出席者で埋められるようになったのです。やがて、集會を開いていた借家では手狭になったため、支部はさらに大きな建物に移転することになりました。





ロシオ・フローレス・ロハス姉妹(右)。ロシオはデ・ラ・クルス長老夫妻から示された友情のぬくもりに逆らうことができなかった。ロシオは遺跡近くの奥まった場所に位置する小さな池(右端)でバプテスマを受けた。ここは支部の会員たちがマヤのピラミッドに登った後、涼を取るために訪れる場所でもある。



支部に加わった「新しい」家族の中に、ホセ・フェリペ・エルナンデス・ホルヘと妻のマグノリヤがいます。8年前にメキシコのメリダでバプテスマを受けた二人は2年前にパレンケに引っ越してきましたが、その後、だれと連絡を取ることもなく教会から足が遠のいていました。「6、7か月前に、デ・ラ・クルス長老と姉妹はわたしたちを捜し出してくれました。そして、友達になりました」とエルナンデス兄弟は説明しています。「それ以来、ずっと教会に出席しています。」そしてわずか数か月後に彼はデ・ラ・クルス長老の後任として支部長に召されました。

15歳のロシオ・フローレス・ロハス姉妹も新たに加わった会員です。「わたしの母がデ・ラ・クルス長老と姉妹からレッスンを受け、そしてバプテスマを受けました。わたしは最初のころはバプテスマを受ける気持ちがありませんでしたが、二人はあきらめずに訪問し、神の御言葉について話してくれました。だれに対してもそうですが、二人はわたしに大変よくしてくれました。やがて、二人のメッセージが真実であることが分かり、先週の日曜日にバプテスマを受けました。デ・ラ・クルス長老と姉妹がわたしたちと永遠に一緒にいてくれることをわたしたちは何よりも願っていますが、伝道を終えたら、二人には家族のもとへ戻る権利があります。」

デ・ラ・クルス長老は伝道に出るために、定年を迎える前に退職しました。デ・ラ・クルス長老は姉妹とともにメキシコ・シティーで開かれた集会に出席したのが伝道に出るきっかけとなりました。その集会で、七十人のリノ・アルバレス長老から夫婦で伝道に出よう励ます話を聞いたのです。早期退職することで退職金が幾らか少なくなりましたが、デ・ラ・クルス長老と姉妹は、今こそ伝道に出る時だとささやく御霊の声を感じまし

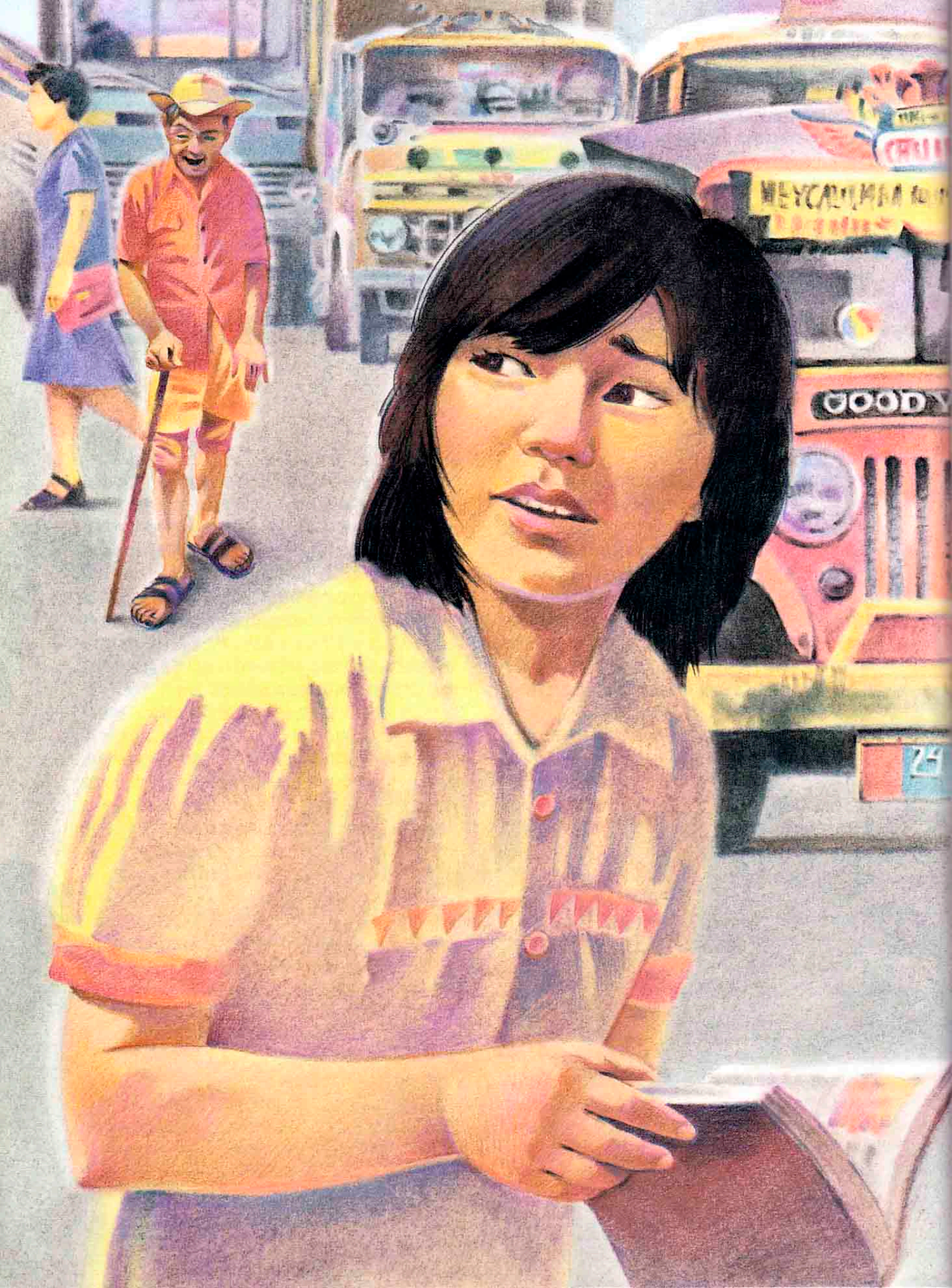
た。「退職金が少なくなったのは事実ですが、天の御父はそれ以上のものを下さいました。わたしたちは天の御父に対して抱いている気持ちを兄弟姉妹と分かち合うことを決意しました」とデ・ラ・クルス長老は当時の心境を語っています。

「パレンケの兄弟姉妹と親しくなり、彼らに教えること、そして大勢の人々を教会に迎えることは、わたしにとって大きな幸せであり、喜びです。わたし自身も彼らと一緒にいることによって強められていると感じています」とデ・ラ・クルス姉妹は話しています。

デ・ラ・クルス長老と姉妹は伝道に出る前に、年老いた両親、二人の間に生まれた9人の子供たち、そして孫たちを集めて家族会議を開きました。彼らは全員が教会の会員です。出席したそれぞれの家族から励ましと支援の言葉がかけられました。「わたしたちは家族を主の御手にゆだねて出発しました。主は家族を守ってくださいました。家族全員が元気になっています。わたしたちが奉仕していることが彼らにとってどれほど幸せなことをよく手紙で知らせてくれます」とデ・ラ・クルス姉妹は述べています。

最近、パレンケ支部でマヤ遺跡へピクニックに出かけました。デ・ラ・クルス長老と姉妹はその日の午後、教会内外の人々と語り合い、若人と談笑し、子供たちと一緒に遊びました。「パレンケ支部は大きな成長を遂げてきました。そしてすばらしい未来が待っています」とデ・ラ・クルス長老は語っています。

デ・ラ・クルス長老は優しく妻の手を取って、ほほえみかけると、「わたしたちには力不足の点があるでしょうが、自分たちにできる限りのことをしています。そのうえで力が及ばない部分は主が補ってくださいます」と話してくれました。□



# 盲人から学んだこと

ローヘリン・セリス

わたしはフィリピン諸島の島の一つ、ネグロス島のバコロドに家族とともに住んでいます。我が家は障害者のためのリハビリセンターのすぐそばにあります。

1992年、わたしが6年生のときに起きた出来事は、これからも忘れないでしょう。その日わたしは、昼食を食べに家に帰り、学校へ戻ろうと急いでいました。道路を渡っているとき、地元の専門学校の一つである看護学校の生徒たちを見かけました。その生徒たちは何やら笑っていました。やがてわたしは、一人の盲人に気づき、彼らが笑っていた理由が分かりました。わたしが道を渡り終えたとき、その盲人はわたしのすぐそばに立っていました。

わたしはそこでジープニー（フィリピンの人々が利用する交通機関）が来るのを待たなければなりません。盲人はわたしがそこにいるのに気がついて、「すみませんが、タクシーを呼んでいただけませんか」と大声で呼びかけてきました。

どういうわけか、困惑と気恥ずかしさを感じました。もしわたしがこの人を助けたら、道の向こう側の学生たちはわたしのことも笑うのではないか、と思いました。それにわたしは、この男性が怖かったのです。彼は、目が不自由なだけでなく、ほかにも障害がありました。半身不随のようでした。わたしは、その人から一歩離れました。わたしはこう考えました。「そっと立ち退けば聞こえないわよ。隣にだれかが立っているみたいだったけど、勘違いか、と思ってくれるわ。」

でも、そううまくはいきませんでした。わたしが少し離れてからも、その人はわたしがまだそこにいると知っていたのです。そして、何度も頼んできました。わたしは、少しでも物音を立てないように努めました。「息を止められたらなあ」と思ったほどです。

ジープニーが近づいて来るのを見たときには、ほっとしました。わたしは急いでジープニーに乗り込み、その盲人を道に置き去りにしました。「さっきのことはだれも知らない。」わたしはそう自分に言い聞かせました。「あのひとわたし以外はだれも知らない。それにあのひとだって、わたしがだれかも知らないんだもの。」でも、わたしは自分がとても不親切だったことを痛感していま

した。

学校に着いてからも、あの盲人のことが頭から離れませんでした。授業に集中しようとしたのですが、わたしの心は乱れていました。「だれも知らないんだ。あれがわたしだったなんて、あの盲人に分かるはずがない。」放課後家に帰ると、わたしは今日の出来事を母に話すことにしました。「まあ、どうしてそんないい機会を逃してしまったの」と母は言いました。「いつも見ておられる御方がいらっしゃるのよ。わたしたちが助け合うようにと望んでおいでになる御方がね。」

それからしばらくして、妹のことを考えました。妹には精神的な障害があります。だれかが妹をあんなふうに扱ったら、わたしはどう思うだろうか。自分のしたことを考える度に、後悔の涙が出ました。

高校1年生のとき、過去の過ちを正す機会が与えられました。あのときと同じように、わたしは道路を横断しようとしていました。とても急いでいました。幼なじみの友達が道の向こう側を歩いていたので、追いついて話したかったのです。わたしは彼女の名前を呼びました。

すると驚いたことに、後ろから聞き覚えのある声がするのです。振り返ると、あのときと同じ盲人が立っていました。わたしが友達の名前を呼んだのを聞いたのでしょう。もちろん、わたしがかつての不親切な女の子だったとは、気づくはずありません。そして、あのときと同じように、彼はわたしに手助けを頼みました。

今度はためらうこともなく、タクシーを呼び、その男性が車に乗り込むのを手伝いました。彼は短くお礼を言いました。彼を乗せたタクシーが走り去って、道の向こう側を見ると、友達の姿はもう見えませんでした。でも気に留めませんでした。天の御父が再びあの男性を助ける機会を与えてくださったことが、わたしにはとてもうれしかったのです。

わたしは今高校3年生ですが、あの盲人から学んだことをずっと覚えています。神はわたしたちすべてを愛していらっしゃる。自分の行いは自分以外はだれも知らないと思っても、どんな選択をしたか神は御存じです。そして、わたしたちが正しい選択をするよう、いつも喜んで助けてくださいます。□



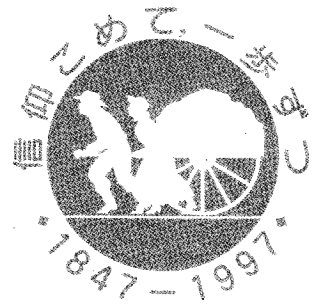
プノンペン・



# カン

上—バプテスマを受けたカンボジア人の教会員とゴードン・B・ヒンクレー大管長(中央)。右側は、十二使徒定員会のジョセフ・B・ワースリン長老と七十人のジョン・H・グローバーク長老。左下—日没時のプノンベン。右下—教会がカンボジアの門戸を開くのに貢献したピット・イト兄弟。





# カンボジアに 根を下ろす福音

リランド・D・ホワイト, ジョイス・B・ホワイト

「カンボジアの教会には洋々たる前途があります。」ゴードン・B・ヒンクレー大管長はカンボジアで開かれたあるファイヤサイドでこう語りました。この集会には439人ほどの地元の末日聖徒と教会外の来賓が出席していました。

翌日、1996年5月29日に首都プノンペンのメコン川のほとりで、ヒンクレー大管長は約960万の人口を擁するアジアのこの国を、福音伝道の地として奉献しました。

ヒンクレー大管長は「今は一握りの数の会員が、何百、何千、さらには年

とともに何万という人々が主の教会に改宗し、大なる軍勢とならんことを」と祈りました。

その「一握りの数の会員」の中には、ピチット・イト兄弟のような開拓者もいます。改宗者である彼は、教会がカンボジアで正式な承認が得られるように尽力した人物です。

「教会はカンボジア人に、靈性を求めるための方法を提供しています。過去20年間、多くのカンボジア人はそのようなものとはほとんど無縁な生活をしてきました。」イト兄弟はこう語っています。「教会の教えは、ほかの何



支部のクリスマスツリーのデコレーション作りをする少女たちを助ける若い女性会長のティエンニー・レット姉妹。

# ボジニア

右——訪問した預言者ヒンクレー大管長のメッセージに聞き入るカンボジアの聖徒たち。人力車サイクロで教会に集う若い女性たち。



よりもわたしを助けてくれました。わたしは自分の家族の生活をもっと大切にするように教えられていますし、戒めを守るように努力しています。」

1970年代以来、世界各地にいたカンボジア難民が教会に加入するようになりました。事実、世界中のあちこちの町にカンボジア語を話す人々のためのユニットがあります。しかし、1993年1月に至るまで、カンボジア本国に福音が正式に伝えられることはありません

でした。ラリー・R・ホワイトはタイのバンコク伝道部の部長の任にあったときに、カンボジアの宗教状況が好転しているという報告を耳にしました。七十人のジョン・K・カーマック長老（当時、アジア地域会長会の副会長の任にあった）とイト兄弟（当時、タイに在住）、ホワイト部長がカンボジアに入国し、政府の代表者に人道的救援活動を開始できるかどうか、その可能性を尋ねました。そして、肯定的

な答えを得たのです。

彼らの訪問は時宜を得たものと思われました。カンボジアの政治・社会状況は、1953年にフランスからの独立を果たして以来不安定な状態が続き、時にはきわめて悲惨な時代が続いたこともありました。やがて1991年になって、国際連合が後押しするカンボジア和平協定が調印されるに至りました。1993年に教会の代表者たちが最初に訪問した直後に、総選挙が行われ、民主主義と国家の再建に向けて大きな進展への準備が整いました。このとき、イト兄弟は新しく選ばれた首相の特別顧問の任を受けました。（現在、彼はカンボジアの国営航空会社の社長、カンボジア投資委員会事務局長の任にある。）彼の影響力は、教会指導者の働きに計り知れないほど貴重な助けをもたらしました。

カーマック長老とホワイト部長はすぐにカンボジアへ戻り、正式な認可を求める教会の申請書を提出し、夫婦宣教師の活動のための手配をしました。夫婦宣教師の活動は、英語を教えたり、教会員から寄付された衣料品の配送手続きをしたり、また理工大学のプロジェクトへの参加、福音の伝道などを通して、カンボジアの人々を援助することが目的でした。

教会への正式認可は1994年3月に下りました。そして3月中に、インドのマドラスで夫婦宣教師として働いていたユタ州ローガン出身のドンナルド・C・ドブソン、シャーリーン・ドブソン夫妻が、カンボジア最初の宣教師としてプノンベンに赴任してきました。1994年3月27日に、6人の教会員と9人の求道者が出席して、ホテルで教会最初の集会が開かれました。そして1994年5月9日に、バル・マオ姉妹がカンボジアで最初にバ



上——改宗者セン・スオン兄弟は、4組の末日聖徒夫妻がアドバイザーとして働く王立農業大学の学生である。右——賛美歌の指揮をするフン・ホン・ハン姉妹。





上—プノンペン市内の典型的な風景。静かな蓮の池の周囲に家が建ち並ぶ。  
 左上—プノンペン第1支部と第3支部の集会所。中央—1847年の末日聖徒のソルトレーク盆地到着記念行事を行うカンボジアの現代の開拓者。右上—プノンペンの支部で初等協会会長の責任を受けているカンボジア人改宗者アン・チャー・マリン姉妹にとって、教会は「輝く太陽」のような存在となっている。



プノンベン第1支部の若い女性会長ティエンニー・レト姉妹。

ブテスマを受けて教会員となりました。

間もなく、人道的救援活動を行う夫婦宣教師が派遣され、さらにアメリカ合衆国のカンボジア人伝道部から4人の若い専任宣教師が赴任してきました。

それから3年を経た現在、プノンベン市内の4つの支部（3つのカンボジア人支部と1つのベトナム人支部）には400人以上の会員が集っています。これらの支部は、必要に応じて夫婦宣教師の助けを得ながら、地元の会員が指導者となって運営されています。アメリカ合衆国から来た4組の夫婦宣教師は王立農業大学のアドバイザーとして、2組は英語を教え、もう2組は農業経営計画での援助を行っています。彼らは、通常の伝道活動に携わる15人の宣教師とともに、今年組織されたカンボジア・プノンベン伝道部に所属しています。またこれまでに、カンボジア生まれの最初の宣教師として5人が召されています。リャン・チャイ・ス

イ長老は現在、アメリカ合衆国のアイダホ州ポテカロ伝道部で働いています。

最初の伝道部が設立される以前、カンボジアはタイのバンコック伝道部の管轄下がありました。7月にタイでの召しを終えたトロイ・リー・コリビュー前伝道部長は、ヒンクレイ大管長がカンボジアを訪問した後の何か月かで、会員数が飛躍的に増加したと話しています。「その後の2か月間、<sup>ひとつき</sup>一月に約40人の改宗者がありました。その多くは独身者ですが家族全員でバプテスマを受けた人たちもいます。幸せそうな顔をした両親が子供を連れて教会に来るのを見ると、とてもうれしくなります。

この地の聖徒たちは、福音とそれが彼らの生活にもたらした祝福、特に神殿における永遠の祝福の約束を喜んで受け入れています。聖徒たちにとってフィリピンのマニラ神殿まで行くことは、経済的に大きなチャレンジです。しかしわたしたちは今年カンボジアの

教会員が最初の神殿訪問をする時を楽しみにしています。

カンボジアの教会の初期に改宗した会員の一人に、18歳のベトナム人フン・ホン・ハン姉妹がいます。彼女は英語を学ぶことに興味を持ったのがきっかけで、1994年7月に初めて教会の集会に出席しましたが、その後間もなく福音に帰依しました。彼女は「福音が正しいということが分かりました」と話しています。

もう一人の初期の改宗者であるカンボジア人、アン・チー・マリン姉妹は1995年5月に教会員となり、オーストラリアに移住するまで、支部の初等協会会長として働きました。彼女は、自分は長い間、神については何も知らない生活をしてきたと回想しています。「でも今は、この教会が真実であることを知っています。わたしにとって教会は輝く太陽です。」

改宗してから約1年のセン・スオン兄弟は、宣教師に最初に会ったときは大学生でした。「わたしは、『モルモン



書』と教会が真実かどうか、ジョセフ・スミスが預言者かどうかを知るために祈りました。真夜中ごろだったと思います。その答えを受けました。目が覚めて、すべてが輝いて見えました。そのすべてが真実だと感じました。」

カンボジアの若人の一人、ティエンニー・レト姉妹は2年前に求道者として教会のことを学んでいたとき、自分が祖先崇拜をやめたら家族の感情を害するのではないかと心配でした。しかし意外にも、両親は彼女の新しい信仰と生き方を寛容に受け止めてくれました。「両親の愛をととても強く感じています。父も母も断食のようなわたしが始めた生活習慣を尊重してくれて、一緒にお茶を飲むことも今は求めてきません。」今彼女は支部の若い女性の会長をしています。

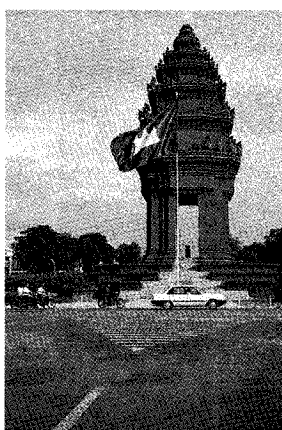
カンボジア人初の支部長オム・ボリン兄弟は2年前に奥さんのサマイ姉妹

と一緒に教会に加入しました。彼は次のような話をしてくれました。「ある晩、妻が夢を見ました。二つの星が我が家に降りて来る夢でした。その後、二人の宣教師が我が家にやって来ました。それでわたしたちは、夢に出て来た二つの星はこの長老たちを象徴しているのだと思いました。わたしはこの教会がキリストの真実の教会であることを知っています。」

ハー・フーク・タク兄弟と奥さんのウィン・ティ・ホン姉妹は約3年前に改宗したベトナム人の夫婦です。彼らは1990年に、多くのベトナム難民を乗せて海を行く舟の中で、3人の10代の子供をすべて亡くしてしまいました。この悲しい出来事があったにもかかわらず、二人は福音を聞いたときに、それを受け入れました。その出来事があったからこそ受け入れたのかもしれませんが。自分たちのバプテスマについて

ハー・フーク・タク兄弟は「わたしたちの生活は変わりました。霊的な変化です」と話し、奥さんはそれにこう付け加えました。「すべての人が祈るようになってほしいと願っています。神様は祈りにこたえてくださるからです。」タク兄弟はベトナム人支部の副支部長、ホン姉妹は扶助協会会長の責任を受けています。いろいろな苦勞をしているのに、どうしていつも笑顔でいられるのか、と尋ねられる度に、夫妻はこう答えます。「今わたしたちは幸せだからですよ。」

この二人の思いは、これから先福音を受け入れる数多くのアジア人の心の琴線に触れることでしょうか。ヒンクレー大管長はカンボジアの奉獻の祈りの中で、「この地と民のうえに主の祝福があり、人々が繁榮し、また一致して、主の御業が榮える」ようにと求めました。□



左上——カンボジア生まれの最初の宣教師、リャン・チャイ・スイ長老。右上——ブノンベンの独立記念碑。右——ベトナム人改宗者ハー・フーク・タク兄弟と奥さんのウィン・ティ・ホン姉妹（右）。支部の会員たちとともに。



# ぼくのイルカ

アイザック・ビメンテルがエリザベート・サムウェーズ・ゲートナーに語った言葉を基に編集

ILLUSTRATED BY GREGG THORKEISON

**毎**年、ぼくの家族はブラジルのパラナーにあるマ  
ティーニョス近くの浜辺で、クリスマスを通  
します。ぼくたちは11月になると旅支度を始め、12月は  
クリスマス休暇の興奮に胸躍らせることで何とか暑いこ  
の季節を乗り切ります。

その旅行がそれほどわくわくする訳は、海で遊べるか  
らというだけではありません。全員が信仰篤い末日聖徒  
である、父方の親戚が一堂に会するときでもあるのです。  
ぼくの祖父母はずっと昔に改宗し、父も母も教会員とし  
て生まれました。

ぼくが13歳になった年の旅行は特に忘れ難いものでし  
た。

1994年12月22日、たくさんの準備を済ませ、ついに大  
きなビーチハウスに到着し、祖父母やいとこ、おばやお  
じに会いました。

「やあ、アイザック。」いとこのチャールズが話しか  
けました。「海を見に行こうよ。」

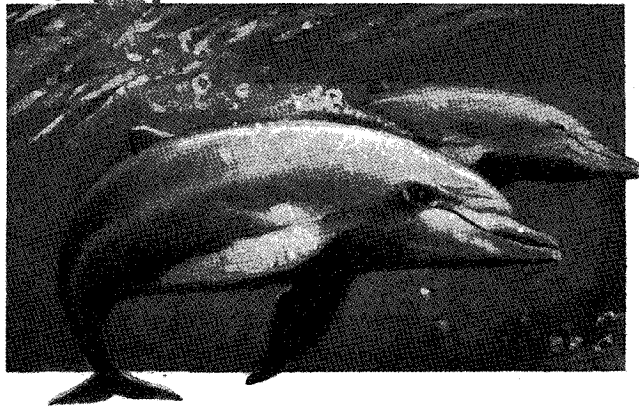
「ああ、行こう。」ぼくも興奮して大声で返事をしまし  
た。首を長くして待った休暇を一瞬たりとも無駄にした  
くありませんでした。

海辺に出かけようとする時、「あまり遠くへ行っは  
だめよ。チャールズと一緒に浅瀬にいるのよ」と母が釘  
を刺しました。

でも一度海に入ると、ぼくたちはうねる波を追いかけ  
始め、次第に沖の方へ向かっていた。気がつくと、  
浜辺からずっと遠くに来ていました。突然、チャールズ  
が言いました。「アイザック、ここは深いよ。深すぎて  
足が届かないんだ。」

「戻ろう。ぼくも届かない。それに、この潮に逆らっ  
ては行けそうもないよ」と答えました。チャールズはぼ  
くよりも怖がっているようでしたが、実はぼくもこの先  
どうなるのかと思うと怖くなっていました。

浅瀬にたどり着こうとしているうちに何分かつちました  
が、もがけばもがくほど遠くに流されているようでした。



波間から見渡すと、ぼくたちは浜辺からはるか沖にいましたし、たくさんの方がぼくたちを見つけようと、浜辺を行ったり来たりしているのが見えました。その瞬間、ぼくは母のことを考えました。ぼくが言い付けを守らなかったで腹を立て、そして戻って来ないのを心配していることでしょうか。父がまだ仕事で、浜辺に来ていなくてよかったと思いました。父がここにいたらどんなにしかられていたことでしょうか。それにしても、家族と一緒に無事に浜辺にいられたらと心から思いました。

ぼくはもがきながらも、チャールズに叫びました。「あきらめちゃだめだよ。水面から顔を出しているんだよ。」彼もぼくを励ましてくれました。やがて、救助員の姿が大海の向こうにぼつんと見え、助けに来てくれるのが分かりました。ぼくは「助かったぞ」と叫びました。

でも、ほっとしたのもつかの間で、救助員がチャールズを見つけて浜辺に連れ戻すことがどれほど大変なことか分かりました。一人残されたぼくは、潮流によってどんどん沖へ流されて行きました。とても疲れてしまって、ほとんど息ができませんでした。そのときです。両親から教わった言葉を思い出しました。「信ずる者には、どんな事でもできる。」(マルコ9:23)

両親と天の御父を信じて、ぼくは祈り始めました。イルカを送って助けてくださるよう、天の御父にお願いしたのです。イルカが現れて、そのひれをつかめば、ぼくは助かると思いました。ぼくは自分の願いを少しも疑いませんでした。祈りがこたえられることを知っていました。そして、必死で待ちました。

それからぼくはすぐに体力を使い果たしてしまい、鼻を水中深くに沈めては、慌てて海面に上がって来るという状態でした。でも、希望と忍耐を、一瞬たりとも捨てませんでした。ぼくは闘い続けました。

そのころ、チャールズは無事、浜辺にたどり着いていましたが、とてもひどい様子でした。皆はチャールズにぼくのことを尋ねました。彼はただ泣くばかりでした。

浜辺の人々は、波間にぼくを見つけ出そうと懸命でした。

浜辺の反対側から、二人の救助員がこちらに向かって来ました。その方が救助しやすいと判断したのでしょうか。彼らがやって来たとき、ぐったりしながらも、祈りがこたえられた、と感じました。二人の勇ましい男性は、その絶望的な状況にあってもあきらめませんでした。彼らはぼくにとって、待ち焦がれたイルカだったのです。この救助員たちがぼくにこう言ってくれたのを覚えています。「安心して、もう大丈夫だよ。」

浜辺にたどり着くと、ぼくは担架に乗せられて、救護所に連れて行かれました。浜辺の反対側から見ていた人々には、動かないぼくの体しか見え、ぼくがおぼれ死んだものと思われました。

母はすぐにぼくのところへやって来て、まだ息をしていることを知りました。母の顔を目にし、どんなにうれしかったことでしょうか。こうして生きていることは何とすばらしいことでしょうか。

「しかし君はほんとうに運が良かったよ」とお医者さんは驚いたように言いました。「君の肺には一滴の水も入っていなかったんだ。水難事故に遭って、こんなに運の良かった例は初めてだよ。」

母はお医者さんの方を見て、「運ではありません」とはっきり言いました。運ではなく、主がぼくを救ってくださったことを、母は知っていたのです。

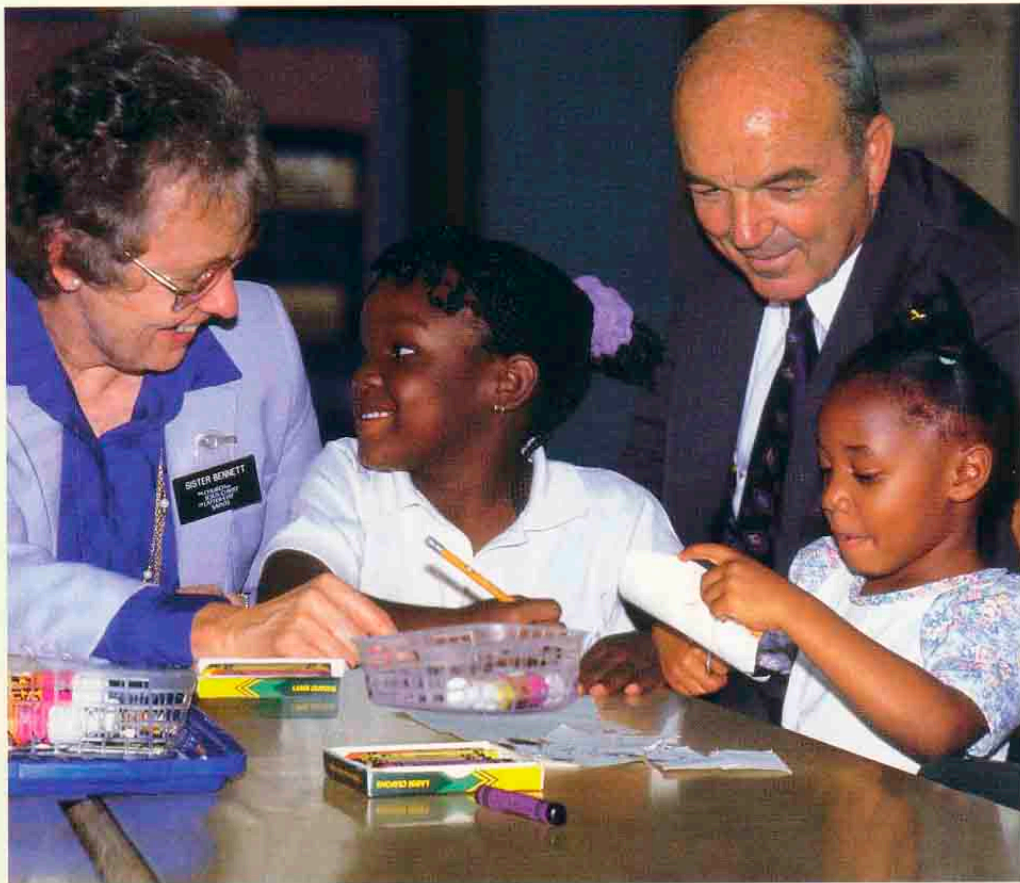
両親はいつもぼくに信仰を持つように教えてくれました。彼らは、困難に陥ったら天父に頼るよう、模範を通じて教えてくれました。ぼくはその日、不従順なときにはいつも当然の結果が、時にはとても重大な結果が待っていることを知りました。でもそれと同時に、最悪の状況にあるときでさえも、信仰と祈りにより耐え抜く力が与えられることを学びました。信仰をもって願うなら、天の御父は祈りにこたえてくださいます。必ずしも自分の望む方法ではないかもしれませんが、いちばん必要な方法でこたえてくださるのです。□



「来て、預言者の声に耳を傾けなさい」 グレン・エドワーズ画

1847年、ブリガム・ヤング大管長は開拓者の先発隊であるイスラエルの陣営を率いて、グレート・ソルトレーク盆地への旅をした。  
1847年1月14日、主はヤング大管長への啓示を通して聖徒たちに指示をお与えになった。「末日聖徒イエス・キリスト教会のすべての民……は、  
主なるわたしたちの神のすべての戒めと掟を守るという聖約と約束をもって、部隊を編制しなさい。」(教義と聖約136:2)

Courtesy of the Museum of Church History and Art; from the Fourth International Art Competition.



LEFT: PHOTOGRAPH BY PEGGY JELINGHAUSEN ; BELOW, RIGHT: PHOTOGRAPH BY JERRY GARNIS

「中央幹部を代表して申し上げたいのですが、社会の第一線を退いた夫婦の皆さん、伝道に出ることを真剣に考えてください。伝道部からの要請にこたえるためには、もっと多くの夫婦宣教師がどうしても必要です。現在、世界で318の伝道部があります。318人の伝道部長から夫婦宣教師を派遣してほしいという要請を受けていますが、現在のところこれらの要請の半分にすら応じられずにいるのです。〔伝道に携わる夫婦宣教師たちは、〕自分たちがほんとうに必要とされていることを知るでしょう。」(デビッド・B・ヘイト長老「夫婦宣教師——『教会のかけがえのない働き手』」26ページ参照)

